

鎌倉アカデミア

ἀρεωμέτρητος μηδεις εἰσὶτω

H. Suigusa

一、プロローグ	1
◆ さいさつ 鎌倉アカデミアの軌跡	1
◆ スタートは材木座光明寺	2
◆ 古野秀雄の“万葉集裸講義”	3
◆ 高見順の小説モデルに	4
二、創立の頃	5
三、鎌倉アカデミアとなる	12
四、大学の運営記録	18
五、授業風景	28
六、教授と講師たち	38
七、学内同人活動	47
◆ 演劇同人かもめ会	55
八、思い出の一幕	59
◆ 鎌倉大学一周年記念祭	59
◆ 春の目ざめ	63
◆ 卒業式	67
◆ 同窓会	71
九、卒業生のプロフィール（一部）	77
アカデミア60年を生き	77
十、鎌倉大学（アカデミア）略年表	86

「あいさつ 鎌倉アカデミアの軌跡

昭和21年、太平洋戦争が終わり、日本中が廃墟の中から立ち上がりとしていた時、海と山に囲まれた静かな町鎌倉でも新しい文化と生活を求めて人々があわただしく動き始めていました。GHQの占領下、緊迫した空気のなかで「鎌倉に大学をつくらう」と壮大な夢を描き、鎌倉の進むべき道を考えた人々がいました。しかし、この夢の実現には多くの困難が待っていました。文学科、産業科、演劇科、映画科を設け、最初は材木座光明寺を仮校舎に学園を創立し、2年後には旧大船燃料廠跡に移り、学校経営に全力を注ぎました。しかし、わずか4年半の歳月をもつて幕を閉じました。

ところが、そこに集った教授知識人と若者達は、戦争中の空白を埋めるべく熱い思いをぶつけ合い、貧しさのなかで真理探究と芸術創造の歩みを始めました。その時の「出会い」が彼らの一生を支え、今もその水脈は広く世界を潤しています。

尊敬すべき教師達との出会いを糧に卒業生達が様々な分野で育ててこられたものを語りつぎ、次の世代に手渡す時になりました。鎌倉市民が作った「鎌倉アカデミアを伝える会」は、ゆかりの地材木座光明寺で「鎌倉アカデミア60周年」(2006年5月)・「70周年記念祭」(2016年5月)を開催し、その間毎年、市民と語る集いを開いてまいりました。イベントと展示に多くの方のご参加をいただきました。大本山光明寺様ならびに卒業生の方々、市民の方から多大なご協力、ご協賛をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

今回はその中から展示「鎌倉アカデミア60年の軌跡」を中心に、鎌倉市図書館ホームページで公開することになります。

2020年5月

創立記念月五月にちなんで

鎌倉市中央図書館近代史資料室

鎌倉アカデミアを伝える会



桜咲く(開校当時の開山堂全景)



鎌大教授陣(創立1周年記念祭 光明寺池端で)



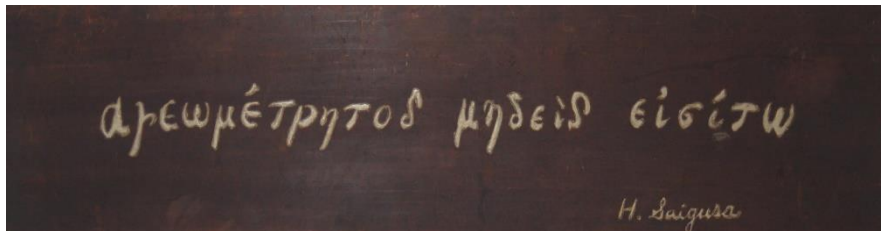
鎌大校章
(帽章バッチ)

一. プロローグ

◆ スタートは材木座光明寺

「授業開始の五月一四日(火曜)の朝、……そそりたつ壮大な二層の山門をくぐると、いちめんの新緑であつた。開山堂や庫裏のあたりもあふれるような緑であつた。折りしも雲間から陽がさしこんで、樹々の緑の一つ一つがきらきらと眩しい光をはなつて輝いていた。それは見上げるような山門だつた。私は思わず立ちどまつて見つめた——これは私にとってはじめて見る青春というものの光景であつた。戦争という暗い修羅をくぐりぬけてはじめて得たかけがえのない眺めなのだと思つた。そして、これからは私自身のための新しい頁を開くのだと思つた。」

広澤榮『わが青春の鎌倉アカデミア』（岩波同時代ライブラリー）1996年



三枝校長は、白木の板にプラトンの言葉「幾何学をまなばざる者はこの門に入るべからず」と彫り、本堂と開山堂の渡り廊下の鴨居に掛けた。ギリシャ語で彫られたこの箴言は、長い戦争をくぐる抜けた若者と知識人たちが、今こそ科学的に考え振る舞おうと集い来た意気込みそのもののようである。廃校後放置されていたこの額は、アカデミアを人生の糧とし熱愛した一卒業生の所望に応え、三枝氏自ら H.Saigusa のサインを彫り、手渡された。現在(2020 年)は鎌倉市中央図書館へ寄贈していただき、保管している。



昭和 23 年 3 月 さらば光明寺(全校生)

◆吉野秀雄の“万葉集裸講義”

「毎週金曜日の午後になると、ワイシャツにショートパンツ、それに昔十銭で売った経木の海水帽をかぶり、自転車に乗って材木座海岸の光明寺へ飛んでいく。この寺は鎌倉時代からの浄土宗関東総本山で、三門、本堂庫裡、鐘楼等いかにも由緒ありげに大大としてゐるし、広やかな林泉のたたまひも、浜風に奏でる老松の群立ちも、いかにも名刹たるにふさはしい。わたしはその庫裡を三つ割にした教室の一つへ駆けこんで、流れる汗を拭ふやいなや岩波文庫の万葉集を開いて講義にとりかかる。——この春四月、鎌倉大学といふ自由闊達な学園がこゝ光明寺を仮校舎として創立され、私は歌の一道をもつて教員に任じたが、いまは夏期休暇中の特別研究会で——自分の前には、古畳の上へ据ゑたベンチ様の机をたよりに三十人ばかりの男女学生と、これに友人の細君達や何かが数人加はつて耳を傾けてくれる。……そしておよそ四時間ぶつ通しで説き去り説き来たつて倦まない。裏山から夕ひぐらしの声が起つて、やつとわれにかへる。…」

歌人 吉野秀雄 「万葉集裸講義」(「夕刊ニヒガタ」昭和二十一年八月三十日)



第5回鎌倉ペンクラブ夏期大学
昭和12年に鎌倉ペンクラブが始めた夏期大学は昭和16年8月第5回を迎えた。
写真は御成小学校の前で講師と参加者が記念撮影。戦後いち早く復活し「鎌倉夏季大学」へ引き継がれた。
(写真提供 山口美代子氏)

鎌倉夏季大学 時間割									
日	一	二	三	四	五	六	日	月	年
8月1日	8月2日	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日	8月9日	8月10日
午前 9:00-10:30	午前 9:00-10:30	午前 9:00-10:30	午前 9:00-10:30	午前 9:00-10:30	午前 9:00-10:30	午前 9:00-10:30	午前 9:00-10:30	午前 9:00-10:30	午前 9:00-10:30
午後 1:30-3:00	午後 1:30-3:00	午後 1:30-3:00	午後 1:30-3:00	午後 1:30-3:00	午後 1:30-3:00	午後 1:30-3:00	午後 1:30-3:00	午後 1:30-3:00	午後 1:30-3:00
講師 吉野秀雄	講師 吉野秀雄	講師 吉野秀雄	講師 吉野秀雄	講師 吉野秀雄	講師 吉野秀雄	講師 吉野秀雄	講師 吉野秀雄	講師 吉野秀雄	講師 吉野秀雄
会場 鎌倉市役所	会場 鎌倉市役所	会場 鎌倉市役所	会場 鎌倉市役所	会場 鎌倉市役所	会場 鎌倉市役所	会場 鎌倉市役所	会場 鎌倉市役所	会場 鎌倉市役所	会場 鎌倉市役所

昭和22年 鎌倉夏季大学 時間割
御成小学校で鎌倉ペンクラブ、鎌倉大学校、鎌倉市役所の共催



海辺を歩く吉野秀雄教室の一行 左より増見利清、玉置久子、秋山真太郎、江田法雄、吉野先生、山本忠彦。全員演劇科。

◆高見順の小説モデルに

「…南に面した山ふところに抱かれた其処は、全体が日だまりの感じで、冬でも温室にいるようであった。環境は申し分ないものだった。前は松林で、林の中にしやれた別荘の屋根がちらほら見えかくれしている。おだやかな波の音が微かながら聞こえてくる。…日によると、ついそこが浜のような近さで響いてくるのだがそれはそれでまた素晴らしく、雄大な波音は学生たちの心を洗うのである。…」

高見順『小説神聖受胎』(神奈川新聞 昭和22年6月25日より)



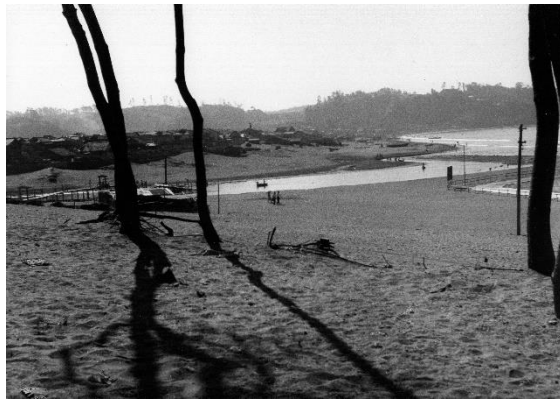
高見順著『神聖受胎』(限定版)
装丁 花森安治
1948年3月20日永晃社
B6判 330p ¥250



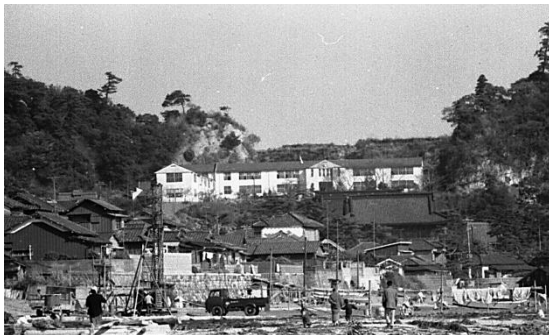
松の林に囲まれ、静かな路地を歩く。光明寺裏材木座4丁目あたり。昭和20年頃。



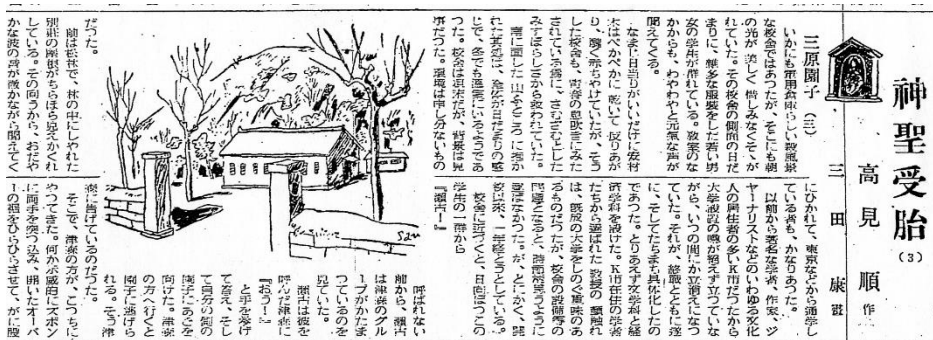
山門の下を歩く学生



昭和25年、由比ヶ浜の松林から見た滑川河口と材木座海岸(撮影 皆吉邦雄氏)



材木座の浜から光明寺山門・本堂の麓と光明寺裏山に建っている第一中学の新しい校舎が望める。戦後の新制中学も不自由な数年を経てやっと校舎を整えた。昭和36年。(撮影 安田三郎氏)

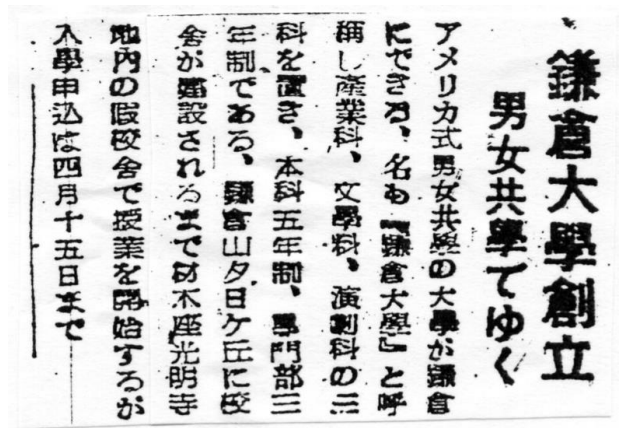


高見順「神聖受胎」(3) (「神奈川新聞」昭和22年7月25日 三田康 画)

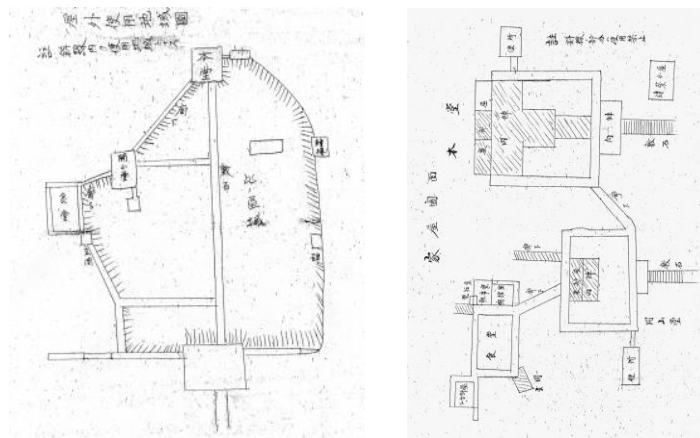
二. 創立の頃

戦前から鎌倉の歴史的文化財保存に注目し活動していた「鎌倉文化協会」が戦後いち早く「鎌倉文化会」と名を改め活動を開始した。学者、演劇人、宗教者、一般市民等から成るこの市民グループは、市内に進駐軍の慰安施設を作るという動きに反発し、鎌倉を文化と学問の町にするために大学を創立するという夢を描いた。

その設立の趣旨には「…教育都市鎌倉に天下の学徒を糾合して、真に世界文化に貢献すべき科学と技術との総合学園建設事業の第一歩をなすものである。学園建設は鎌倉山夕日丘を中心とする数万坪の林間に、独自の教育体系により初等科より大学に一貫し、各種の専門を網羅する総合的学園を建設する計画であるが、当面の教育危機を打開するために取りあえず仮校舎を以て、産業科、文学科、演劇科の三学科の各専門部並びに本科(大学予科)を開設する」という壮大な計画が述べられていた。

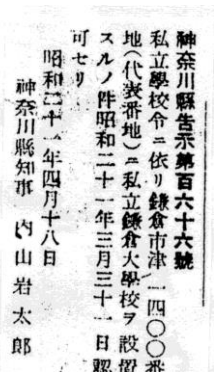


「鎌倉大学創立—男女共学で行く」
昭和21年3月17日神奈川新聞記事

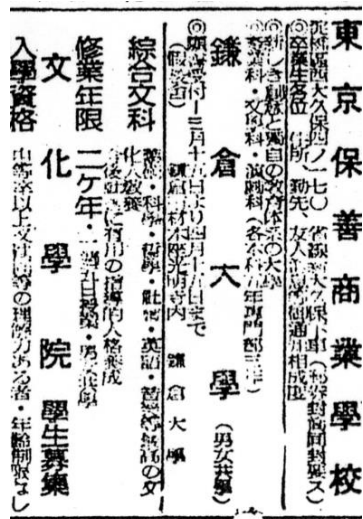


光明寺を仮校舎に。「家屋賃貸借契約証」(光明寺所蔵)より

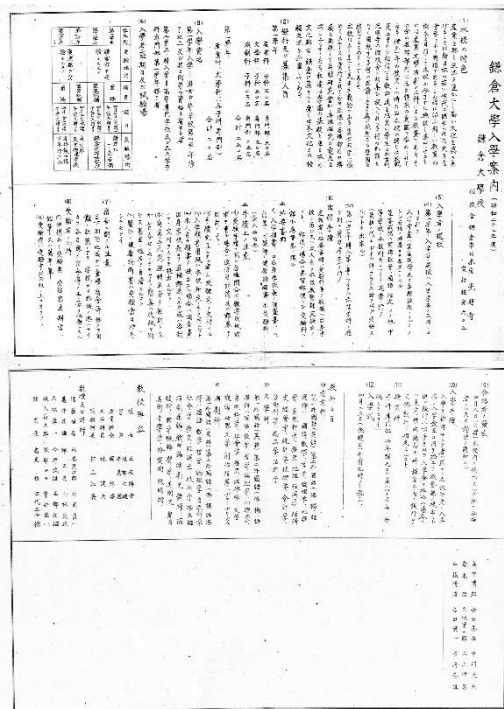
初年度(1946年)は光明寺住職竹石耕善氏と鎌倉大学学長飯塚友一郎氏の間で契約が交わされ、賃料は年間7800円となっていた。次年度は鎌倉大学校専務理事山口正雄氏と交わされ、賃料は2万円。学生が増え、開山堂のほかにも本堂も借用したことから、インフレの影響によると思われる。*上図は昭和22年4月1日付「契約書」に綴込み。



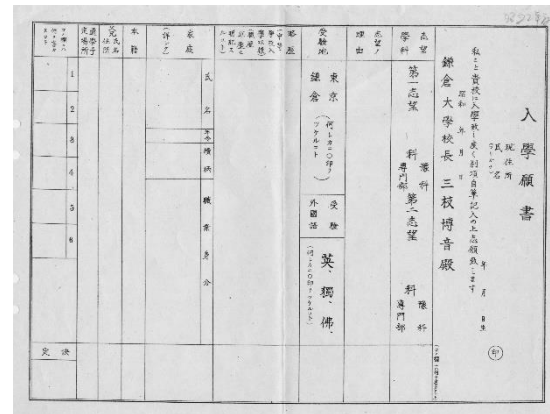
神奈川県公報 1908 号 県知事内山岩太郎より私立鎌倉大学学校の設置が認可された。



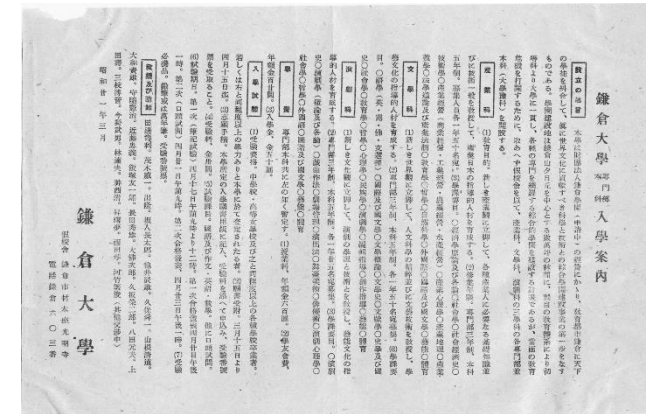
朝日新聞広告昭和21年4月6日付
鎌倉大学開校の知らせは、新聞の広告欄、電車の吊り広告、電柱に貼ったビラ、「蛍雪時代」などの雑誌情報、先生や先輩からの口コミなどによって届いた。



鎌倉大学入学案内 昭和22年

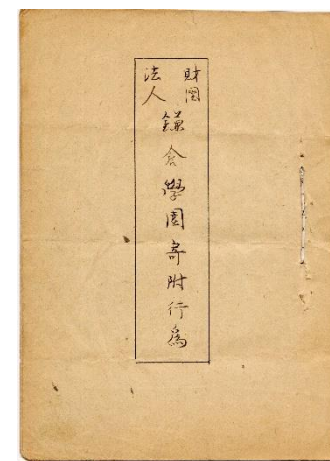
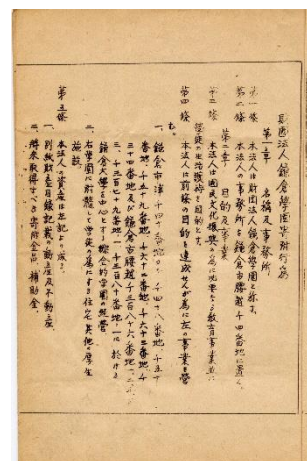


鎌倉大学校入学願書 昭和22年



鎌倉大学入学案内 昭和21年3月

鎌倉アカデミアにおける最初の印刷物である。《取りあへず仮校舎を以て》開校し、将来は《鎌倉夕日ヶ丘中を中心とする数万坪の林間に》総合的学園を建設する計画とされている。私はこの『入学案内』を光明寺までらいに行くと記憶している。(演劇科 廣澤榮記)



「財団法人鎌倉学園寄付行為」全文は8章27条よりなる。財団設立と学園建設の構想が述べられている。学園建設予定地は鎌倉市腰越津、旧猫池近辺から広町にかけての山林畑地であった。理事7名。昭和21年

木村彦三郎日記(抜粋)



昭和二〇年

九月二八日 極楽寺伊藤政行氏(＊)に会って、文化協会設立のことで三十分位話してから辞して、稲村ヶ崎から電車で飯塚氏(＊)を訪問して、協会設立準備に付二時間ほど話して辞去した。午後から自転車で久枝氏(＊)を訪問してから宮本氏も訪ねた。

一〇月九日 (略)宮崎氏(＊)、鎌倉の歓楽街実現運動に関して「米軍上級将校より反対の意思表示あり、市民の輿論において実現運動の抜本塞源を図りたい」との申し出あり。文化団体としての運動も可能ならんと約す。

一〇月一四日 午前中貝山氏(＊)を訪問、久枝氏に電話する。高橋氏と一緒に自転車で腰越の榎本君(＊)を訪問する。文化会の打ち合わせを行なつてから夕方帰宅。

十一月五日 (略)午後から開催された文化会の幹事会は出席者十名。席上文化の語句解釈から活発な議論が行なわれ……まだ実際運動に飛び出す案は具体的に決定しないが、兎に角形式としては文化会は立派な歩みを始めたことになる。

十一月八日 (略)先ず啓蒙運動から着手すべきであろうと私は意見を出した。

十一月十三日 (略)横浜に行った私は、敗戦日本の姿を見せつけられて失望して勿々にして帰った。私はあの横浜を日本の敗戦の姿として見たくなかった。

十二月十八日 終戦四ヶ月、アメリカの日本に対してのやり方が如何なものかは識者は心痛して居よう。日本という国柄の何たるかを忘れた日本人の日増しに著しくなるといふ現実に対して、私たちは今打つ手はないものだろうか。我々は伝統文化を墨守するものではないが、アメリカの文化をそれほど崇高なものだと考えることは出来ない。

昭和二十一年

一月二三日 (略)本月二十日から開設した由比ヶ浜文庫に赴く。五時閉業の予定が、店内に客が雑踏して三十分も遅れて閉店した。…

三月二二日 教育革命を行おうという同志の計画で、総合大学創設が漸く具体化するに従つて、いろいろな事故が起つてそのことだけにほとんど日を暮らしてしまつた。二月から三月になつても私の日々はこの学校の雑用に追われてしまつていた。私としては生まれて始めての事業だけに一層その苦悩が強い。それは同志が一樣に等しく感じていることに違いない。文部省、県庁の折衝から、人事に關しての情弊等洵に私には苦手のみである。

今日正式に鎌倉大学設立申請書を神奈川県教育家の西村鏡属官の手に提出した。これで始めて我々は公式の諒解を得るに至つたのである。

四月一八日 鎌倉大学の第一回入学試験は昨日行われた。生憎と雨の日で、懸念されたが、欠席者は約一割くらいで何の事故もなく終了したことは成功だった。受験数は総員三百六十三人であつた。

試験立会人は

演劇科 長田秀雄、久板栄二郎、宇野重吉

産業科 茂木威一、坂入長太郎、久保舜一

文学科 辛島驍、上田寿、波多野述麻呂

飯塚学長、久枝理事長、山根主事、西村主事

木村、伊藤、榎本各理事、貝山監事

七月一九日 昨日私は久枝氏の来訪を機に大学の総務部長と学園の理事の辞表を提出した。これは、学校が今月初から紛糾して居ることに対しての自分の責任からばかりではない。

昭和二十二年

四月一〇日 午後榎本君が来る。今日から市会候補者の届出が始まつたらしい。榎本君も立候補した。

＊伊藤政行氏 極楽寺町内会長。地方の大地主の出身で文化的素養の深い人物であつた。

＊飯塚友一郎 演劇研究家、腰越在住、腰越町会議員

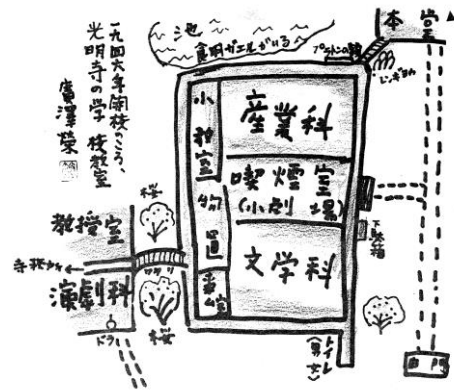
＊榎本義信 津村在住の地主、のちに鎌倉市議会議長、神奈川県会議員。

＊久枝武之助 広島の大地主。鎌倉の自宅に鎌倉大学学生を下宿させた。文化・教育活動

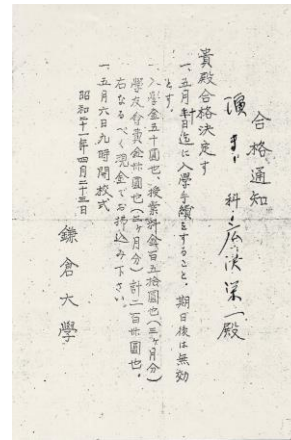
に關心を持つ人格者として信頼を得ていた。

＊宮崎繁一 大町メソヂスト教会牧師、通訳。

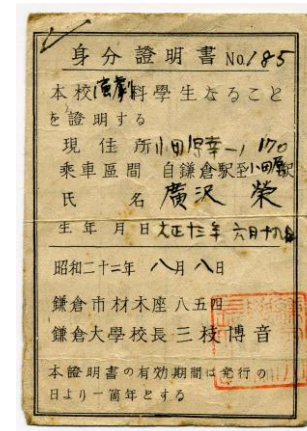
＊貝山宣泰 鎌倉本覚寺住職のちに鎌倉市議会議長



広澤榮(演劇科1期生)スケッチ
による開山堂教室の図
二年目は一期生が本堂の一部
を使用した。



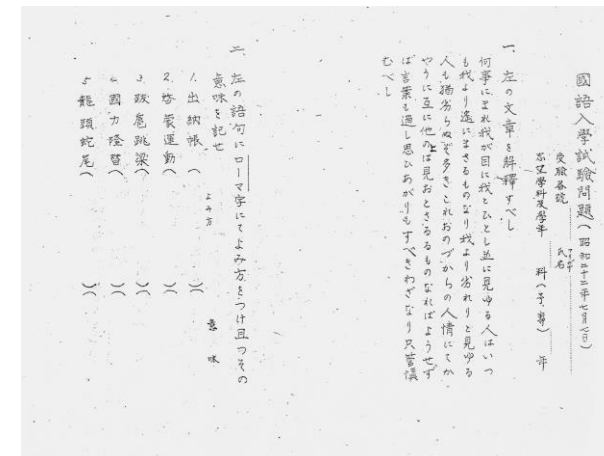
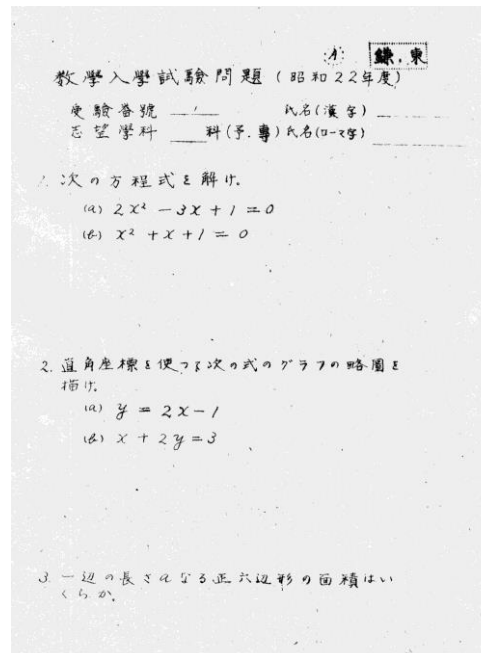
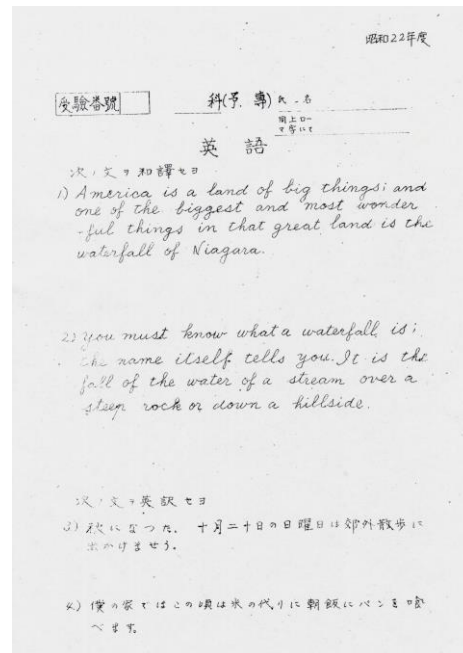
合格通知



学生「身分証明書」



鎌大バッジ(Kama U)
産業科バッジ(KUC)
学生服ボタン(大3個 小3個)



入学試験問題 昭和22年度
英語、数学、国語

「奇妙な入学試験」

相馬繁美

(文学科1期)

大広間の畳に正座し、細長い机に向かって私は真剣に答案を書いていた。両隣を見まいとして、じっとしているから首すじが凝ってくる。試験場は肩が触れ合うほど混んでいるし、立会いの先生には監督などという丁見がまるで無いのだから始末におえない。

国語と作文。『光明寺の印象』なんて課題が出ているが、これはまあ、日本語だから何とかなる。英語もまずまずだ、半年前までの敵国語だから、どうせだれもできっこない。問題は数学だ。文学科を受けているのに数学があるのだから、動員先の工場で独学したきり通学していない私には不安だった。しかし、意外にやさしい子供だましで面くらってしまう。私はスラスラと解き進んで最後の応用問題にとりかかる。『隣組には世帯数が〇〇戸ある。そこに鰯の配給が〇〇匹あった。一戸あたり何尾になるか。』

どう考えたところで単なる割り算以外の何ものでもない。ただし私の計算では端数が出る。割り切れない鰯(いわし)の何匹かを分数で記すのか、それとも隣組長と配給当番とで密(ひそ)かに分けてしまうのか。私は、とつおいつ思案にくれる。

それは奇妙な入学試験だった。

その日から二十五年後の初の同窓会で、友人にたずねてみたがだれ一人として問題を覚えていた者はいなかった。(作家)

「鎌倉アカデミア」と私(読売新聞連載)より

昭和50年6月1日

日記(抜粋)

津上 忠 (演劇科1期)

一九四六年

4月24日 晴

全く風の強い日。受かったかしら、落ちたかしらと思いつつ、発表を見に行つた。「受かっていますよ」「優秀な成績です」「演劇などこれからいいですね」「こんなことを耳にしながら、ついに受かった。何度目の成功だろう。入試が出来たと思つていたことは事実だが、春の強風に海岸の江ノ島の高い波はゆらいでいる。相模湾を前にして全く言うこともない。嬉しい、ほんとだ。「兄ちゃん、遂に受かったよ」、どんなに喜んでくれるだろう。演劇に対する種々な野望と抱負が果てしなく拡げられて行く。しかし、演劇という道が、はつきりいつてしまうと何か寂しい気もする。

4月30日 晴

朝、郵便局で貯金を出し、入学手続きに行く。未だ映画に未練がある。演劇も難しく、たしかにやり甲斐のある仕事だ。東京の学校の方が何かにつけていいのだが、演劇は第1に場を踏まねばならぬし、音楽を聴き、映画を見ねばならぬ。また経済的にも等々、いろいろ考えると憂鬱だ。伝統のない学校、こんなのがかえっていいかも知れぬ。そして教授連もいいし、大いに勉強しよう。困難な道ほどやるべし。開拓したときの心地よさ。また女に対する淡いロマンスを夢見ながら？

5月6日 曇り

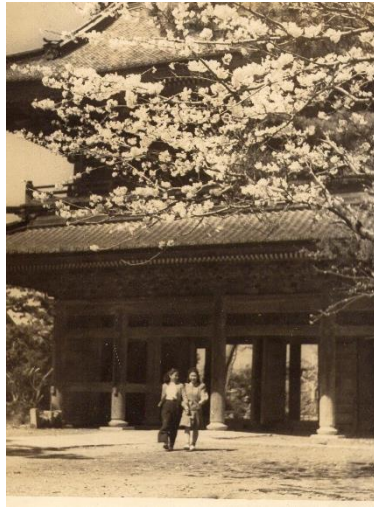
今日は開校式。なかなか華やかな連中がいる。何となくすぐつたいような微笑を禁じ得ない。形式のない学長の挨拶が面白い。学則も生徒の論議に待つか、大学令によらない大学、我々が民主日本、本芸術魂を築かねばならない。大いなる野望と抱負。芸術は自由を欲し、芸術は自由より生まれる。私はアーチストになるんだ。

5月23日 曇り後雨

学校の授業が始まってもう10日も経つ。そして夏休みの話も出ている。早いものと思う。女にひかれながら何か照れくさいような自分を見出す。日本舞踊に対する私の見解は間違っていない。邦正美先生の意見は、全く拝聴すべき積極性をもっている。芸術には国境はない。たしかにそうかも知れない。体力的なものは努めて避けたい。健康は人間最大の必要事項である。毎日が追われる生活だ。

6月25日

今日という日は、全く忘れ難い日だろう。思えば挫折しそうな私の心を、廣澤榮が引っ張ってくれた。「父帰る」を初めてものにした。もつとも未完成のものだが、これ以上嬉しいことはない。そして終了後も実にC班と他の連中との問題が解決した？ようだ。しかし、私は悲しいと思った。私という人間は、皆が感激すればするほど冷静になり、皆の空気に浸れる純な気持ちをもっていないようだ。いつの間にかこうなったのだろう。しかし、人生は様々である。



山門の下を行く女子学生



光明寺境内庭園にて 前列左
吉野秀雄先生、右 辛島驍先生

学園の運営をめぐる紛糾が起きる

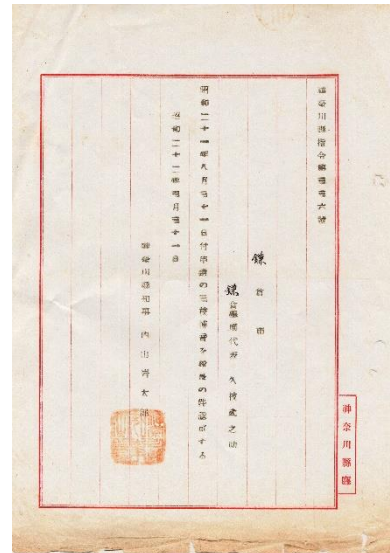
排斥運動からか

飯塚鎌倉大学々長辞任

飯塚大学々長飯塚友一郎氏はこのほど學長を辞任した、後任學長は未定だが臨時事務取扱が學務部長を兼ねる、同大学は本年四月飯塚氏を中心創立されまだやうやく一學期を終へたばかりで大部分の學生が暑假中のこと

突然の辭職理由は外部へは全然明らかにされてゐないが一部學生の飯塚學長排斥運動とかわて飯塚氏の學校行政方針に不協を拂つ教授連の策動が原因と云はれてゐる【飯塚飯塚氏】

夏期文化講座 相模原町



三枝博音校長認可
申請昭和21年8月31日
認可昭和22年3月31日

致々終戦後、敗戦日本の文化向上に些少の貢献せんと志し昭和二十一年三月、先づ教育事業を目ざして鎌倉学園を組織し、将来に大きな希望を嘱して鎌倉大学校を創立した。爾來之が完全なる發展を期して當りとて其の經營に力を入れ、敗戦の苦難は時と伴に各方面に而も深刻に現はれ、特に經濟面に於て甚しい現象を呈して來た。学園の經營も亦此の満半に巻き込まれ、かつて無い苦汁を満喫せしめられた。創立當初は希望の如く燃えて建學の理想を掲げ、之が實現に邁進の勢であつたが敗戦の苦難は事毎に踐踏を來し、公約の諸計画も殆ど画餅に帰して何ぞ實現すべき成果を挙げる事が出来なかつた。實に遺憾に堪へない処である。

仄聞するに此時恰も本校教授會は去る一月十日の會議に於て、現理事団を信任せずとの決議が行はれ、學生自治會も亦其の翌日理事団の解散を要求して居ると云ふ。其の理由とするは何れも一應事實として諒承しなければならぬものではあるが、理事団としては學校創立以來、希望に満ちた責任を重く、及ばずとも最善の努力を拂ひ、誠意を盡して來たつもりである。然し時流の激しきは我々の微力と以ては到底支へ得るものでなく遂に今日に至つたのである。今斯業半端にして有終の成実を見ず、前途尚遠く遠くまで難なる時經營の衝と許し、是れは眞に忌むべき事であらう。顧みて自責の念に堪へない。又、理事団の存在が学園發展上は大きな障害となるならば、愛校の精神に鑑みても其の地位を去るは何等躊躇するものではない。殊に学園の將來は教授、學生及び其の父兄各位の

相協力して学園の再建を期すより頼むべき決意を固くし、我々も安んじて辭任し、表へは学園の完成を企望するものである。

就中此際辭任する我々、本学園に關する一切の清算、學校當局の移管、及び学園創立時の白紙状態に還元する事を切望するものである。

昭和二十二年一月二十五日

鎌倉学園代表者 久枝武之助

「声明書」久枝武之助「鎌倉大学」開校の直後から、学校運営は混乱し、理事団は解散に至った。昭和22年1月25日付で理事長久枝武之助氏から苦痛に満ちた、しかし真摯な内容の声明文が出された。

辞表

鎌倉学園代表 久枝武之助

私儀昭和二十一年三月鎌倉学園代表として、同志各位と共に鎌倉大学校を創立し、爾來之が經營に最善の努力を拂ひ、來しに遺憾なく私の微力と以て、如何にと致し難く、加ふに時流の激しきは到底支へられず、當初公約した諸計画も實現不可能に近づいたことを認識しました。今更顧みて自責の念に堪へないのみならず職務上の責任は輕くありません。故に、かく茲に引退を遂げることは本学園の將來に重大なる危機を招来することと承知しております。此際学園に關する一切の清算、學校當局の移管、及び現職の地位を辭任致します。

昭和二十二年一月三十一日

右 久枝武之助

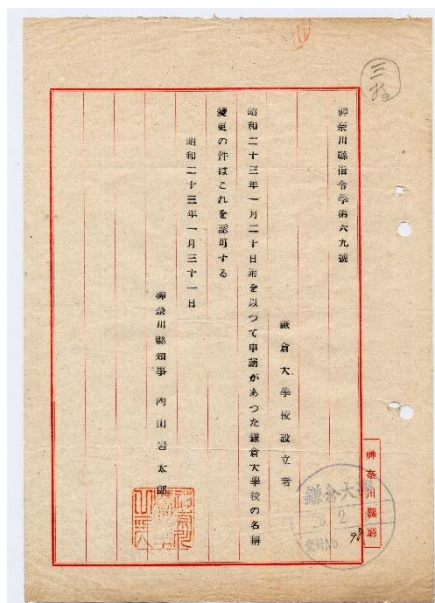
鎌倉大学校長 三枝博音 啓

学長の交代 創立早々の夏季休暇中に起った動揺。学長排斥運動の存在を伝える。(昭和21年8月4日読売新聞)

「辞表」鎌倉学園代表理事長久枝武之助 鎌倉大学校長三枝博音宛 (昭和22年1月31日)

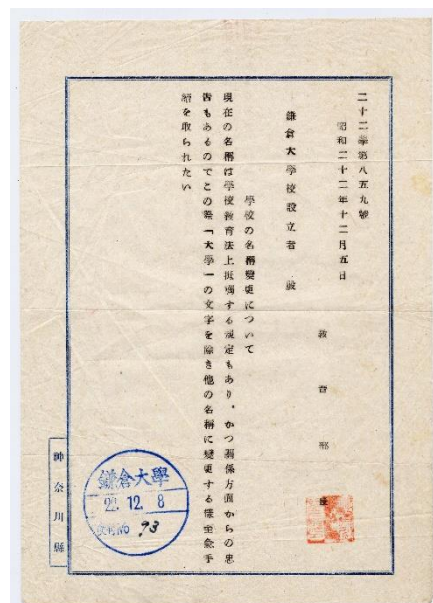
三. 「鎌倉アカデミア」となる

鎌倉大学校、通称鎌倉大学（カマダイ）としてスタートしたこの学園は、戦後の新生日本を担う若者を育て、鎌倉を文化と学問の町として建設しようという高邁な精神から生まれたものであった。しかし地元の創立者が当初描いた鎌倉山に点在する校舎も経済的基礎である財団も打ち立てられず、「海軍燃料廠跡」の建物を国から借用する過程でついに「大学」の名称も返上せざるを得なくなった。自ら選んだ名称が「鎌倉アカデミア」である。三枝校長の理想とする古代ギリシャのアカデメイアの広場にちなんだものと思われる。当時としてはモダンな名称であるが、戦後秩序の中でできつつあった「新制大学」に押しつぶされた形であった。しかし教授と学生がともに苦しい学校経営にたずさわりながら時間を惜しんで熱い学びの場を作り出したことは、その後の卒業生や教授たちの回想によってもあきらかである。



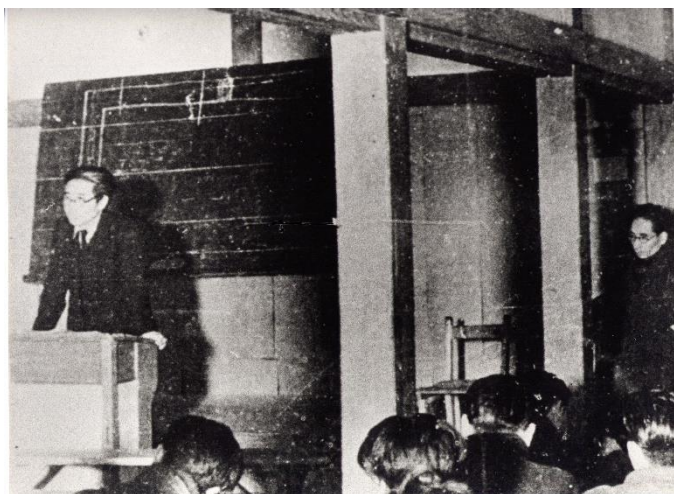
名称認可

昭和 23 年 1 月 20 日に申請のあった大学校名称変更の件は昭和 23 年 1 月 31 日に認可された。



学校の名称変更について

1947 年 12 月 5 日神奈川県教育部より指令。三枝校長「教授会議控」によると、教授会で「鎌倉アカデミア」と名称決定したのは翌年 1948 年 1 月 15 日となっている。



開山堂にて大船移転について説明する三枝校長。右端に田代教授。

KAMAKURA ACADEMIA

854 Zaimokusa, Kamakura City, Kanagawa Prefecture

April 5, 1948

APPLICATION

To: Commander, Tokyo-Kanagawa Military Government, Kanagawa Detachment.

THROUGH: Liaison Office, Kanagawa.

SUBJECT: Application for use of land and building of Third Laboratory, first Fuel Depot, formerly belonging to Japanese Navy.

(Location: Totsuka-Ku, Yokohama City. Use: As school building for Kamakura Academia (formerly Kamakura University.))

HISTORY OF KAMAKURA ACADEMIA:

Plans for founding Kamakura University were laid in January (1946) after the war-end and the school was opened in April, the same year. Without delay, this institution rented facilities of Komyo-ji Temple, Zaimokusa, Kamakura City, for use as class rooms (10 rooms).

In the meantime, the board of trustees (then in the process of being formed) planned construction of a new school building, securing a site in Kamakura-Yama. However, confronted with economic difficulties under the financial measure ordinances, the plans of the board of trustees, then being organized, received a set-back and as a result the members of the board resigned, holding themselves responsible for the failure.

Accordingly, the faculty board, the student body, and the parents' association were obliged to take up the management of the school themselves.

As the school building is still the same temple, this institution is being confronted with many difficulties in regard to class room facilities, and moreover, due to the gradual increase of students in number, the site and buildings have become too narrow.

REASONS FOR APPLICATION:

The number of students of Kamakura Academia is 480 at present, but the number will increase to 700 with the opening of the new school term. The present facilities of Komyo-ji Temple cannot accommodate these students. And furthermore the school is demanded to return the class rooms now used on lease, according to the recent revision of laws regarding to shrines and temples.

2.

Consequently, 520 professors, lecturers, and students are in extreme distress, having no means to accommodate themselves.

To meet this situation we decided to establish a new board of trustees (now in the process of being organized) with Riemon Isobe, mayor of Kamakura City, Shigeru Tobishima, mayor of Fujisawa City, and others as its members, and to apply to the Finance Ministry for lease of the said state property for use as school building, with Masao Yamaguchi, president of the Parents' Association and concurrently managing trustee, as representative responsible for this application.

SIGNATURE: Hiroto Saigusa
Hiroto Saigusa, President.

SIGNATURE: Masao Yamaguchi
Masao Yamaguchi, managing trustee

昭和二十三年四月五日

神奈川縣鎌倉市材木座八五四

鎌倉アカデミア
校長 三枝 博
事務理事 山口 正雄

東京神奈川地蔵軍政司令部 殿

舊海軍第一燃料廠第三試験場土地建物使用方
認可相成度件申請
鎌倉アカデミア 沿革

鎌倉アカデミア
三枝 博
山口 正雄

「土地建物使用許可申請」書類 1948年4月5日付軍政司令部宛
「社寺法」の新設や学生数の増加などにより寺を出て、新しい施設を求める必要性があることを述べている。
新しい理事団を結成しつつあり、父母会の代表山口正雄氏(理事)が申請者として署名している。



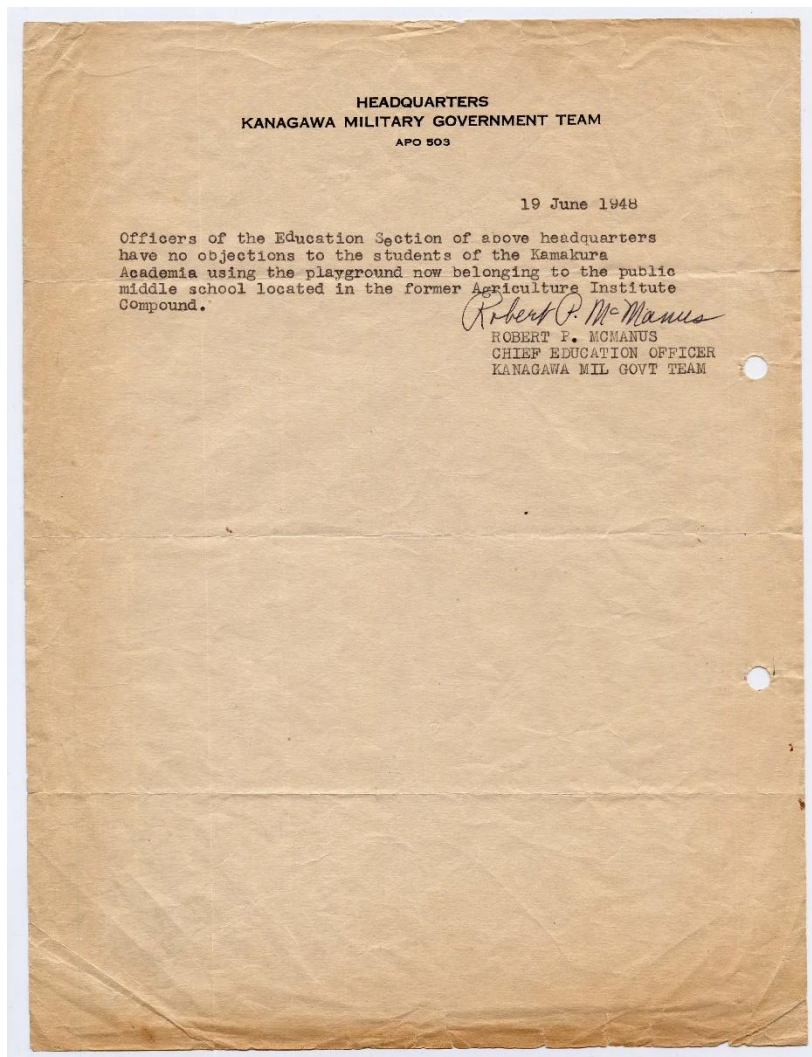
鎌倉アカデミア大船校舎入り口付近。

もとは海軍燃料廠の建物であったので戦時中、爆撃を恐れて二階部分は剥ぎ取られていた。いくつかの防壁が中空に角のようにそそり立ち、雨は滝のように漏り、窓ガラスは半分もない。この荒れ果てた校庭に桜の木を植え、「シェークスピア」の戯曲に出て来る草花を植えようと学園の夢を描いたが、たくましい雑草はまたたく間に花壇を食い荒らした。「Humble Origin」の言葉を心にいだいて、がんばったところである。

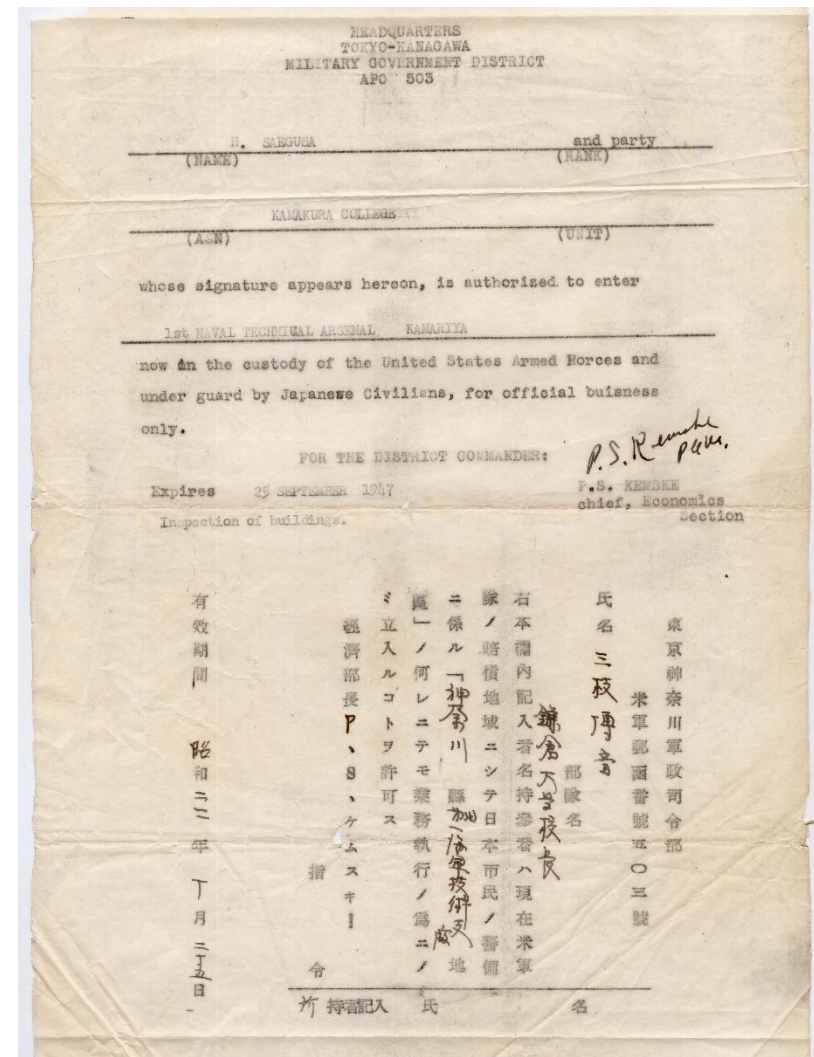
卒業生の言葉から

「電気もない廃墟の中での教師と生徒の語らひは、時間のたつのも忘れるほどに楽しいものであった。年齢差のちぐはぐな学生は、卒業したはずの1期生から4期生の私達に至るまで先輩後輩の区別なく、みんな自由に発言しあえたことは、とうていいまの大学では見られない不思議な授業風景であった。」

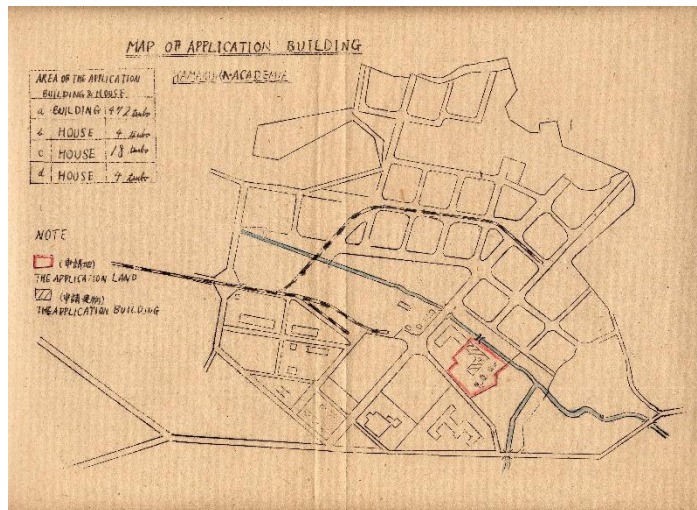
「先生はとにかく私達を広い場所に出してくれた」（1991年アンケートより）



「運動場使用許可」昭和23年6月19日
 神奈川軍政司令部 教育担当官ロバート・マクマナス署名

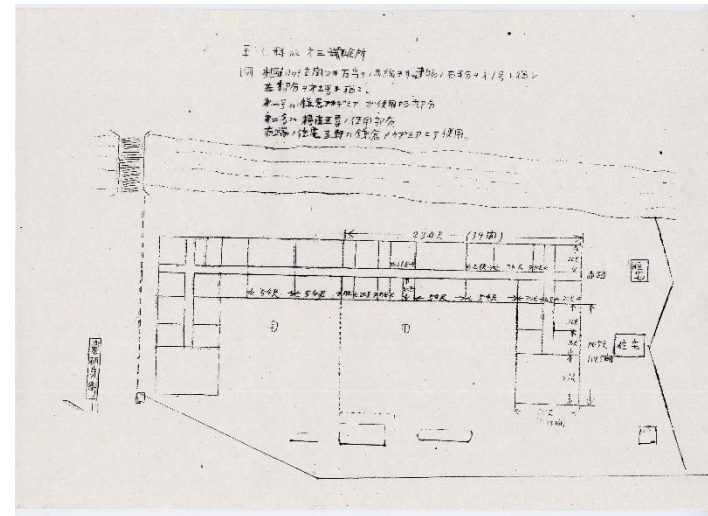


「立入許可指令」昭和22年10月25日
 東京神奈川軍政司令部発行
 鎌倉大学校長三枝博音に対して軍政司令部より建物
 下見立入許可が出されている。



MAP OF APPLICATION BUILDING

大船駅から「海軍燃料廠」まで鉄道引込線が延びていた。
コの字型の建物の斜線部分



第一海軍燃料廠第三試験所 図面上部を流れるのは「鼈川」。
建物の右半分を鎌倉アカデミアが、左半分を横浜工専が使用
することになった。入口は中央正面ではなく、建物の袖の部
分に看板を掛けて入口とした。(使用許可申請書添付資料)



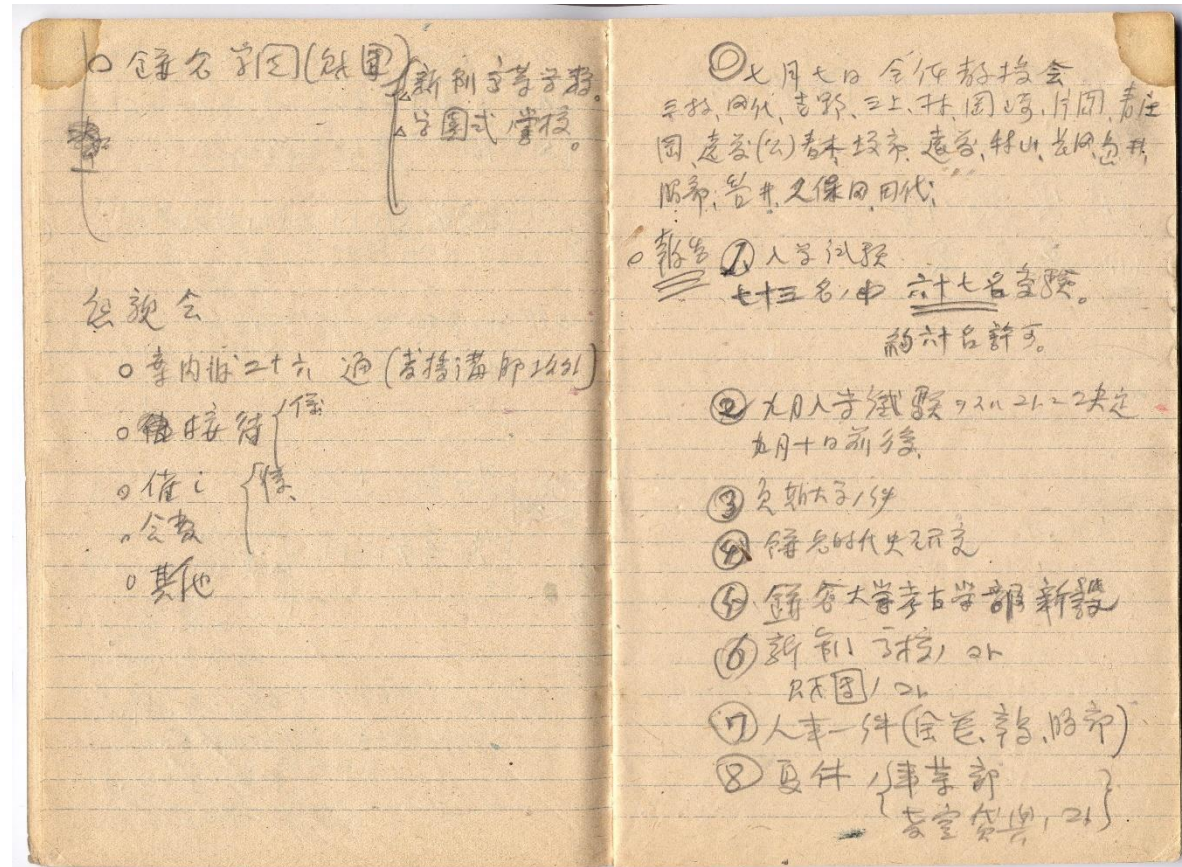
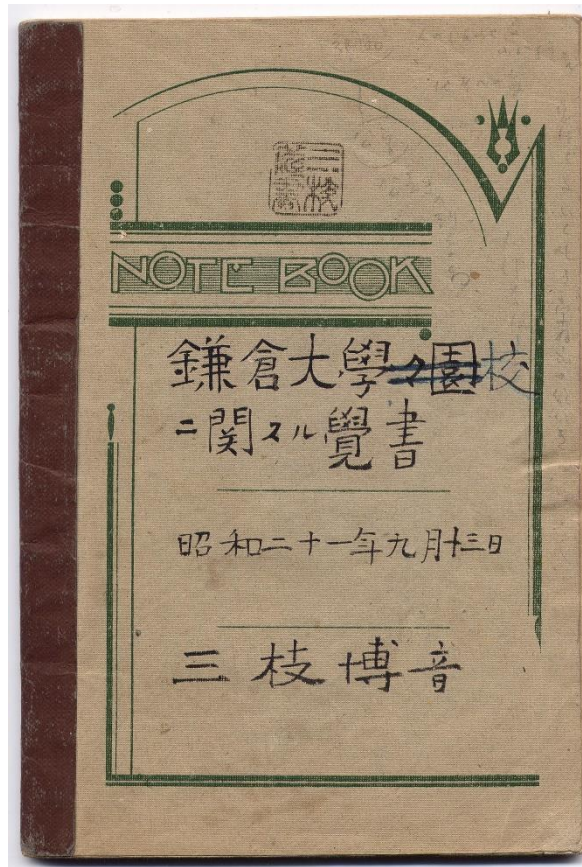
昭和23年度入学式

大船校舎屋上において。学生の服装は詰襟が
多く、一期生の雰囲気とはかなり違っている。
教授は前列中央に三枝博音校長、左へ遠藤慎
吾教授、三上次男教授。右へ山口正雄理事、
服部之總教授、一人置いて田代三千穂教授、
春木猛教授の各氏。

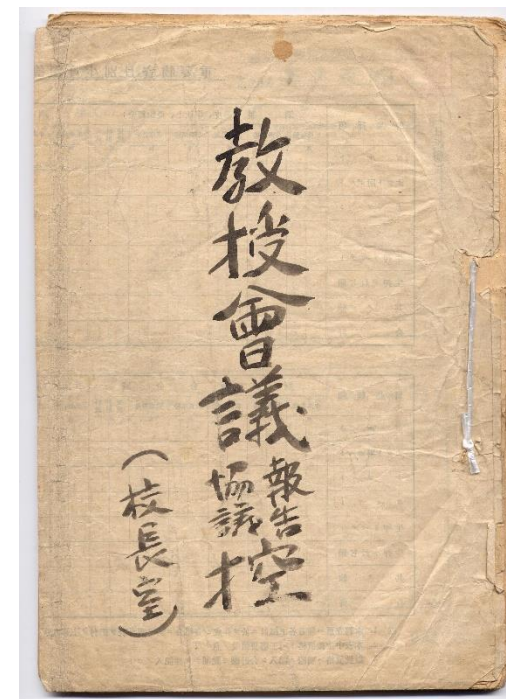
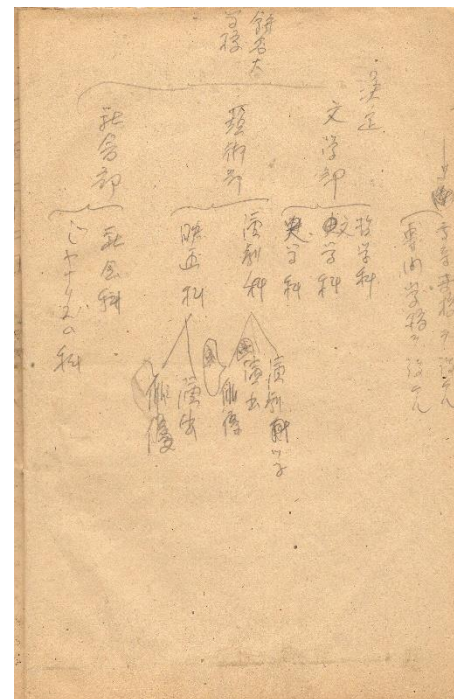
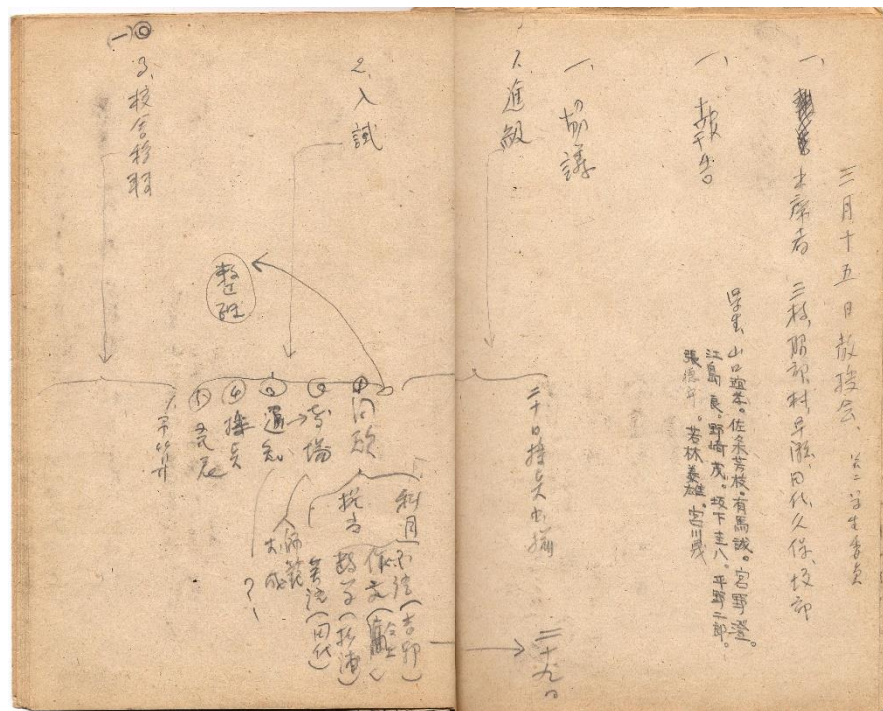


吉野秀雄先生と学生たち

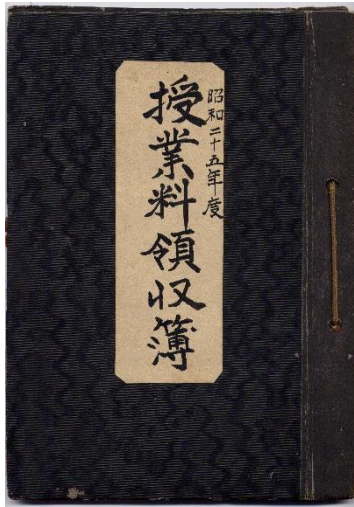
四. 大学の運営記録



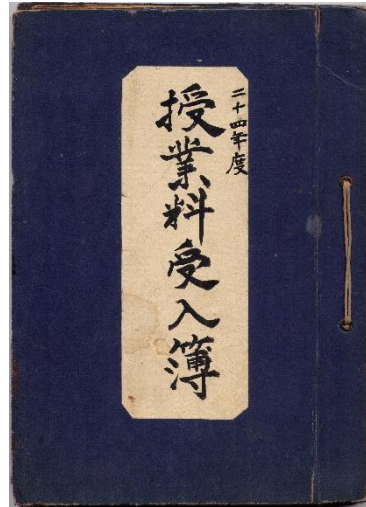
「鎌倉大学校ニ関スル覚書」 旧理事団解散のあと学校立て直しについて
三枝博音氏作成ノート。1946年9月13日～1947年7月7日



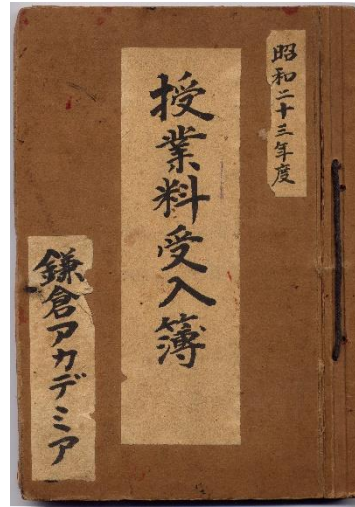
校長三枝博音メモ「教授会議報告協議控 校長室」(1947. 11. 17～1948. 4. 19)校舎移転、新財団設立、校名の変更、新学科編成など山のような課題を抱えながら、前向きに立ち向かっていた様子がわかる。3月15日には大船移転を前に教授会に学生委員が参加してともに議論している。新しい学部構想によると、鎌倉大学校は文学部(哲学科・文学科・史学科)、芸術部(演劇科・映画科)、社会部(社会科・ジャーナリズム科)の三学部が考えられていた。(1947年12月1日記) また産業科の充実や図書の充実が常に議題にのぼっていた。



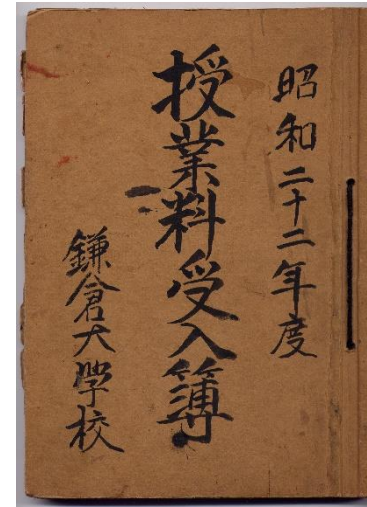
昭和25年度



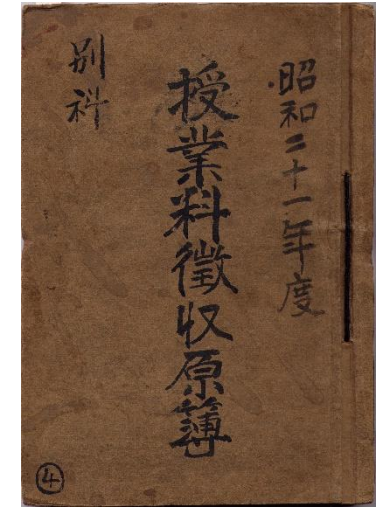
昭和24年度



昭和23年度

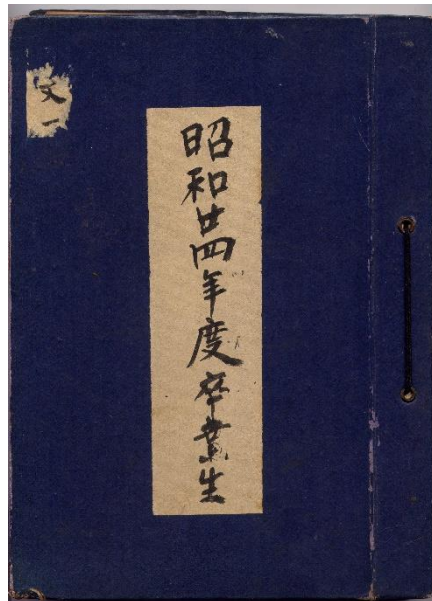


昭和22年度



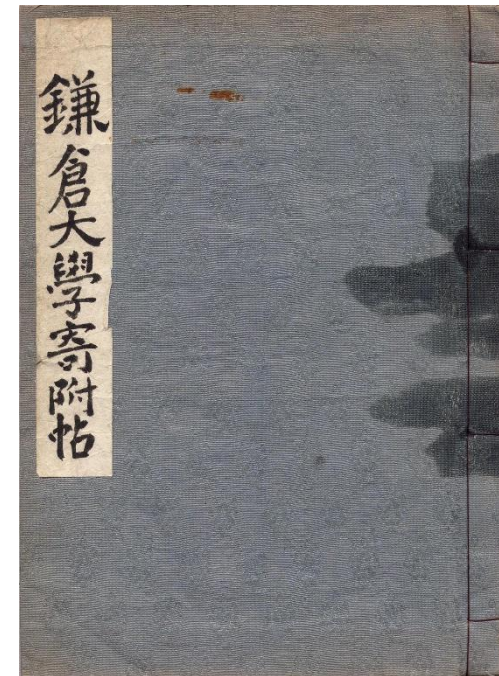
昭和21年度

「授業料受入簿」

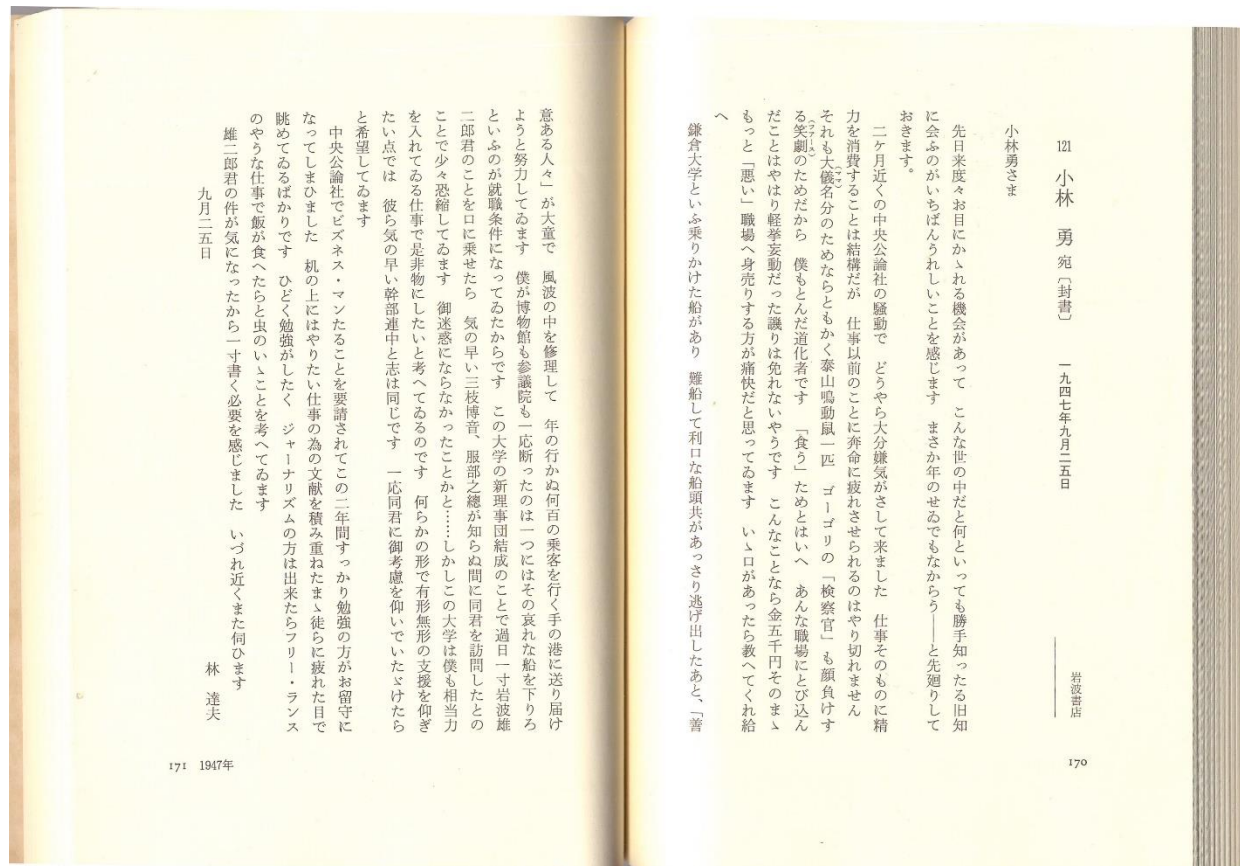


「卒業名簿」 昭和 24 年度卒業生

文学科〈本科〉20 名〈専科〉6 名、経営科〈本科〉9 名〈専科〉7 名、
演劇科〈本科〉5 名〈専科〉2 名 合計 49 名
初めての卒業式を迎えた喜びはいかばかりだったか。



「鎌倉大学寄附帖」1947年4月
校長三枝博音、教授代表服部之總、
理事代表山口正雄を依頼者とする。
財団設立のための寄附帖。

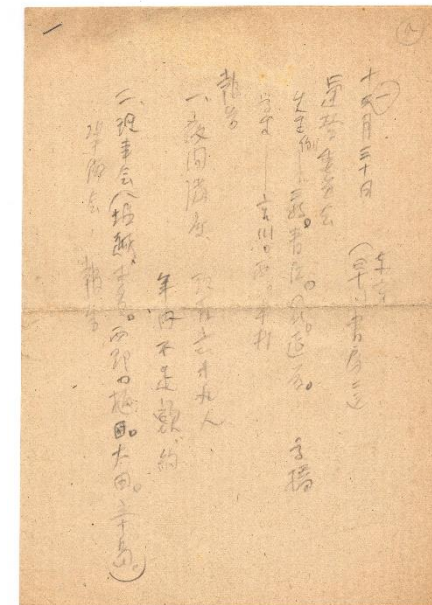
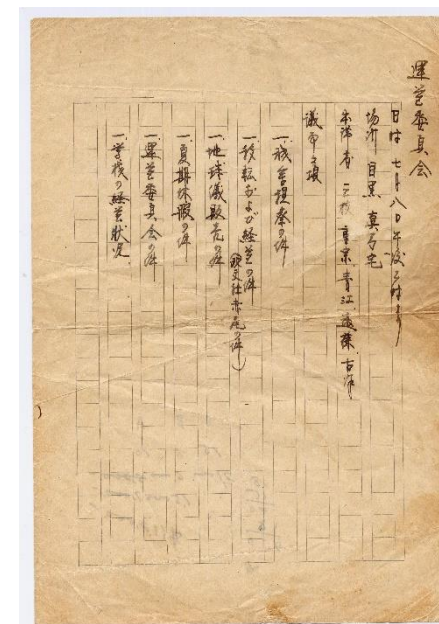


書簡(林達夫文学科長より岩波書店小林勇宛 1947年9月25日—『林達夫著作集』別巻)
「鎌倉大学という乗りかけた船があり、……この大学は僕も相当力を入れている仕事で
是非物にしたいと考へているのです。…」とある。



運営委員会議事録(昭和24年7月8日・11月30日・12月20日)

学校がかかえた諸問題を教授と学生代表で議論していた。



[illegible]

「鎌倉アカデミア夜間講座案内」

鎌倉での学校存続をあきらめて東京移転を目ざすために、二松学舎校舎を借用し夜間講座を開講した。昭和24年11月～昭和25年5月。

[illegible]

負債明細書(昭和 24 年度末現在)

教授講師給与未払い56,400円を含め、総額1,114,478円。

[illegible]

「葉書」林達夫から遠藤慎吾宛

アカデミア学生歌作曲矢代秋雄氏の作曲料未払いに対し、自分の給料を振り当てるようにとの文言がある。

録名アカデミア
東京日記
昭和二十五年二月
青江

文部省訓令教育ノート人頭寫專用

二月十五日(水)

○大體了 三十日間、要領を整理し、舊仕度所。
○福吉町 移居成り、新所(高松町)に三校、昔より里山、新に
移居成り、愛宕に連地所とて、う新所を、(高松町)と
いふこと、水知しむる上
○和田氏より物研し見

二月十六日(木)

○日曜運(約) 秘書室、居民に十日、通順す

二月十七日(金) 午後三時、遊歴書北、東京、北に、信重
氏を訪ひ、考證を、仲申す

○授也、玉島小、里山、大坂に、北に、行く

二月十八日(土)

○晋伯、臺北より、書附す、小書、考類と、いふ、書、大坂
宮橋(行く)

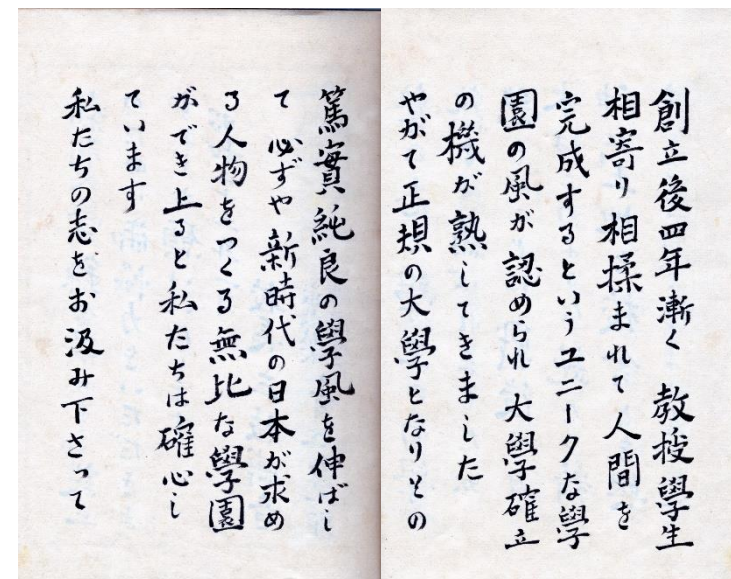
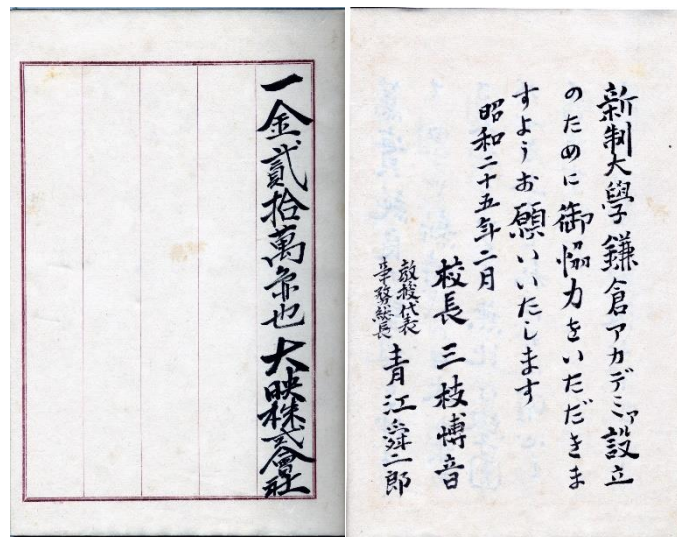
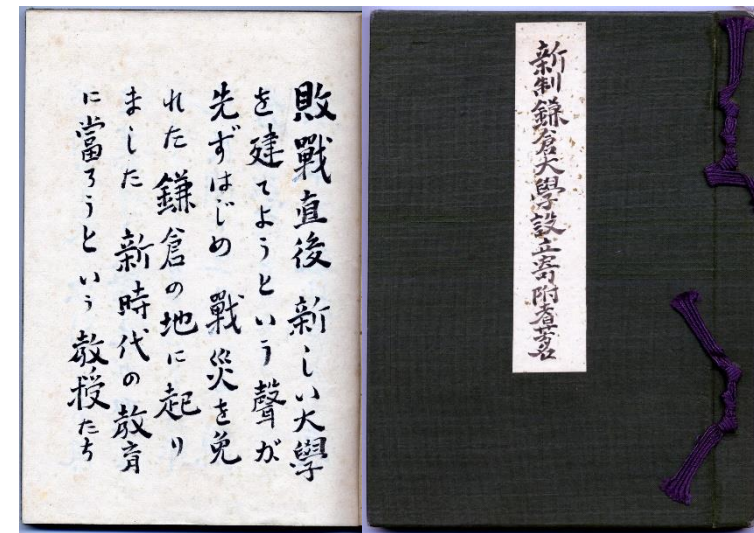
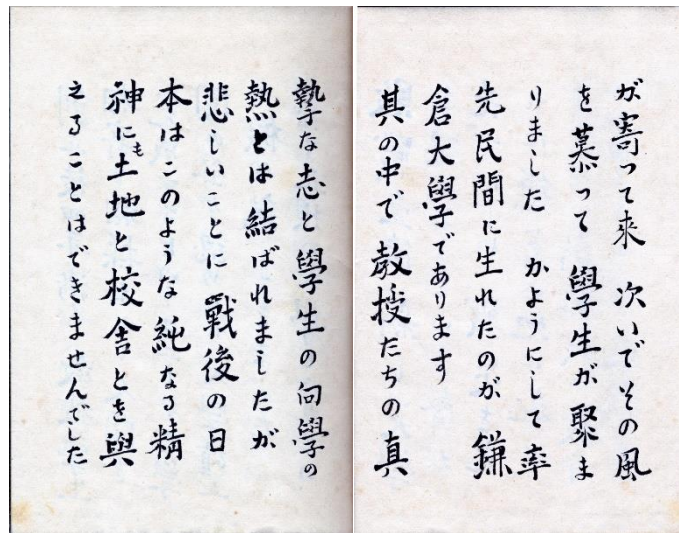
二月十九日(月)

○晋伯、臺北、東京、新東京、玉島、小書、考類、

青江舜二郎ノート「東京日記」

昭和25年2月15日～5月12日。

学校存続のために最終的に東京へ、そして映画界の重鎮へと協力を求め奔走するが、道は困難を極めた。



「新制鎌倉大学設立寄付者芳名帳」 昭和25年2月 大映永田社長から金20万円の寄付があった。財団設立のために必死の努力をしたが、映画界からの支援はこれ以上には進まなかった。青江舜二郎「東京日記」にも関係記述がある。

廃校にいたる

昭和二十四年度収支明細書

入金之部		支出之部	
一 学校収入	一 受給料	一 前年度繰越金	一 前年度繰越金
二 寄附金	二 授業料	二 前年度繰越金	二 前年度繰越金
三 雑収入	三 建設費金	三 前年度繰越金	三 前年度繰越金
四 雑収入	四 雑収入	四 前年度繰越金	四 前年度繰越金
五 雑収入	五 雑収入	五 前年度繰越金	五 前年度繰越金
六 雑収入	六 雑収入	六 前年度繰越金	六 前年度繰越金
七 雑収入	七 雑収入	七 前年度繰越金	七 前年度繰越金
八 雑収入	八 雑収入	八 前年度繰越金	八 前年度繰越金
九 雑収入	九 雑収入	九 前年度繰越金	九 前年度繰越金
十 雑収入	十 雑収入	十 前年度繰越金	十 前年度繰越金
十一 雑収入	十一 雑収入	十一 前年度繰越金	十一 前年度繰越金
十二 雑収入	十二 雑収入	十二 前年度繰越金	十二 前年度繰越金
十三 雑収入	十三 雑収入	十三 前年度繰越金	十三 前年度繰越金
十四 雑収入	十四 雑収入	十四 前年度繰越金	十四 前年度繰越金
十五 雑収入	十五 雑収入	十五 前年度繰越金	十五 前年度繰越金
十六 雑収入	十六 雑収入	十六 前年度繰越金	十六 前年度繰越金
十七 雑収入	十七 雑収入	十七 前年度繰越金	十七 前年度繰越金
十八 雑収入	十八 雑収入	十八 前年度繰越金	十八 前年度繰越金
十九 雑収入	十九 雑収入	十九 前年度繰越金	十九 前年度繰越金
二十 雑収入	二十 雑収入	二十 前年度繰越金	二十 前年度繰越金
二十一 雑収入	二十一 雑収入	二十一 前年度繰越金	二十一 前年度繰越金
二十二 雑収入	二十二 雑収入	二十二 前年度繰越金	二十二 前年度繰越金
二十三 雑収入	二十三 雑収入	二十三 前年度繰越金	二十三 前年度繰越金
二十四 雑収入	二十四 雑収入	二十四 前年度繰越金	二十四 前年度繰越金
二十五 雑収入	二十五 雑収入	二十五 前年度繰越金	二十五 前年度繰越金
二十六 雑収入	二十六 雑収入	二十六 前年度繰越金	二十六 前年度繰越金
二十七 雑収入	二十七 雑収入	二十七 前年度繰越金	二十七 前年度繰越金
二十八 雑収入	二十八 雑収入	二十八 前年度繰越金	二十八 前年度繰越金
二十九 雑収入	二十九 雑収入	二十九 前年度繰越金	二十九 前年度繰越金
三十 雑収入	三十 雑収入	三十 前年度繰越金	三十 前年度繰越金
合計	合計	合計	合計

昭和 24 年度収支明細書
 (「校舎借用料の不完全支払についてのお願い」添付資料の内)

鎌倉アカデミア廃校による校舎借用料の完全支払いの不可能について
 のお願い (三枝氏下書) 東京財務局宛 (現財務省)

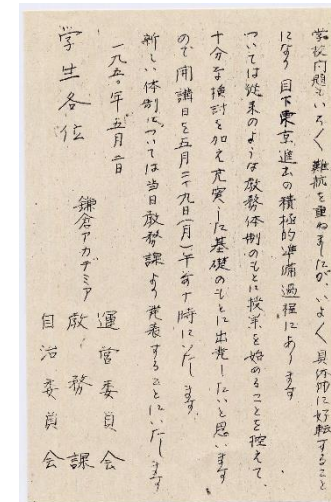
本校は戦前の翌年一月創立の計画が始められ、同年四月始め(但し、認可は同年三月三十一日附指令教才四四三號により)開校され、認可されたときの校舎は「私立鎌倉アカデミア」となりました。設立者は鎌倉学園代表者として、理事長は飯塚友一郎、理事は中園三郎、木村孝三郎の四人で、校舎は新築したもので、明年初度落成し、受け入れを完了して、同年夏休日の頃より、設立者等は創立当時の公約(四年、新大卒への昇格のための準備、校舎整地の整備

昭和二十五年度収支明細書(鎌倉アカデミア)

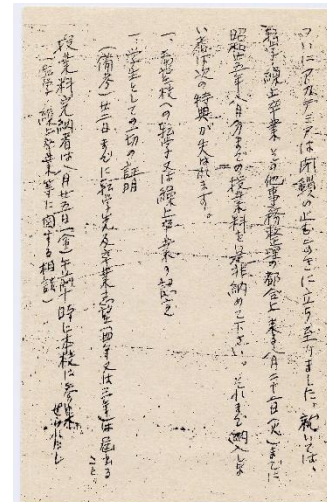
入金之部		支出之部	
一 学校収入	一 受給料	一 前年度繰越金	一 前年度繰越金
二 寄附金	二 授業料	二 前年度繰越金	二 前年度繰越金
三 雑収入	三 建設費金	三 前年度繰越金	三 前年度繰越金
四 雑収入	四 雑収入	四 前年度繰越金	四 前年度繰越金
五 雑収入	五 雑収入	五 前年度繰越金	五 前年度繰越金
六 雑収入	六 雑収入	六 前年度繰越金	六 前年度繰越金
七 雑収入	七 雑収入	七 前年度繰越金	七 前年度繰越金
八 雑収入	八 雑収入	八 前年度繰越金	八 前年度繰越金
九 雑収入	九 雑収入	九 前年度繰越金	九 前年度繰越金
十 雑収入	十 雑収入	十 前年度繰越金	十 前年度繰越金
十一 雑収入	十一 雑収入	十一 前年度繰越金	十一 前年度繰越金
十二 雑収入	十二 雑収入	十二 前年度繰越金	十二 前年度繰越金
十三 雑収入	十三 雑収入	十三 前年度繰越金	十三 前年度繰越金
十四 雑収入	十四 雑収入	十四 前年度繰越金	十四 前年度繰越金
十五 雑収入	十五 雑収入	十五 前年度繰越金	十五 前年度繰越金
十六 雑収入	十六 雑収入	十六 前年度繰越金	十六 前年度繰越金
十七 雑収入	十七 雑収入	十七 前年度繰越金	十七 前年度繰越金
十八 雑収入	十八 雑収入	十八 前年度繰越金	十八 前年度繰越金
十九 雑収入	十九 雑収入	十九 前年度繰越金	十九 前年度繰越金
二十 雑収入	二十 雑収入	二十 前年度繰越金	二十 前年度繰越金
二十一 雑収入	二十一 雑収入	二十一 前年度繰越金	二十一 前年度繰越金
二十二 雑収入	二十二 雑収入	二十二 前年度繰越金	二十二 前年度繰越金
二十三 雑収入	二十三 雑収入	二十三 前年度繰越金	二十三 前年度繰越金
二十四 雑収入	二十四 雑収入	二十四 前年度繰越金	二十四 前年度繰越金
二十五 雑収入	二十五 雑収入	二十五 前年度繰越金	二十五 前年度繰越金
二十六 雑収入	二十六 雑収入	二十六 前年度繰越金	二十六 前年度繰越金
二十七 雑収入	二十七 雑収入	二十七 前年度繰越金	二十七 前年度繰越金
二十八 雑収入	二十八 雑収入	二十八 前年度繰越金	二十八 前年度繰越金
二十九 雑収入	二十九 雑収入	二十九 前年度繰越金	二十九 前年度繰越金
三十 雑収入	三十 雑収入	三十 前年度繰越金	三十 前年度繰越金
合計	合計	合計	合計

昭和 25 年度収支明細書
 (「校舎借用料の不完全支払についてのお願い」添付資料の内)

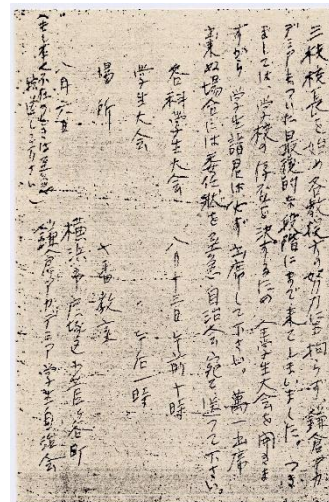
「廃校許可申請書」
 下書き三枝博音
 廃校認可は昭和25年9月25日付神奈川県指令学 305 号。



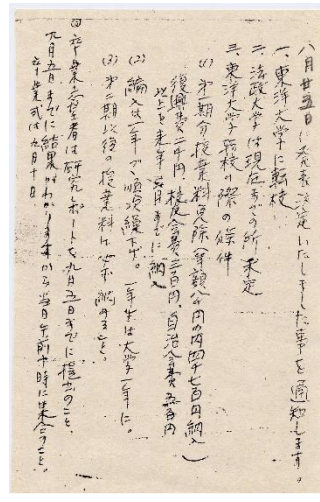
①5月2日開校日を5月29日に繰り下げ



②最終的段階に至り、学校の存否について学生大会開催通知

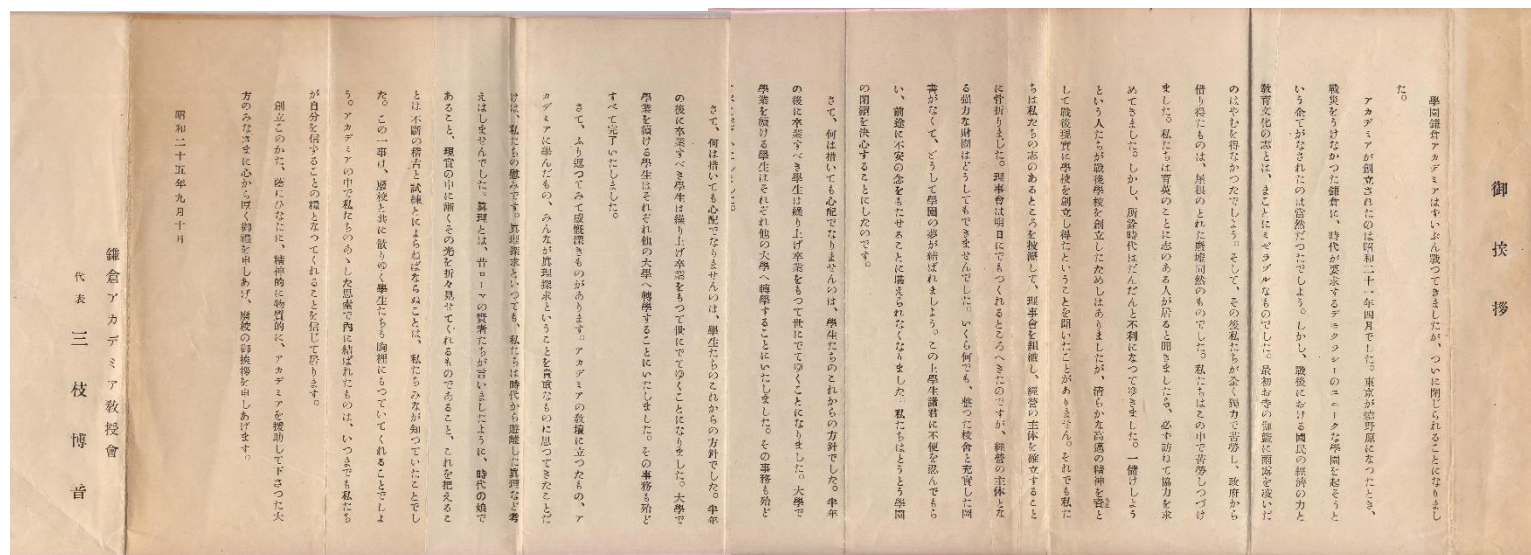


③閉鎖のやむなきに至り、転学繰上げ卒業事務について



④東洋大学他へ転入について

昭和25年夏、廃校に向けて学生に届いた葉書



「御挨拶」昭和25年9月10日 閉校の挨拶を関係者に送った。「挨拶状」送り先は創立者関係久枝武之助他、理事者関係石橋湛山他、寄付者関係飛島繁他、後援者関係朝比奈宗源他、鎌倉ペンクラブ、教職員関係片岡良一、林達夫、村山知義他、その他大船駅長、戸塚警察署など多数に送っている。

鎌倉アカデミア 閉校

経営困難で月末に

大船の鎌倉アカデミア（学校三
校傳習氏）は戦後開設され、大
学令によらない特色ある大学と
して注目されてきたが、生徒教
少く経営困難から閉校（きま）つ
て今月末光明寺で解散式を行つ

橘（鶴見）②藤巻（神奈川）
なおこの日の参加選手は縣下各
局の蘭達資十名余で一等入選
者は來月上旬の關東大会に出場
さらに販選の上全國大会に臨む
が、新川（神奈川）杉崎（横須
賀）両君は全國大会優勝候補の

「鎌倉アカデミア閉校—経営困難で月末に」
神奈川新聞（昭和25年9月14日）

[illegible][illegible]

五. 授業風景

	日	火	水	木	金	土
8.10	新刊運動史 (長田永雄)	哲序入門 (三枝博育)	— 休 —	国語 (渡野佳磨)	東洋演劇史 (幸島駿) (後藤友一)	心理学 (久保純二)
9.20						
9.30	英話 (飯島三生)	自然科學入門 (菅井進二)	日	舞踊 (柳正美)	芸能 (柳正美)	国文学 (渡野佳磨)
10.40						
12.40	演出論 (村山知義)	俳優術 (遠藤樹雄)		戯曲作法 (板橋三郎)	俳優術 (土田屋也)	
13.50						
14~				英話 (渡鶴一)		
15~						

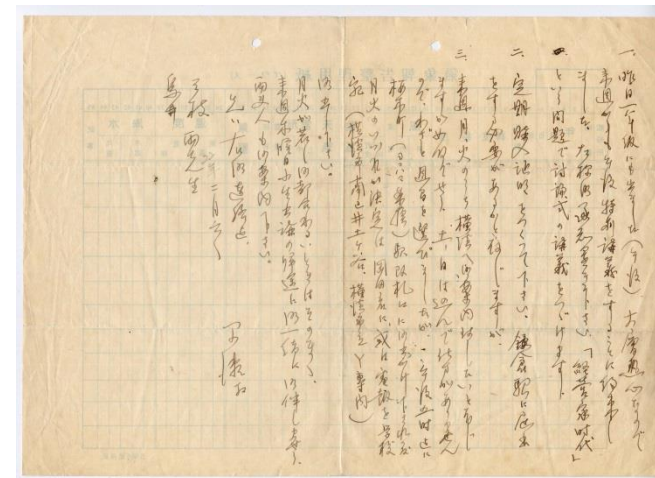
演劇科の時間表 昭和21年5月入学の時、黒板に記された時間表と教師の名前。生徒としてはもっと授業をやって欲しかったけれど、まいにち13時50分になると終了してしまう。そしてなぜか週休2日制で、水曜日は休日であった。(演劇科1期広澤榮記)



坂部先生の英語の授業風景 開山堂をベニア板で仕切って授業。机は払い下げの長椅子を転用。

[illegible]

昭和 21 年度「文学科講義題目」



「書簡」早瀬利雄より三枝・鳥井博郎両先生へ
「学生が熱心なので来週も特別講義を…」昭和 22 年 2 月 6 日

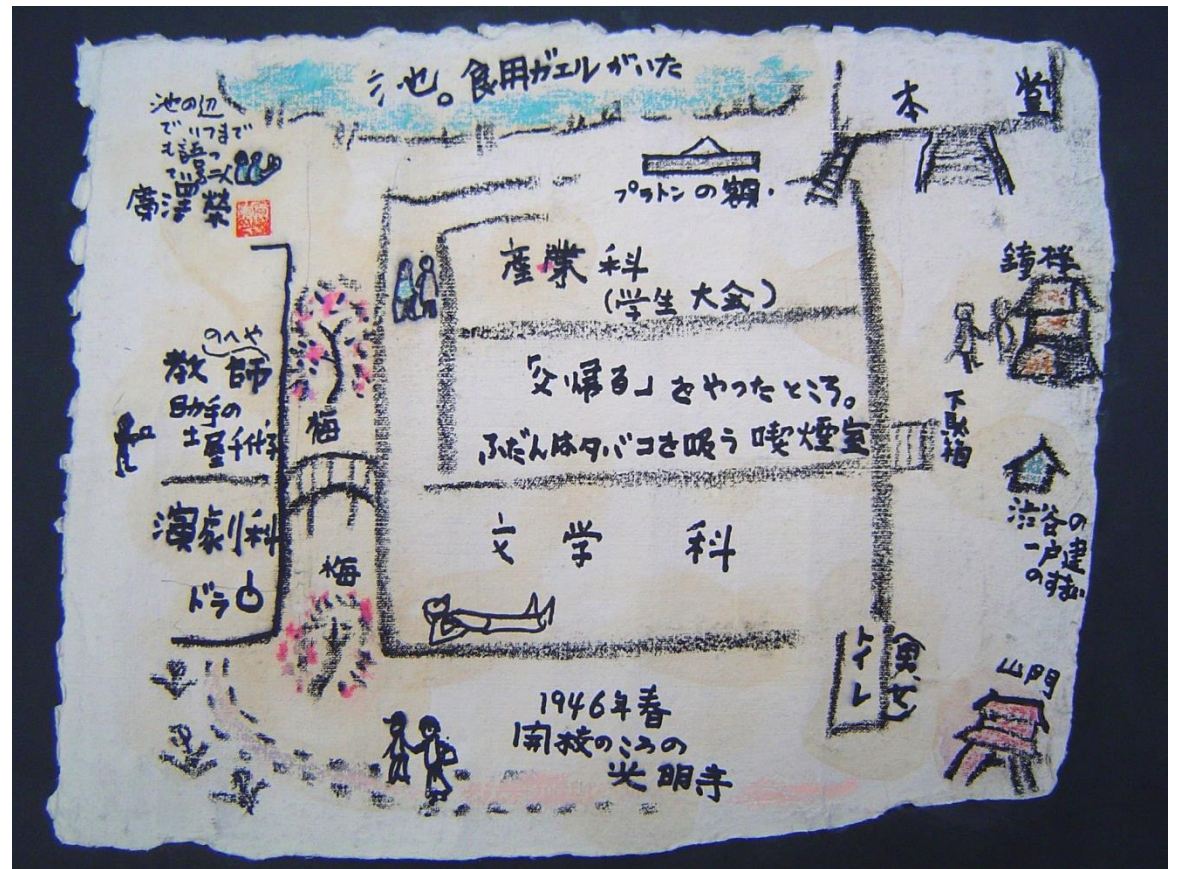


片岡良一先生の日本文学授業風景「明治文学の人間像」

「ホープ」(実業の日本社) 昭和22年10月号

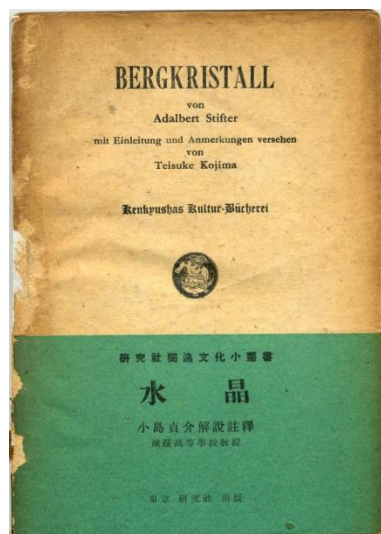
「……昨年4月創立、間もなくストライキさわぎで引退した飯塚氏の後をうけ、三枝博音氏が校長に就任。

爾来学校経営は教授会を中心とし学生側代表の意見も加えて運営され、入学試験の口頭試問にも学生が立ち会って採点する等という徹底した民主化ぶりだ。その是非は別として、こんな学校がこんな学校が一つでもあるということは楽しい。……」「来年からは新制高校も置き、鎌大の方も大学昇格を申請中ですが、校舎の方を至急何とかしなくては…」と服部学監は語って設計図面を示した。記者は堂々たる近代建築の鎌倉大学となる日を待望しつつも、天照山光明寺鎌倉大学校に限りない愛着を覚えつつ帰途についた。」(記者レポート)

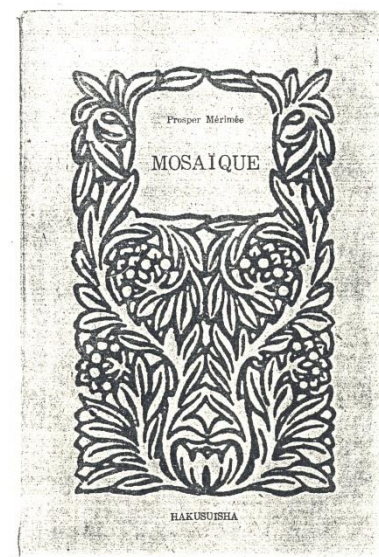


「開山堂教室の図」(演劇科1期生広澤榮画)

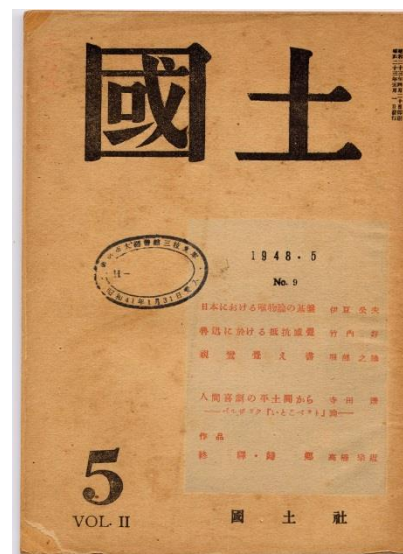
1946年開校のころの光明寺



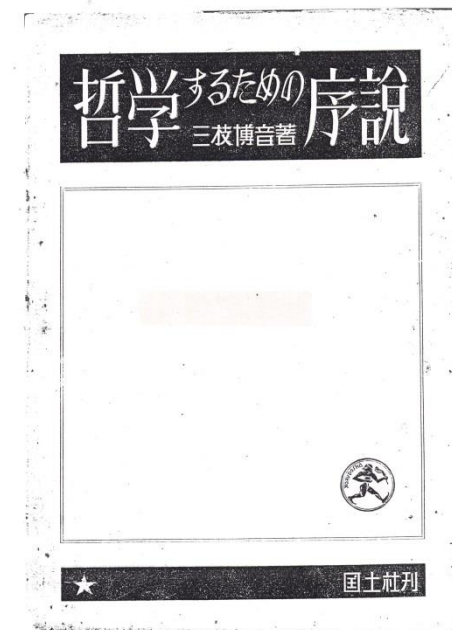
「BERGKRISTALL」VON
Adalbert Stifter (「水晶」)



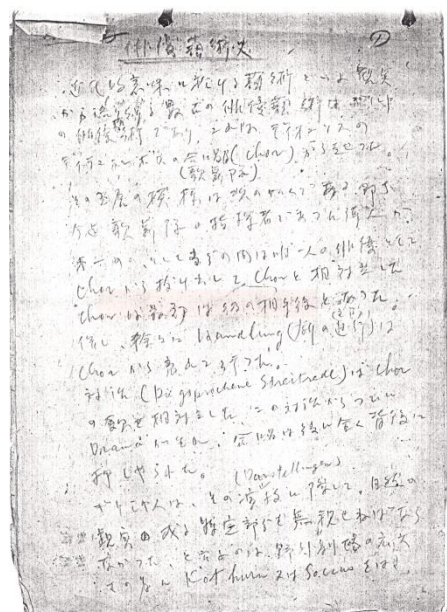
「MOSAIQUE」
1年生フランス語教科書



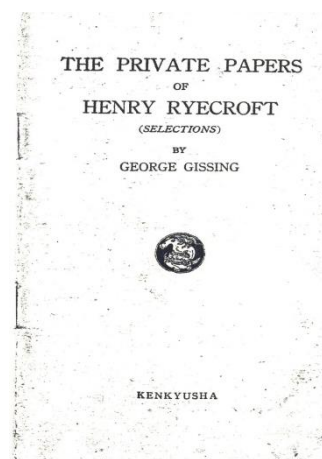
服部之總「親鸞覚え書」
『国土』1948.5)



三枝博音著『哲学するための序説』
(昭和23年12月)
学生に講義したばかりの新鮮な内容は次々と本となって発表された。本の売上げは学校の設備充実のために当てられることもしばしばだった。

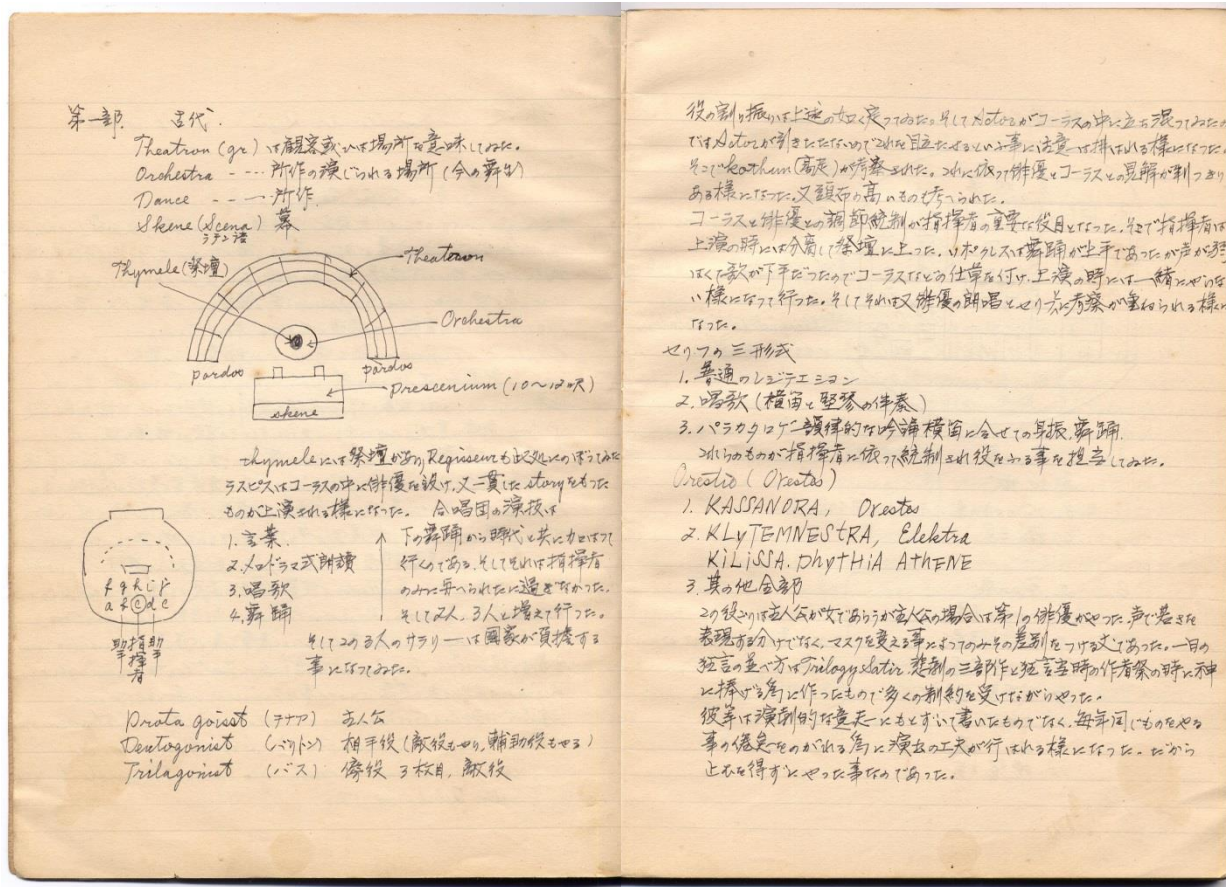


「俳優芸術史」草稿
遠藤慎吾教授



「THE PRIVATE PAPER of HENRYRYECROFT」
1年生英語教科書

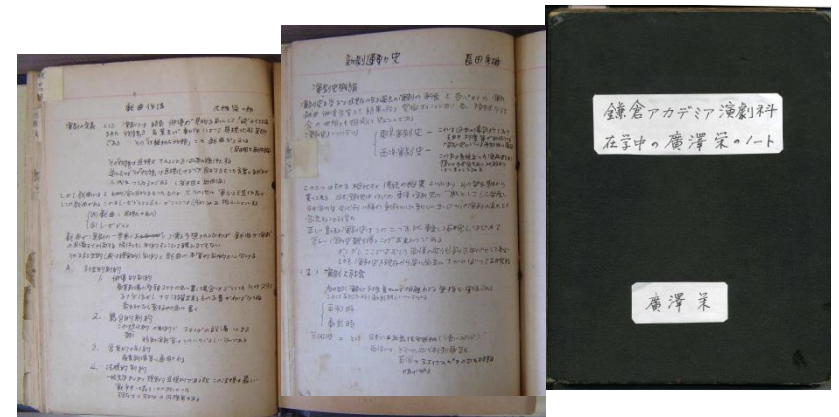
学生たちのノート



演劇科青江舜二郎教授講義受講ノート(演劇科 3 期生 齋藤英司記)

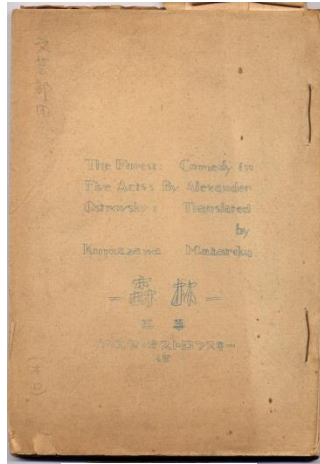


講義受講ノート(演劇科 1 期生 荒井満枝記)



演劇科講義受講ノート

「久板栄二郎 戯曲作法」「長田秀雄 新劇運動史」「飯塚友一郎 演劇概論」「千田是也 俳優基本術」「村山知義 演出論」など (演劇科 1 期生広澤栄記)



「森林」台本

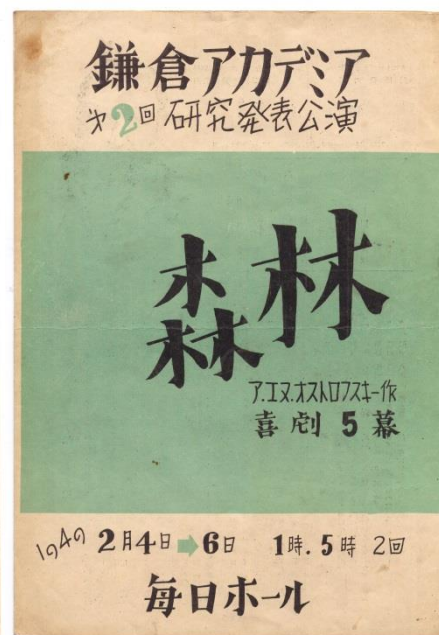
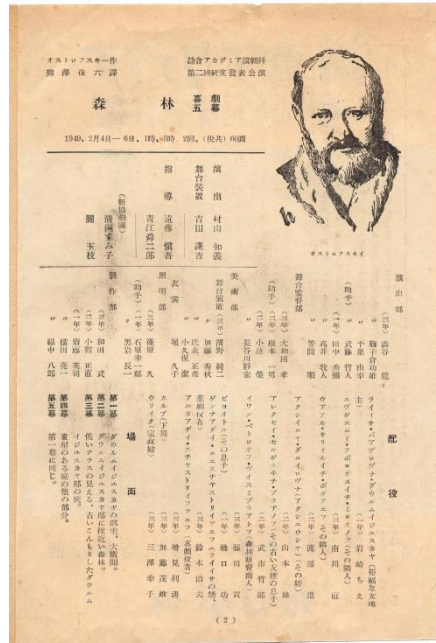


演劇科第1回研究発表公演「春の目ざめ」チケット

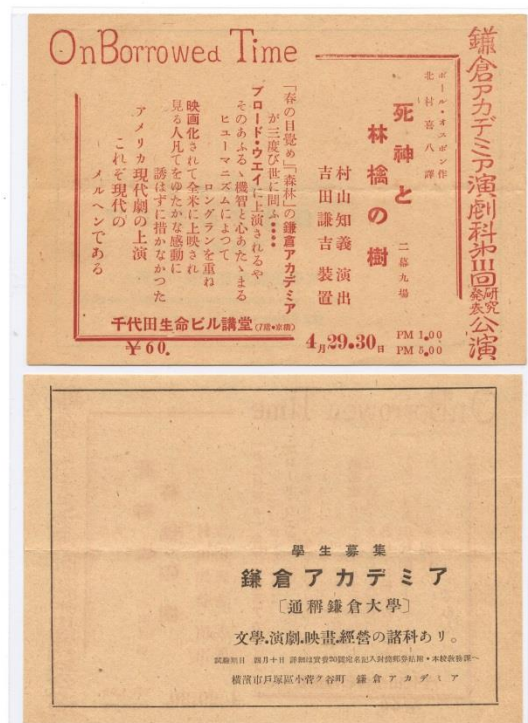
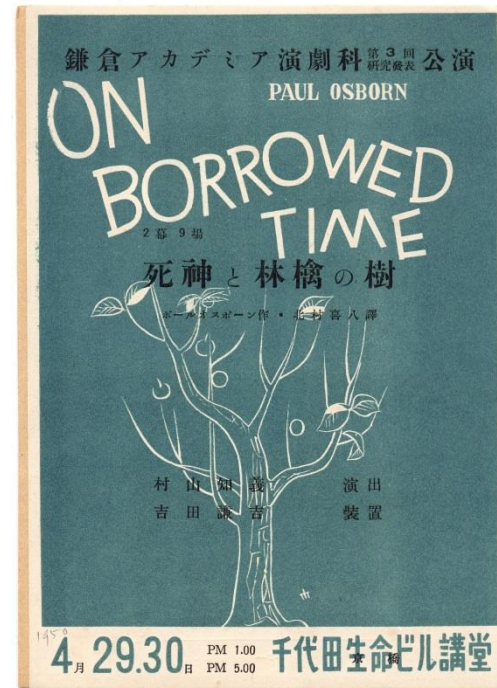
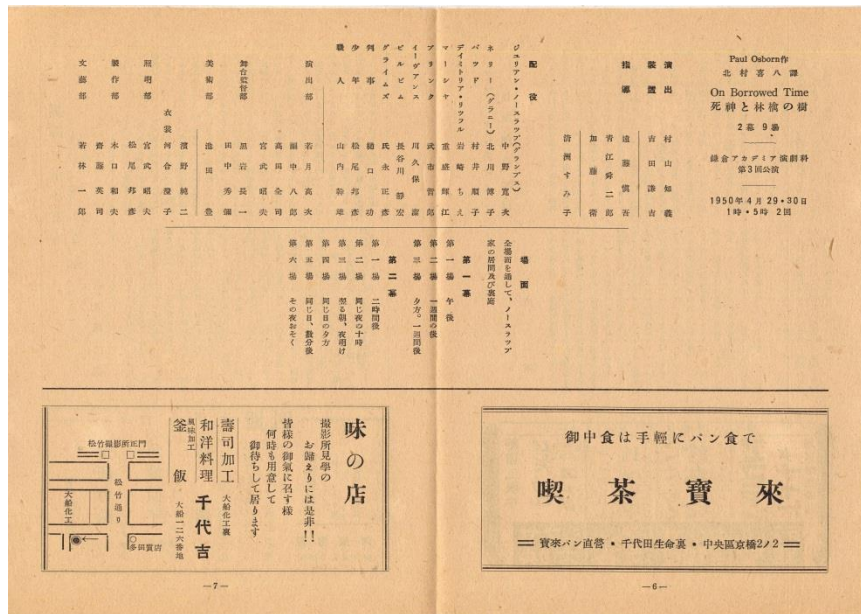
演劇科研究発表会



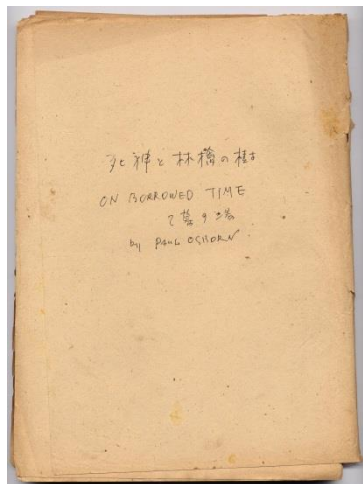
演劇科第1回研究発表公演「春の目ざめ」プログラム



演劇科第2回研究発表公演「森林」プログラム

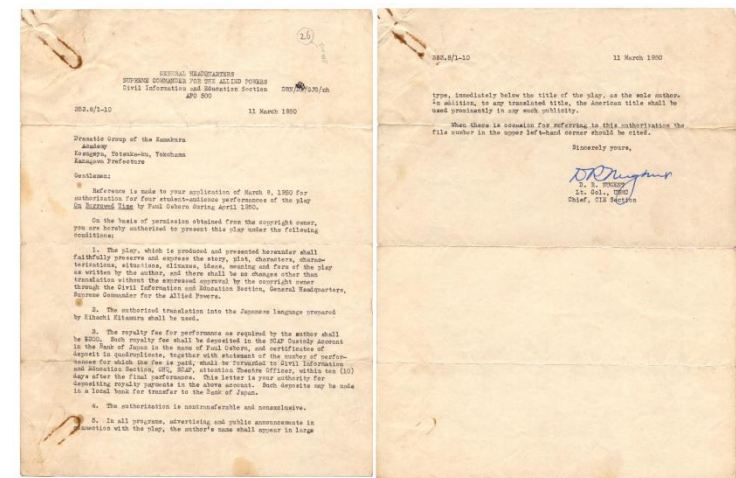


演劇科第3回研究公演発表「ON BORROWED TIME」(死神と林檎の木)プログラムとチケット



「死神と林檎の樹」台本

「翻訳は北村喜八さんで、台本を貰ったときには『おまけ人生』と題名が書いてありました。それを村山知義さんが、これじゃ分からないからと『死神と林檎の樹』と題名変更したのです。北村さんは不満だったようですが、演出家に押し切られたようでした。今にして思えばどっちもどっちだと思いますが、この頃は演出家の権力が絶大でした。木口記」



CIE(民間情報局)からの許可証
(「死神と林檎の樹」上演について)

燃料廠跡の教室前で演劇科全員集合。オストロフスキー原作「森林」の稽古中。1949年1月
 前列左から氏家正彦(Ⅱ)、川久保潔(Ⅱ)、加藤秀秋(Ⅰ)、浜野純二(Ⅰ)、
 2列目左から武藤哲人(Ⅰ)、加藤茂雄(Ⅰ)、渡辺信一(Ⅰ)、鈴木治夫(Ⅰ)、
 藤田貢(Ⅰ)、田中秀弥(Ⅲ)、千葉由幸(Ⅰ)、和田武(Ⅰ)、南川直(Ⅰ)、
 後列左から戸川正彦(Ⅰ)、若月高次(Ⅱ)、佐藤操(Ⅱ)、獅子倉功雄(Ⅰ)、
 岩崎智江(Ⅲ)、高松英郎(Ⅱ)、三沢幸子(Ⅰ)、池田豊(Ⅲ)、大和田孝(Ⅰ)、
 葛西久三(Ⅰ)、木口和夫(Ⅱ)、?、?、増見利清(Ⅰ)、樋口功(Ⅲ)



1949・2・3 毎日ホールにおいて「森林」上演を前に。
 横向きベレー帽姿は舞台美術指導の吉田謙吉氏。



1949・2・3 毎日ホールにおいて
 「森林」上演を前に。
 中央は演出家村山知義氏。



1949・1 鎌倉アカデミア教室にてけいこ風景

吉田謙吉 舞台模型



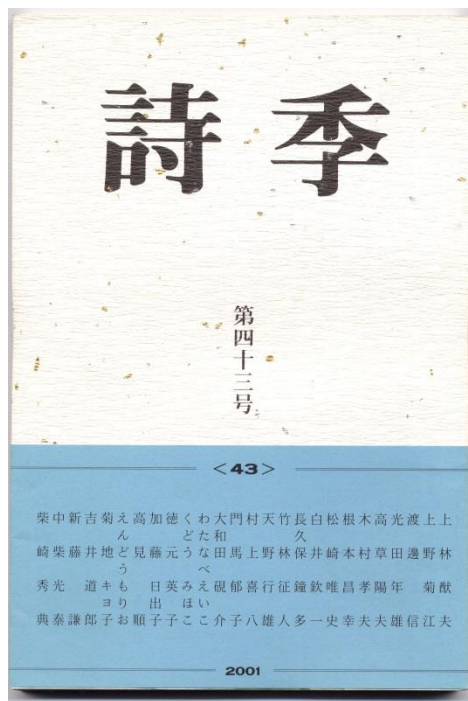
舞台模型 青江舜二郎作「河口」
 芸術小劇場公演(1939年2月・築地小劇場)
 吉田謙吉らしい写実的な装置。「社会主義リアリズム」一辺倒の新劇状況の中での作品だが、彼は晩年、この芝居で調査旅行をした酒田庄内地方のことをしきりに懐かしがっていた。(浜野純二記)



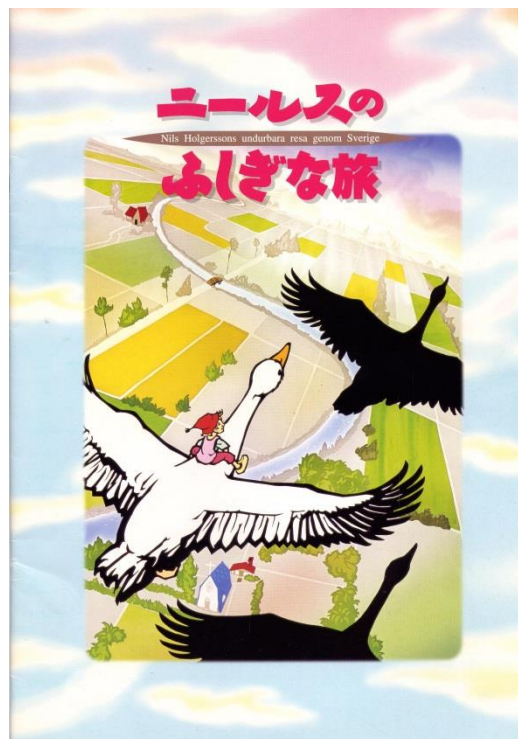
舞台模型 ゲーリング作「海戦」より
 築地小劇場第一回公演(1924年6月・築地小劇場) 閉塞された砲塔の中。水兵たちの恐怖と興奮、そして死。真っ赤に染まるホリゾンと破壊されるセット。吉田謙吉はこの芝居で、築地小劇場とともに鮮烈にデビューした。(浜野純二記)



第1回勉強会チケット 昭和24年4月 岸田国士「職業」・内村直也「秋の記録」・木下順二「三年寝太郎」



詩誌「詩季」 昭和54年（1979）の夏4,5人の有志で「いわき現代詩人会議」が結成され、翌年1月に詩誌「詩季」が創刊された。文学科2期白井欽一はその中心メンバーとして活躍してきた。高見順の未発表作品も収録し、アカデミア出身の相馬繁美、松崎忠、吉井道郎も詩作を寄せている。高見順を通じて池田克巳が主宰する「未来派」グループにも通じていた。



パンフレット「ニールスのふしぎな旅」
1993年 影絵劇団「かかし座」はアカデミア演劇科1期生後藤泰隆が1952年に創設した。その前身は鎌倉アカデミアで前田武彦らと始めたサークル「小熊座」である。

同人活動 卒業後



加藤道夫作「喜劇エピソード」鎌倉実験劇場
昭和24年9月、演劇科卒業生を中心に「鎌倉実験劇場」が旧市役所横にあった野外劇場「市民座」で産声を上げた。しかしこの一回の公演で幕を閉じ、鎌倉に根付くことはなかった。

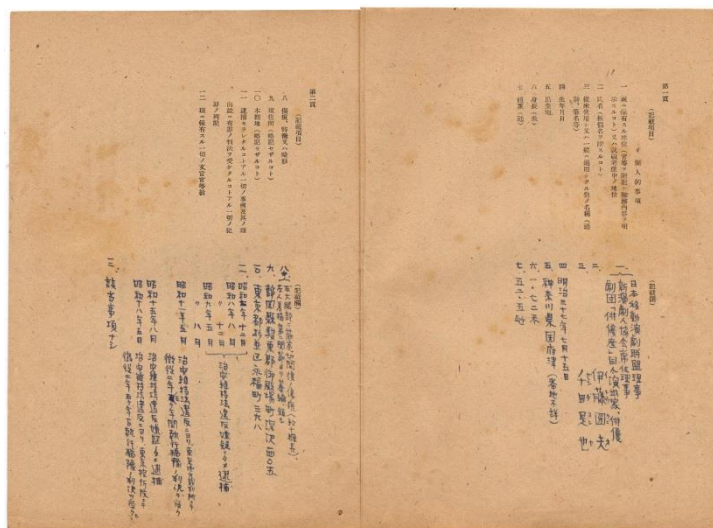
六. 教授と講師たち



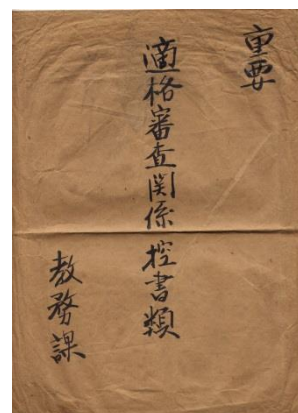
昭和22年秋一周年記念祭に光明寺庭園にて 最前列に三枝博音、2列目左から吉野秀雄、山口正雄理事、服部之總、3列目左から吉田健一(木のかげに)、長田秀雄、田辺寿利、村山知義、坂部キヨ(村山氏のうしろ)、菅井準一、4列目左から田代三千稔、春木猛、片岡良一、後藤平(片岡氏のうしろでほとんど見えない)、鳥井博郎、久保舜一、林達夫、山根清道、高見順、黒田俊夫、遠藤公

教授一覽(アイウエオ順)

氏名	担当講義名	生没年	備考
青江舜二郎	戯曲論、戯曲研究、演劇史	明37 ~ 昭58	劇作家、評論家
飯塚友一郎	演劇概論、特殊研究	明27 ~ 昭58	初代校長、演劇研究家
上田 寿	国語及文学	明30 ~ 昭48	文部省社会教育局勤務
遠藤慎吾	演技術、演劇史、俳優術、演技論、演技研究、物言ふ術、西洋文学、シエイクスピア、メーキャップ	明39 ~ 平8	俳優
岡 邦雄	技術学	明23 ~ 昭46	科学史家
岡崎良一	経済学概論	明40 ~ 平4	経済学者
片岡良一	国文学、国語講義、日本文学	明30 ~ 昭32	国文学者
加藤 衛 助	演劇概論、ドイツ語、西洋演劇史	明36 ~ 昭42	演劇理論
辛島 驥	東洋演劇史、中国小説論	大6 ~ 平11	中国文学
川俣晃自・助	ダンス論	大6 ~ 平19	劇作家、小説家、仏文学者
邦 正美	舞踏、芸能	大41 ~ 平4	舞踊家
久保舜一	心理学、産業心理学	大5 ~ 平20	心理学者
西郷信綱	国語、古典文学	明25 ~ 昭38	国文学者
三枝博音	哲学概論、哲学入門、文学概論	大4 ~ 昭52	校長、哲学者、科学史家、鎌倉ベンケイヲ
坂部キヨ	映画製作論、映画興行価値論	明29 ~ 昭46	映画監督、東京発声映画製作所所長
重宗和伸	自然科学入門、科学技術史	明31 ~ 昭59	自然科学史家、鎌倉ベンケイヲ
菅井準一	アメリカ文学	明36 ~ 昭57	英米文学
田代三千稔	論理学	明31 ~ 昭59	日本思想史家、鎌倉ベンケイヲ
鳥井博郎	新劇運動史、演劇史	明18 ~ 昭24	詩人、劇作家、鎌倉ベンケイヲ
長田秀雄	仏文学、世界文学	明44 ~ 昭63	批評家、劇作家、小説家、鎌倉ベンケイヲ
中村光夫	シナリオ論	明26 ~ 昭43	映画脚本家、鎌倉ベンケイヲ
野田高梧	西洋史、史学概論、日本近代史、日本古代史	明29 ~ 昭31	歴史学者、鎌倉ベンケイヲ
服部之總	世界文学、原典研究、文学史、文芸思潮論、ジャーナリズム	明34 ~ 昭59	評論家、翻訳家
林 達 夫	社会学、宣伝心理学、世界経済	明29 ~ 昭59	英語音声学、国際関係学、経済理論並経済学史
早瀬利雄	英語	明36 ~ 昭59	歴史学者、東洋史、考古学、鎌倉ベンケイヲ
春木 猛	経済学史、経営学、経済原論、特殊経済論	大42 ~ 平6	劇作家、装置家、演出家
古沢友吉	原始文化史、東洋文化史	明34 ~ 昭52	心理学者
三上次男	演出論、演出研究	明40 ~ 昭62	歌人、鎌倉ベンケイヲ
村山知義	ロシア語入門、ロシア文学	明34 ~ 昭52	映画監督
茂木威一	ドイツ語、心理学	明44 ~ 昭42	
山根清道	国語、日本文学、鑑賞創作、添削と鑑賞、創作指導	明35 ~ 昭12	
吉野秀雄	映画演出論	明44 ~ 昭42	
吉村公三郎			



千田是也氏(「俳優座」創設者)提出の調査表

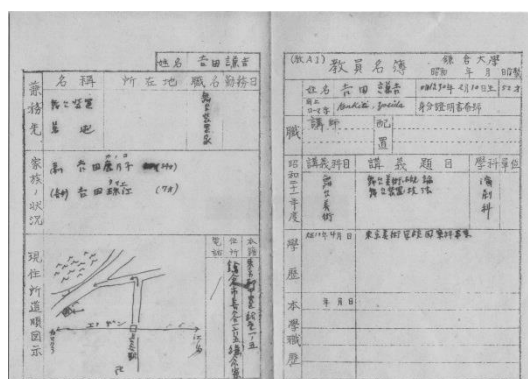


「教職員適格調査表(控)」32 名分
昭和 21 年 1 月に出された GHQ による
公職追放令は次第に対象が拡大され、
教職適格者審査が行われ、昭和 22 年
勅令第 1 号により違反者には罰則規定
が定められた。

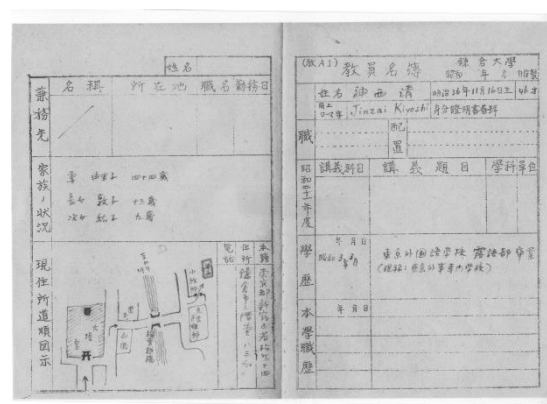


「教授名簿」
41名分の教授・講師の名簿

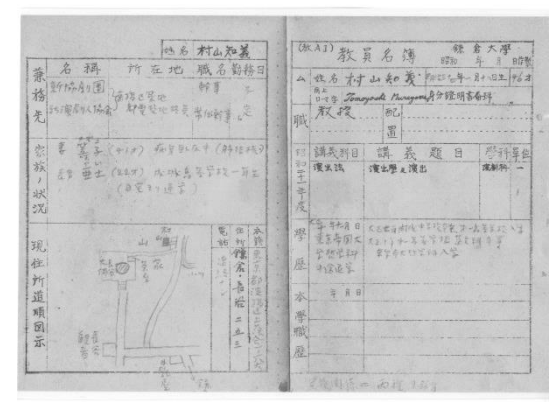
教員名簿 ↓



吉田謙吉氏



神西清氏



村山知義氏

教授のプロフィール（創立60周年記念展示会パネルより）

林達夫（思想家・評論家 明治29～昭和59）
『歴史の暮方』ほか。平凡社『世界大百科事典』編集長。
『アカデミア』では文学科長として三枝校長を支えた。物静かな講義が学生の心に残っている。「ベレー帽をかぶり、マドラスパイブをくねえ、襟のうを肩にしてやってくる。ゆったりとした口調で話す文学論。しかし内容はむずかしく理解困難」（文学科3期生回想）



「鎌倉大学といふ業りかけた船があり、離れて利口な船頭共があつたりと逃げ出したあと、「無意ある人々」が大軍で、風波の中を修理して、年の行かぬ何百の乗客を行く手の港に送り届けようとするのです。機が博覧強識も参議院も断つたのは一つにはその真の船を下りたといふのが最義未年になつてゐるからです。この大学の新理事が完成のことで退任し、放浪三枝博音、服部之雄が知らぬ間に開校を訪問したこのことで少々通解してゐます。しかしこの大学は僕も相当力を入れてゐる仕事で是非物にしたいと考えてゐるのです。……」
一九四七年九月二五日
小林勇（別巻1書簡）宛書簡、「林達夫著作集」(岩波書店)「平凡社」より

片岡良一（国文学者 明治30～昭和32）
『片岡良一著作集』全11巻
袴を着けて学校へ通われた端正な姿は学生の目に焼きついている。「袴に付いた落ち葉やホコリと共に教室に入られるや、そのままとめどもなく近代日本文学史が講義され、誠に仙人のようなお方であつた」「忠観の浪漫主義と称して森鷗外「舞姫」や樋口一葉の“なよたけ”“たけくらべ”を一刀両断に解剖してみせるのでした。その真摯な姿勢と明快な論評には、みんな顔を輝かせていきいってものです。」「眼鏡のかけから冷たい厳しい視線を投げるが、話される言葉は限りなくやさしかった。」（卒業生回想）

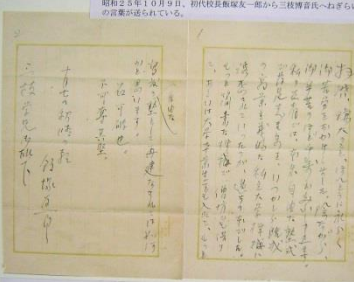


昭和54年7月5日 東京新聞

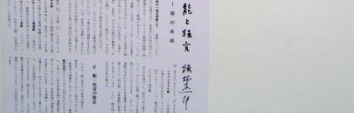


光州寺で学生とともに

飯塚友一郎（初代校長 演劇研究家 明治27～昭和58）
著作『歌舞伎細見』他
鎌倉大学の創立委員として中核的存在であったが、開校後まもなく紛争が起りあっさりと辞任した。鎌倉では「新能」創始などに力を尽くした。



昭和25年10月9日、初代校長飯塚一郎から三枝博音氏へおぎらいの言葉が送られている。



三枝博音

三枝博音（哲学者・科学史家 明治25～昭和38）
『三枝博音著作集』全12巻 別巻1
鎌倉アカデミア校長 「鎌倉ペンクラブ」所属
昭和7年、戸坂潤らと「唯物論研究会」をつくり『日本哲学全書』などを編集。『三浦梅園』研究をはじめとして、日本の科学史・技術史発展の先駆的業績を残した。昭和38年11月9日、「日本科学史学会」出席の帰途、国鉄鶴見事故で不慮の死を遂げた。
「瞑目され言葉を選び深く思索なさるかのよう。静かに机の間を歩きながら……」と師の姿が今も学生の目に浮かんでくる。



「談笑」 演劇科教授遠藤慎吾氏（左）と三枝博音氏（右）

村山知義（劇作家 演出家 装置家 明治34～昭和52）
『演劇的自叙伝』『村山知義戯曲集』（上、下）
アカデミアでは演劇科長。当時「新協劇団」をひきいる超多忙な演出家。弁証法の講義にはカルチャーショックを受けたという学生。30分の道のりの大船校舎へも必ず徒歩で通うエネルギーな先生であった。



昭和52年（1977）3月27日



村山知義さんの大きな足跡

青江舜二郎（劇作家・評論家 明治37～昭和58）
戯曲『火』（小山内薫に師事）『河口』『一葉舟』『西太后』『法隆寺』（岸田演劇賞） 著作『演劇の世界史』『竹久夢二』『狩野亨吉の生涯』など。演劇雑誌『悲劇喜劇』で活躍。



学校存続のために三枝校長と共に映画界など各界を奔走された。その様子は『落穂集』に詳しい。
『戯曲論』ではアリストテレスの詩学からフライターク、シラー、フロイトと滔々と朗々と講義が続いた。卒業後も学生たちと「アイルランド演劇」の研究会を続けた。（卒業生の回想）

先生のご専門はインド哲学で、中国演劇の第一人者でもあった。劇作法の講義の合間に、談たままシルクロードにおよぶと、もうその日の講義は、砂嵐に吹き飛ばされてしまった。先生は戦時中も長い間中国にいらしたから、果てしなく広がる砂漠の荒野の有様をいやっというほどご存じである。しかし、講義を受ける我々には、地平線までも続く砂漠なんて想像してもピンと来ない。そう言っっては失礼だが、先生がひとりコーフンしているような感じでもあった。
（演劇科2期木口和夫「風のたより」90号より）

重宗和伸（映画監督 明治29～昭和46）
昭和10年、独立プロ「東京発声映画制作所」を興し、豊田四郎監督と共に「泣虫小僧」「奥村五百子」「小島の春」「大日向村」「わが愛の記」などを製作。昭和23年鎌倉アカデミアに新設された映画科科長として就任。没後は卒業生たちが長らく、「もくせい忌」という追悼会を続けた。




映画科での授業風景

遠藤慎吾（俳優・演劇評論家 明治39～平成8）
戦前オーストリアウィーン国立演劇アカデミーで学んだ遠藤は演劇論や演技指導をとおして学生たちに新鮮な刺激を与えた。早くも「スタニスラスキー・システム」の演技論を講義。廃校後も学生や教師たちとの交わりが長く続いた。



「たいがいテレビで学兄の口から鎌倉アカデミアのことを伝えていた。だき、ほんとに輝く有様う存じました。木村（龍）君ではありませんが、あの当時の行動と思想がわくしの現在を支えている。この大きな柱であるべき、いまつくづく感じます。いろいろな進中がまだに訪ねてきてくれるのが、いまだにその進中がはくを支えてくれている感じがします。学兄のお若いのに、も感じました。アカデミアに人材ありです。当方でも無難寺子屋を開催中。
重宗 三上武明教授より遠藤慎吾校長へ 昭和50年11月30日
＊無難寺子屋は北鎌倉の自宅白水舎屋に続けられた第1白水舎屋」

坂部キヨ (英語教師 大正4～昭和52)

著作「ルイザ・メイ・オルコットの生涯」
翻訳：E. G. ヴァイニング「サンディ」
在米中に知り合った坂西志保氏の推薦で
教授として招かれた。戦時英語教育を受け
ていなかった学生の教育に腐心した。



昭和22年か、23年か、私が鎌大で曲がりなりにも先生をつと
めていた頃のことである。戦争で親を失った孤児たちのために、何
が役立つと金を出し募金をしたり、施設訪問をしていたグループで、子
供の雑誌を刊行しようという企てがなされた。作家の真杉静枝さんが
顧問格で、浪沢多歌さんが発起人であり、資金源の担当者でも
あった。『青空』という題名までついたその雑誌の企画は、とうとう
隔の目を見ずに終わってしまったが、その折り、三枝先生をお願い
して、いただいたのがこの詩である。

櫛の音聞こえずや さいぐさきると
東北の 海辺の 国民学校の先生たち 食を得るとて 夜の海に
鳥賊を釣るといふ おとどたち 聞こえずや か 櫛の音 磯に立
つ 先生たちの妻と子の 待つは カンテラの灯か
海産の学校に もし「賢治」あれば 一びきにても 鳥賊の 多く
捕れる 釣の仕方をば 教へよ
よし街に 押し立てならびゆく 旗につけ キヨホウヘンのあるは
とがめざらんも この機縁に 国民たちのために 往還する
「先生」の天職の 厳かなるものの 観念の (たとへ櫛の音をき
く詩心もたずとも) これを おとどたち とりにがすな といひ
ふのみ (回想、鶴見事故で三枝先生を失った悲しみの中で)

西郷信綱 (国文学者 大正5年生まれ)

『日本古代文学史』『古事記注釈』他
終戦直後、ダンスの服装もまちな学生に最先端のモダンダン
スを教えた。その光景を思い出し卒業生は思わす苦笑する。
邦正美は戦前にドイツで舞踊を学び、欧米で活躍した国際的舞踊
家。旧制松江高校で小泉八雲に師についてドイツから招聘されたカルシ
ュ先生の薫陶を受け、自由な精神を身につける。芸術と同じように
学問をする傍ら、半ば反発し、舞踊界にデビュー。ありとあらゆる
舞踊の勉強に励む中で矛盾に直面し、1936年ドイツベルリンへ
留学。ドイツ国立舞踊大学などで舞踊を学び(哲学博士)、トーマ
ス・マン他著名な文化人と出会う。戦後のベルリンに居住し、捕虜
となり、敗戦間近の日本へ帰り着く。戦後、日本に研究所をつくり、
カリフォルニア州立フランドン大学などで教鞭を執る。



記念碑除幕式 1996(平成8)年5月14日
左より亀崎彦(産業科1期)、増見利清(演劇科1期)、加藤茂雄(演劇科
1期)、西郷信綱先生、宮野澄(文学科1期)の各氏。

邦正美 (舞踊家 明治41生まれ)

『文化と文化』『ベルリン戦争』他
終戦直後、ダンスの服装もまちな学生に最先端のモダンダン
スを教えた。その光景を思い出し卒業生は思わす苦笑する。
邦正美は戦前にドイツで舞踊を学び、欧米で活躍した国際的舞踊
家。旧制松江高校で小泉八雲に師についてドイツから招聘されたカルシ
ュ先生の薫陶を受け、自由な精神を身につける。芸術と同じように
学問をする傍ら、半ば反発し、舞踊界にデビュー。ありとあらゆる
舞踊の勉強に励む中で矛盾に直面し、1936年ドイツベルリンへ
留学。ドイツ国立舞踊大学などで舞踊を学び(哲学博士)、トーマ
ス・マン他著名な文化人と出会う。戦後のベルリンに居住し、捕虜
となり、敗戦間近の日本へ帰り着く。戦後、日本に研究所をつくり、
カリフォルニア州立フランドン大学などで教鞭を執る。



加藤衛 (演劇研究者 演劇運動指導者 大正3年～平成4年)

1949年秋、演劇科2・3期生が「鎌倉児童劇場」を作り「ハ
ーメルンの不思議な笛吹き」をもって、横須賀地区の小学校を巡回
した。演技指導はもちろん校長や市役所担当者との交渉など、久里
浜在住の加藤先生は学生と共に奔走した。1952年「横浜演劇研
究所」を創設。現在も飯田克衛氏らによって継続発展されている。
初期には遠藤慎吾、青江舜二郎、千田是也等を講師に招き勉強会を
おこなった。アマチュア演劇運動を指導。



高見順 (小説家・詩人 明治40～昭和40)

『高見順全集』全20巻・『高見順日記』全8巻
昭和22年神奈川新聞に連載した、小説「神聖受胎」は鎌倉大学校
をモデルにしたといわれる。『高見順日記』には昭和22年1月、「鎌
倉大学政治経済思想冬期講座」を観まれ「文学的人間像」の演題で講
演し、その後講師として出講するようになったことが記されている。



「辞令」(日本近代文学館所蔵)

ある日友人と高見さんの家にわ
ろわしたとき、執筆中なのにな
ざわざ出てこれ「申し訳ない
が何か食べて帰ってくれ」と奥
さんにいってさういふ時私
達にはいへないが、その時私
調で話しかけていた、婦りがら
友人とこわれたら大事にされ
ているとつくづく話した(文
学科3期生回想)
☆作品の相違や人生相違に高見
家を招いた学生多い。

長田秀雄 (詩人・劇作家 明治18～昭和24)

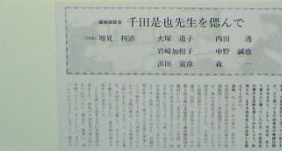
新劇界の長老。史劇「大仏開眼」は代表作。
鎌倉大学校では「歌舞伎の荒事と和事」が最初の講義。松井須磨
子の回顧談には熱が入り、学生たちをまるで築地小劇場時代にい
るような錯覚に引き込んだという。
当時長谷高徳院の大仏の前に住まいがあった。鎌倉ベークラブ所
属。鎌倉大学校設立の情報は、いち早く千田是也や遠藤慎吾にもた
らされた。また創立の夏、大学の体制が整わないことにいら立ち、
演劇科の教授たちをとめない不満を爆発させたのも長田であったと
いう。



鎌倉大学一周年記念祭にて教授達とともに。
正面、めがねの宮野秀雄の前め後ろ、原章をくわえた人物

千田是也 (俳優・演出家 明治38～平成6)

大正13年築地小劇場創立に加わる。昭和19年2月劇団俳優座
創立。千田の100年の人生は日本の新劇の歴史と重なる。 演劇
科1期生増見利清は千田に学び俳優座演出家となった。
鎌倉大学設立の情報は演劇会館の長老長田秀雄から俳優座にいた遠
藤慎吾と千田是也にもたらされた。千田は数回鎌倉へ通ったが、そ
の後はしくなり姿を見えなくなった。(遠藤慎吾「署名のある本た
ち」日本古書通信昭和62年)
「先生は白いシャツに半ズボンのスタイルで颯爽と光明寺に現わ
れた。ヒットラーユウグントに似た外国風のイメージだった。」(卒
業生の回想)



神西清 (翻訳家・小説家 明治36～昭和32)

『神西清全集』全6巻 ジイド・ブルーストらのフランス文学、プ
ーシキン・ツルゲーネフ・チャーボフらのロシア文学の紹介、名翻
訳家としてその作品は生きていて。堀辰雄と終生の親交を保った。
学校では「太宰治論」などを講義し、ある学生は「萩のちやが
かっているような神秘的な雰囲気授業された」と回想している。
蘇鉄の庭で車庫の授業もあった。



角川書店にて 昭和23年3月19日



昭和26年 山岡家茶室にて

昭和25年2月3日 鶴岡八幡宮にて部分見まき
年男として

歌人 吉野秀雄



吉野秀雄(歌人 明治35～昭和42)

大正14年から鎌倉に住み鎌倉ペンクラブに所属。アカデミアでの教師や学生との交わりは山口瞳「小説・吉野秀雄先生」にも描かれている。学生たちと若宮大路を歩いていた姿を覚えている人も今ではほとんどいなくなった。

(省略)

先生は教室にはいつてきて、何も言わずに、いきなり、黒板に吉野秀雄と書いた。大きな字だった。白墨を叩きつけるような、勢いのいい書き方だった。

「これが、私の名前です」

しばらくの間、自分の字を見ていて、こちらにむきなおつて、そう言った。自分の字の一字一字をたしかめているような感じだった。

私たちは、あつげにとられた。先生の声は、まさに庫裏の障子の震えるような大音声であった。大きな声であるばかりでなく、不思議な熱っぽさと力強さにあふれていた。ふりしぼるような声だった。先生は、まず、みんなの前に、俺が吉野秀雄だと名告つたのだった。

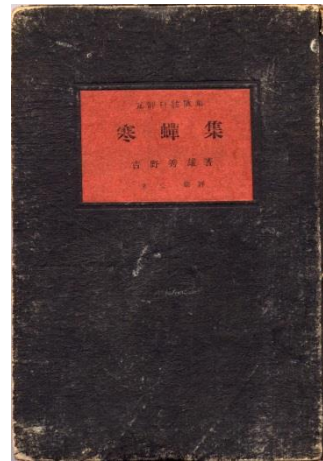
後に西郷信綱さんは「吉野秀雄という存在は、私にとって神気をおびた一つの驚異であつた」と書いておられる。そういう感じが、ただちに、私を撲った。腹の底に何かが響いたようだ。おそろしかった。：

(山口 瞳『小説・吉野秀雄先生』文藝春秋

昭和44年5月)



『創元』昭和21年12月小林秀雄編集
(吉野秀雄「短歌百余章」を掲載)



歌集『寒蟬集』吉野秀雄著
昭和24年6月 講談社

書簡

(省略)

私のことで仲に立つてお骨折り下され恐縮でした。

学校の事情も飯塚氏の気持ちもよくわかりましたのでそれに応じてやっていくより外ありません。そちらの本当の希望は一学期位で片づくやうにといふのでせうし私もできたらさうしたいとは思いますが、最初飯塚氏が実作の外に鑑賞や文典をもといふやうな話でしたので、金塊集教へようと思ひ立ち、それには五回や七回で手品を使ふやうなわけにはいきませんので、自分の見通しを申しあげただけのことです。やれるだけのことはやつて一学期で打切るなり秋までつづけるなりそちらまかせにいたします。いづれにしても学生に対しては全力をつくしますから、その点はどうか御安心下さいまし……

就職論文は御容赦願ひたう存じます。心ある人間のできることではなく、要求すべきものでもないでせう。私は「正式の就職」といふことは素々思つてゐませんが、ただ人間一人を何ヶ月間か責任もたせて仕事させようといふのに一ヶ月二百円や二百五十円ではあまりひどいと思つたのです。

しかし学校の経済状態について御説明もありましたし、いまはよく納得いたしました。虚心坦懐にほんとの犠牲的社會奉仕の念に燃えた三人でも五人でも、学生に詩精神を鼓吹し、創作のよろこびを知らせることをめあてにして、日本一清らかな気持ちで、渾身の力を傾けるつもりですから、どうか信用して下さい……

五月二十三日(昭和21年)

吉野秀雄拜

『吉野秀雄全集』(筑摩書房)第八巻より

書簡 吉野秀雄より久保舜一宛 昭和21年5月23日

七月三日(昭和二十一年)

短歌吟行。皆子さん、若林、山口、芳賀、吉田、関、榎本、伊藤、私。大仏から裏をゆき、日野俊基(東下り)の墓等見て、銭洗弁天で昼食。先生宅へ行き、井野瀬先生と共に合評。伊藤さんは山を下りたところまで帰られる。相変わらぬ選の下手さにあきれる。山口さんに入れてあげたかったのに。「岩の壁に釘打ちこみて数々の札がかげたり洞窟弁天」。先生が名詞止めに直して下さい。

七月十二日

午前中キャンプストアへ。午後万葉集御講義。八木夫人も来られる。習う万葉はできる限り暗記するつもりである。

八月二日

万葉集御講義

九月二十日

朝、山口さんと一緒にいる。提出短歌を私だけにを見せて下さる。

「獣めくわが性悲し砂浜に抛ちて吠えむとぞする」
「人の世のなべてを熱く愛さんと心に誓ひつ秋風に立つ」

後の方は少し間違っているかもしれない。前の一首ほど悲しく烈しく御自身をいじめる歌はないように思われる。

九月二十七日

短歌会。山口さんインクをこぼしてしまったので早退。(この日主人は「獣めく」の歌を吉野先生に大変ほめていただき、その後で廊下を駆けていてお友達とぶつかりそうになり、持っていたインクで洋服をよくこしてしまつたのです。)

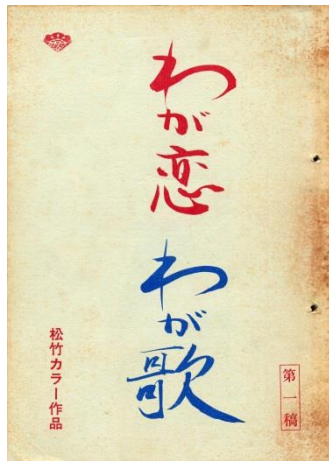
十月四日

吉野先生の御講義とてもよかつた。ご自分の日記を引いて作歌の経路を話して下さい。吉野先生は本当にありがたいと思う。私にも歌が作れますように。

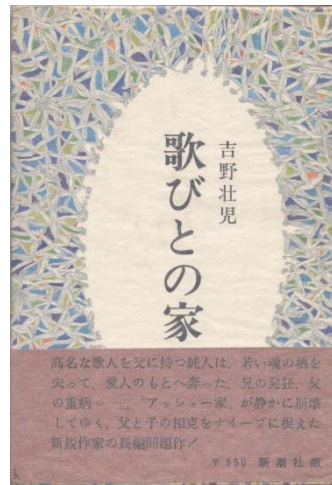
やまぐち はる「月報」まんよう「より



映画「わが恋、わが歌」(1969 年松竹 監督中村登)より
 原作: 山口瞳「小説・吉野秀雄先生」 吉野壮児「歌びとの家」 吉野秀雄随筆集「やわらかな心」
 脚本広澤榮(鎌倉アカデミア演劇科 1 期生) 出演: 中村勘三郎 八千草薫 岩下志麻ほか



「わが恋、わが歌」シナリオ
 広澤榮



吉野壮児『歌びとの家』
 (「新潮 65 巻 2 号 1968 年」)



生誕 100 年記念展「歌びと吉野秀雄」図録
 神奈川近代文学館

吉野秀雄「病床日録」

昭和三十七年

三月二十日 くもり うそさむし

宮川晟君見舞いに来る。果物もらふ。

四月十六日 晴後曇

三枝博音氏の「日本人の合理性」といふラジオ放送(NHK)が今日より三日間始まる。よき話なり。

二人して聴く。

六月四日 雨

木村聡来たり。三崎水産の校歌催促さる。苺大箱もらふ。

七月二十一日 くもり

木村聡君来り、校歌の礼もらふ。校歌二度歌ってくれた。

十二月十二日 くもり時々晴れ

夕方若林泰雄君来り、「伊豆の会」の連中、大竹・吉田・後藤・宮川・若林の五人よりの果物一籠、

湯川屋よりの猪の肉・野菜もらふ。肉の外にこんにやく・葱・豆腐・牛蒡・春菊・大根・たれ一瓶。外に自

然薯一箱。今日の猪鍋。三人にて一物もあまずところなく、食ひつくしたり。

十二月十六日 朝雨声あり 12° ~ 14°

夕方、吉田謙吉氏見舞ひに来訪さる。しばらく会談す。

昭和三十八年

一月二十二日 晴 風 0° ~ 10°

夜、九時のラジオニュースにて山口瞳君の「江分利満氏の優雅な生活」直木賞になりしこと知る。九時

四十五分テレビにも写る。

二月十日 くもり 7° ~ 10°

正午過ぎ三枝先生見舞ひに来られ、しばらく話す。山口瞳受賞のこと共によるこぶ。福羽いちご二箱

下さる。

二月十四日 晴 4° ~ 10°

『江分利満氏の優雅な生活』とどき、さつそくあちこち読む。やはり読ませる。

十一月九日 快晴 風なし 14° ~ 16°

九州大牟田三井三池炭礦の炭塵爆発。死者現在百七十一名。

十一月十日 快晴 14° ~ 16°

けさ5時より一時間ラジオニュースきき、三枝博音氏遭難のこと五時四十五分頃聞きて驚く。六時より

二時間半テレビニュース見る。三枝博音は真田病院といふに運ばれて後息絶えしが如し。

夕べろくに寝ず。朝食後十一時まで眠る。

とみ子、佐渡の八珍柿を籠に盛りたるを持ちて、北鎌倉三枝家へ悔みにゆく。二時間ばかりにて戻り、

霊柩車鶴見より着きしこときく。人々参集しをりしよし。三枝さん遭難の件にて終日憤怒した。

十一月十一日 くもり時時晴

横須賀線鶴見事故のため、神経が普通に戻らない。選挙の騒ぎなどもふざけてゐるように感じられる。

十一月十二日 晴 12° ~ 17°

久枝武之助の娘さん安岐子さん(25)、鶴見事故にて死亡のこと今日始めて聞き、新聞にて見る。(鎌

倉市関係の死者三十一名) とみ子午後まず二階堂の久枝氏宅へお悔やみにゆき、それより北鎌倉円

覚寺内帰源院の三枝博音氏葬儀に列す。夕四時半帰宅。横浜市立大学葬は十一月二十五日なり。

十一月十三日 薄曇 13° ~

夕べはもとの学生たち二十七人、一会催せる華正楼より押しかけ来り、余の作りしアカデミアの校歌合

唱せんといふ。余は死んだ時にしてくれといひてやめてもらひたり。三枝さんの葬式に校歌うたひて、余

のことと思ひ出したるらし。うれしく感じたり。

七. 学内同人活動

活動していたサークル・グループ名

演劇

かもめ・みつばち・小熊座・ひとみ座・反響劇場（児童劇場）・日紡工場移動公園グループ・劇団大衆劇場・劇団演劇座・すばる・アイルランド演劇研究会・勉強会・実験劇場・放送劇研究会

文学

「霧笛」・「尖塔」・「裸像」・「習作」・万葉集研究会・短歌研究会・俳句研究会・中国文学研究会・近代文学研究会・鎌倉文学グループ・詩研・創作研

歴史・社会学その他

考古学研究会・古代史研・唯物論研究会・社会科学研究会・ヘーゲル哲学研究会・菅井邸での勉強会・住吉会（あかつき会）・1・2会・民主主義映画サークル・耽美荘グループ・FB（フアイヤーブラザーズ）・コーラス部・バンド・野球部・海浜クラブ



開山堂入口に掲げてあったサークル活動予定表

- （月）俳句会、考古学研究会、講座、女性ノ会
- （火）佛語研究会、独逸語研究会、詩会、山岳部
- （水）話の泉、英語研究会、洋裁講座、レコードコンサート、哲学研究会、古墳研究会、経済研究会
- （金）万葉集研究会、近代文学研究会、古代社会研究会
- （土）社会科学研究会



試演会 菊池寛作「父帰る」
昭和21年6月25日、開山堂において最初の演劇科グループ活動。



「海賊」グループ(文芸サークル)



「父帰る」左より金田邦美(父)、山口麗子(妹)、三沢幸子(母)、
増見利清(弟)、宮川晟(兄)



詩サークルの集まり
右から3人目相馬繁美氏(文学科1期)



小熊座影絵「アリババと40人の盗賊」



小熊座影絵「おねむい王様」



児童劇団「小熊座」地方巡業 千葉県内 左から北川博子、北川(兄)、4人
目後藤泰隆(のちに影絵劇団「かかし座」創立)、氏永正彦、三井緋紗子(鎌倉女学院)、前田武彦、後ろ城田康一郎、右端川久保潔(声優)



「鎌倉大学海浜クラブ」(鎌大海の家)
産業科実習の一環として学校から材料費
など資金提供を受けて21年夏7月、8月
に設けた「海の家」である。産業科1期生
野崎茂の日記には、建設地の地均しの様
子や潮に流された人を救助したことなどが
記されている。



野球に興じる。各科対抗、対神奈川師範、対松竹撮影所チームなどの試合が行なわれた。



バンド演奏 1周年記念祭の舞台で

考古学研究会

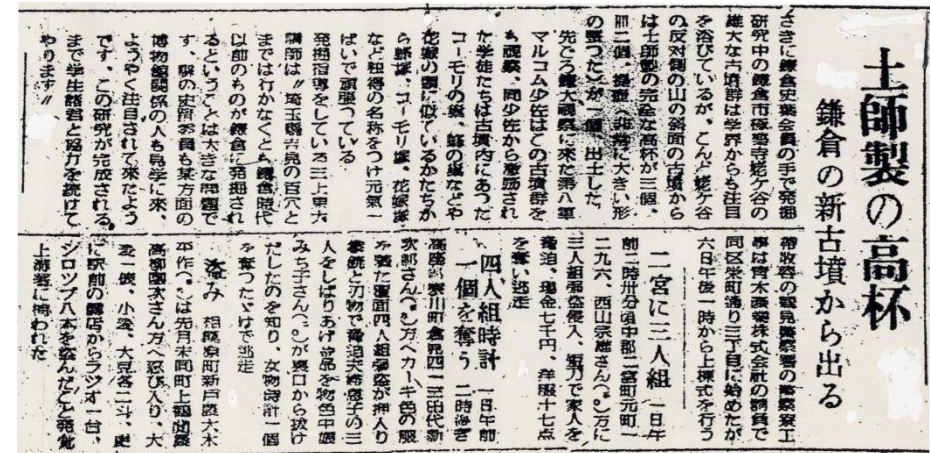


「千年前の古墳群発見」

(「日本ニュース」第 80 号 昭和 22 年 7 月 22 日封切り上映)

「稲村ヶ崎西北方姥ヶ谷に30余の横穴古墳が発見された。東大三上教授の指導で5月17日から発掘されているが、奈良・平安時代の豪族の墓地と見られ、頭蓋骨・人骨などくずれているが多数発掘された。」と鎌大考古学部が発掘している様子が映し出された。

写真左から飯村裕次(産Ⅰ)山口昭(産Ⅱ)三好叶生(産Ⅰ)



「土師製の高杯 鎌倉の新古墳から出る」(神奈川新聞昭和 22 年 9 月 2 日)

三上次男教授のもとで「鎌大考古学サークル」は元気いっぱい極楽寺古墳を掘っている様子が報道されている。

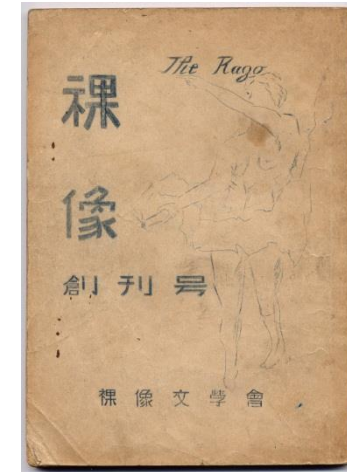
同人誌



「龍鱗」創刊号(昭和21年7月10日)
「龍鱗」とは、遠く鎌倉時代に遡り、時の執権北条氏の家紋にして、その由来するところ鎌倉の伝統とわが学園の地鎌倉山夕日丘を表徴する遺憾なきものである。文芸部機関誌。巻頭言は飯塚友一郎氏。



文学雑誌「尖塔」(同人 川西五郎・平林勝夫・稲田三吉・山内正信・後藤映夫・芳賀義宏・若林泰雄・関昇・山口瞳・宮野澄) 紙のない当時としては二色刷りの表紙を持つ冊子に皆目を見張った。創刊号昭和21年12月 第2号昭和22年5月



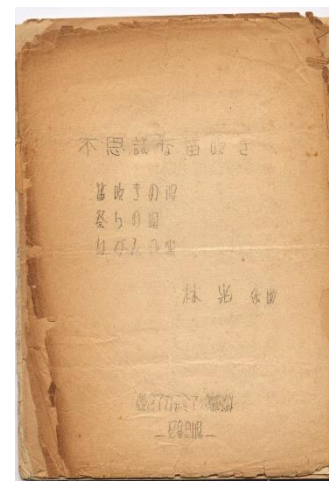
「裸像」
文学科2期生による。昭和22年10月 編集花岡信衛・表紙カット木村聡
同人吉野章、原輝夫、白井欽一、室井肇、菊池修一郎、菱見昌弘



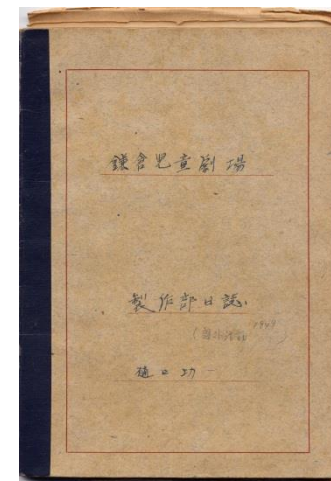
「習作」ETUDE 文学科2期生による「裸像」復刊第1号。昭和24年 吉野秀雄「富嶽」、神西清「水浴について」の寄稿が見られる。



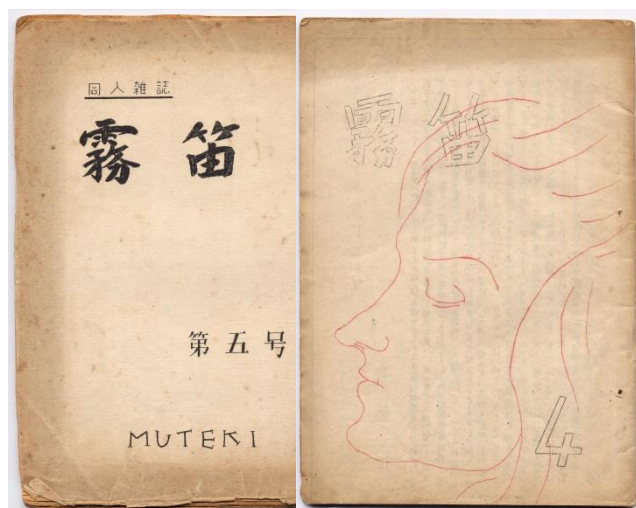
同人雑誌「霧笛」 同人に真杉盛雄、相馬繁美等の名前がある。



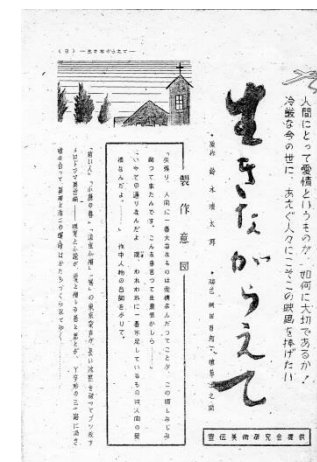
「不思議な笛吹き」台本 作曲 林光 (笛吹きの歌、祭りの歌、ねずみの歌)



「鎌倉児童劇場製作部日誌」1949年 樋口功

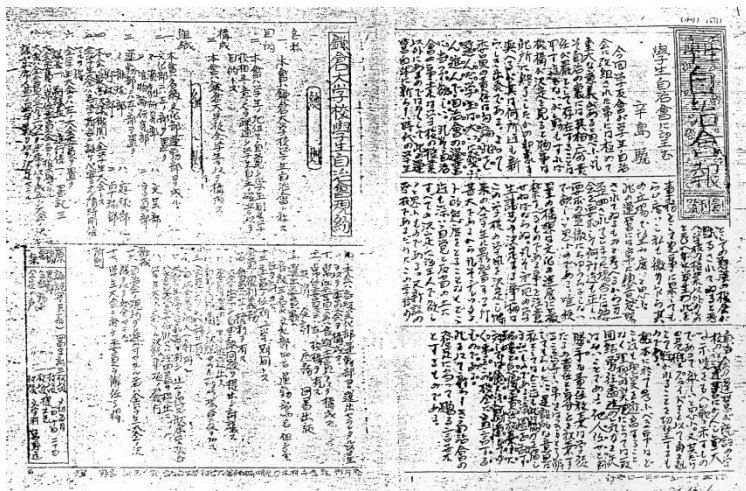


「ラ・ファンタジー」No.1 巻頭言で遠藤慎吾氏が、欧米の実験劇場の実情と精神を紹介している。



「芸術創造」映画科発行1949年5月
“生きながらえて”東京発声再起第1回作品
解説とシナリオ・特集鎌倉アカデミア3年史
ほか

学内新聞



学生自治会報(第1号・第2号・第3号)昭和21年12月 薄い粗悪な紙がヤミで入手できたというので裏表1枚の自治会報を出した。社交ダンスを本堂でやる者が出てそれが我が校にふさわしいことであろうか、等という論争も出ている。



Academia Times 第1号・第2号・第3号 (1949年6月・7月鎌倉アカデミア自治会文化部発行)「私の描いている学園」三枝博音・「愉快な学園」田代三千穂・「偶言」—吉野秀雄談話アカデミアの将来と大学など真剣な誌上討論が繰り返されている。



「フェニックス」鎌大共産党細胞発行 1947年1948年「大学建設が進まないのはなぜ？」と問い詰めている。

◆ 演劇同人 かもめ会



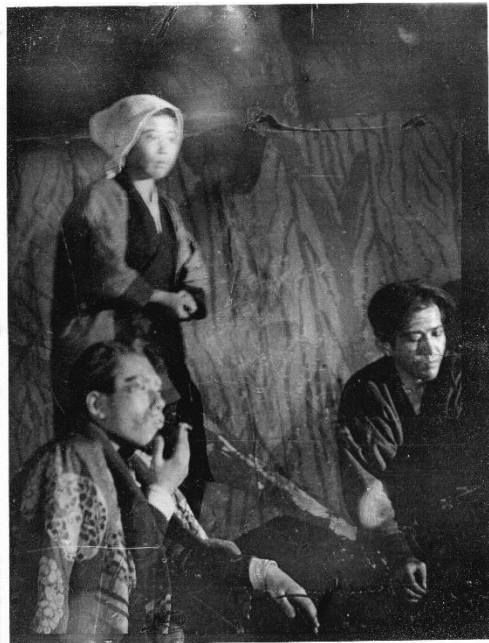
昭和21年9月4日、村山知義演出「どん底」(ゴーリキー作)の総仕上げを帝国劇場へ見に行く。学生たちは屋上へ上がってひと休み。リアルな舞台に衝撃をうけた後の開放感を味わっている。正面山口麗子、後ろ左から玉置久子、向井二三子、三沢幸子、南川直、前田武彦。撮影は南川直氏の兄。



帝国劇場で「真夏の夜の夢」(シェイクスピア作・坪内逍遙訳・土方与志演出)上演
昭和21年6月5日演劇科学生たちは全員舞台稽古を鑑賞した。



かもめ会同人 秋山真太郎・今泉隆雄(いずみたく)・葛西久三・数永美智子・勝田久・獅子倉功雄・篠原久・鈴木治夫・杉浦浩子・玉置久子・千葉由幸・戸川正彦・広澤榮・増見利清・前田武彦・三沢幸子・南川直・向井二三子、山口麗子(回覧雑誌「鷗」より)

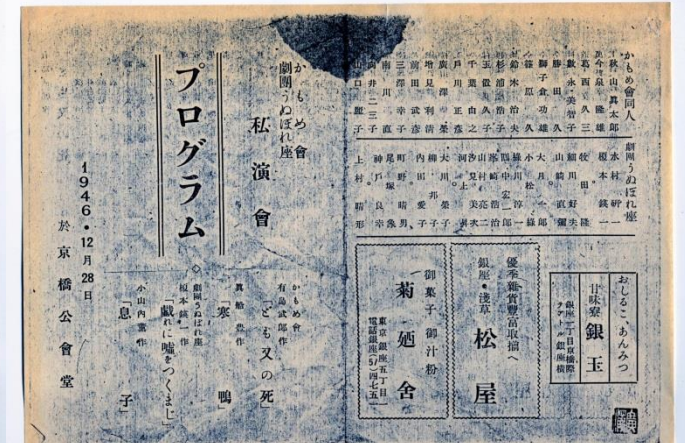
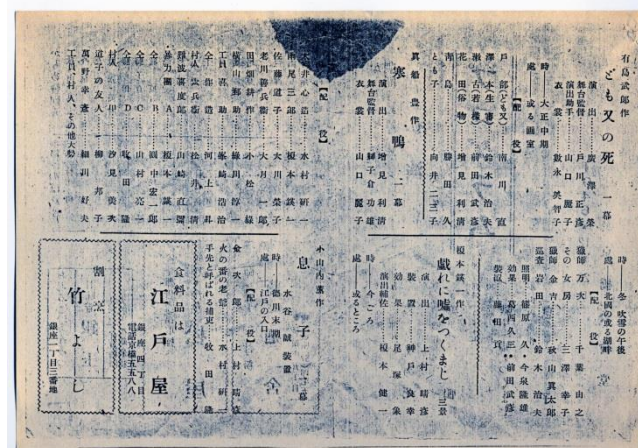


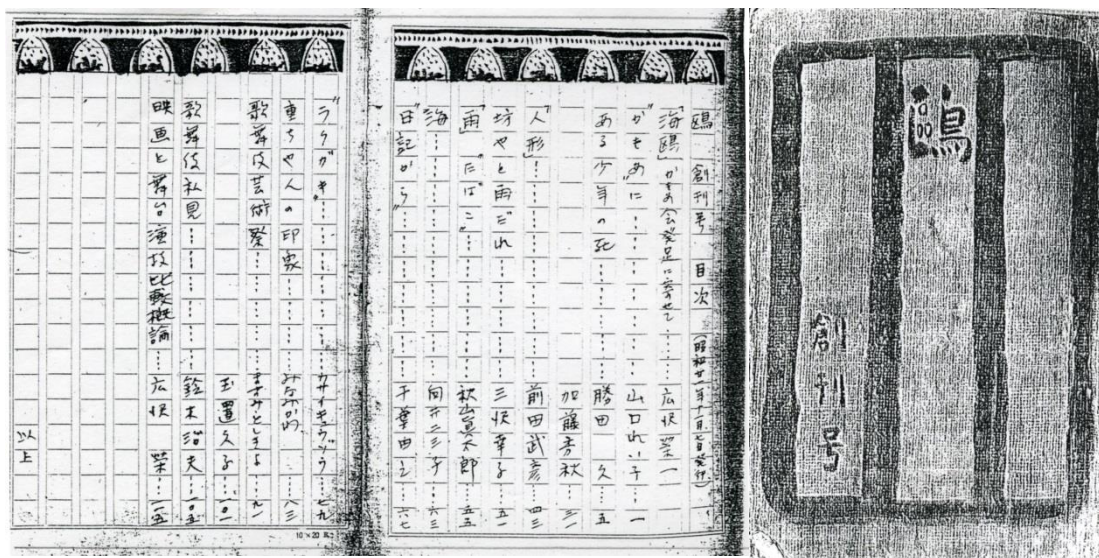
真船豊作「寒鴨」出演。

三沢幸子、鈴木治夫、千葉由幸

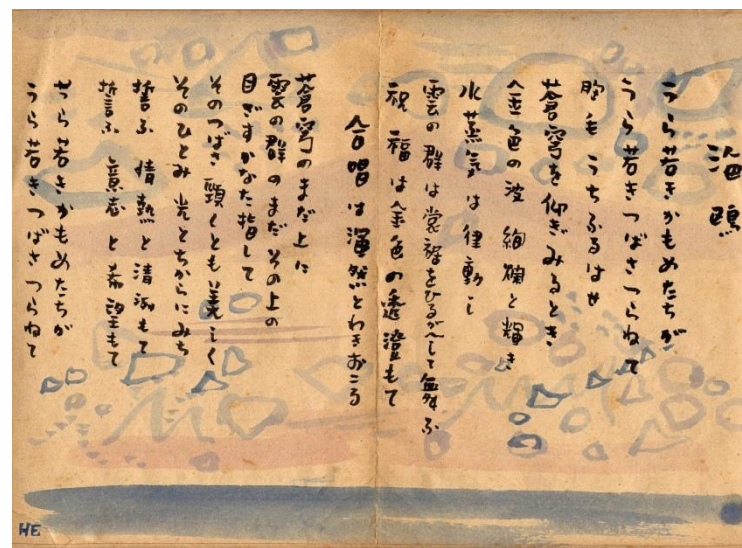
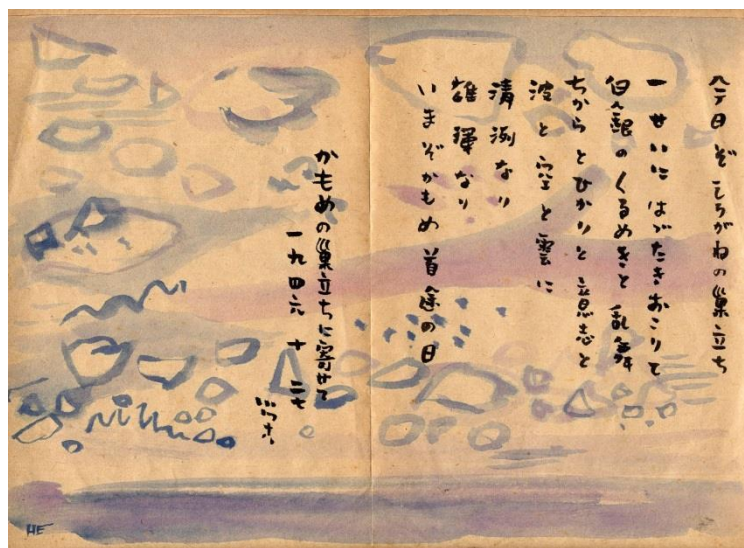


プログラム「ども又の死・寒鴨」昭和21年12月28日京橋公会堂にてエノケンの「うぬぼれ座」と折半公演。貧しい学生劇団の「かもめ座」は泥絵の具で描いた背景を大きな筒に丸めてみんなで担いで新橋駅から京橋公会堂まで運ぶという姿であった。(広澤榮記)





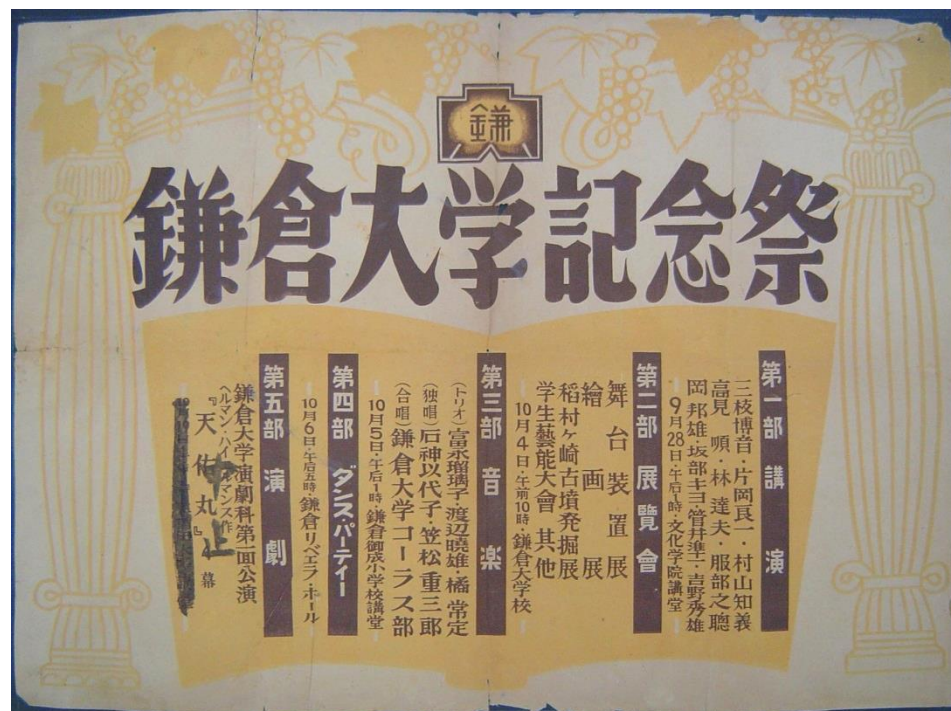
「鳥」創刊号(昭和21年11月7日 編集 鈴木治夫 発行かもめ会) 演劇科1期生の中で早くも勉強会が始まり、6月25日「父帰る」の試演会が開山堂で行われた。その時の感動は広澤榮の『わが青春の鎌倉アカデミア』などに詳しい。10月には「かもめ会」を立ち上げ、「ども又の死」の稽古に入るなどグループ活動が盛んで、このような同人誌も作られた。しかし紙もなく、ガリ版刷りのための原紙も入手できなかったので、原稿そのものを綴じて同人のまわし読みとなす回覧雑誌となった。なお「かもめ」は3号まで続いた。



八. 思い出「鎌倉大学一周年記念祭」

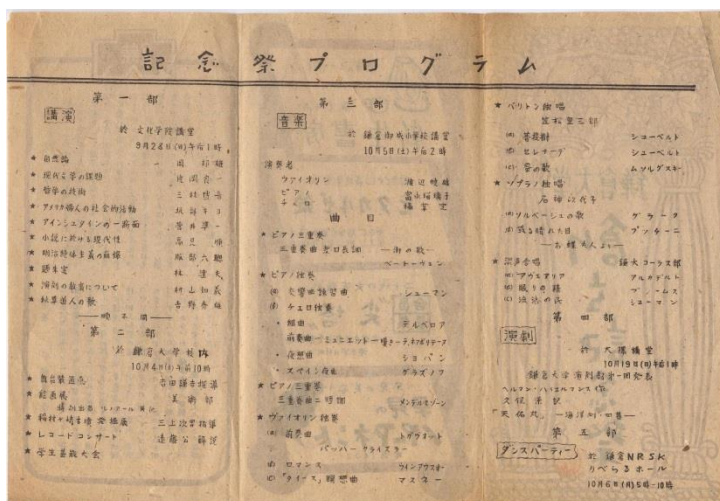


鎌倉大学創立記念祭プログラム



鎌倉大学記念祭ポスターとプログラム

「昭和22年10月、創立一周年記念祭が行われ、教授も生徒も一体になって大忙しでその準備を行った。このポスター、プログラムのデザインは演劇科の鈴木治夫と私が共同で描き、新橋にあった国電中吊り広告業者まで駆けこんだ記憶がある。」(演劇科1期 廣澤榮記・資料提供廣澤淑子氏)





鎌倉大学一周年記念祭 学生世話役グループ



光明寺総門にて 創立一周年記念祭役員一同
 前列左より 秋山真太郎、宮野澄、平野二郎、増見利清、有馬誠
 二列目左より江島良、宮川晟、古沢芳枝、伊藤徳子、安川嘉子、広澤榮、
 三列目左より山口誼孝、山口瞳、斉藤翰、花岡太郎、亀順彦



光明寺本堂階段にて
前列左より三枝博音、服部之總、三上次男、吉野秀雄各教授
二列目左より二人目田辺寿利教授



稲村ヶ崎古墳発掘展(光明寺本堂にて) 左端三上次男教授



記念祭絵画展 ルノアールの絵の前で高見順講師



ルノアールの絵の前で 左より加藤茂雄(演Ⅰ)長島伊佐(文Ⅱ)宮川晟(演Ⅰ)渡辺信一(演Ⅰ)関政雄(演Ⅰ)



リベエラホール(鎌倉市長谷)で行なわれた記念祭ダンスパーティー
中央で挨拶するのは久米正雄氏、その左に専務理事山口正雄氏、三枝博音校長。



コーラス部(御成小学校講堂にて)



演劇科舞台装置展(光明寺開山堂にて)

◆ 思い出「春のめざめ」

学生たちの「実際に芝居をやりたい」という気持ちは抑えがたく、開講後たった2年足らずの昭和23年3月、東京のど真ん中で発表公演ということになった。演劇科教授村山知義は「この試みは演劇修行の一つの道程である。ここまで出来上がったからお見せしよう、というのではなく、私たちは今、このへんを勉強中なのですよという一つの報告であるに過ぎない。」という、遠藤慎吾は「学生は基礎学科を嫌がって芝居ばかりしたがる。…学生たちの要望もだし難く今度の公演ということになったのだから、これは中々の冒険である」と学生たちの気をひきしめている。一方三枝博音校長は、「ものを截然と明るく、物の綾を性格につかむ感受力をもっていた古代ギリシャ人たちが自分たちの思想をはつきりと表現しようと思うとき、Drama というものを重んじるようになったことはまことに自然のことだと考えられます。」と、からだを動かし「振舞う」ことが人間を抽象世界にのみ生きる怠惰から救ってくれるものと独特の応援の言葉を「パンフレット」に残している。



「春のめざめ」プログラム



「春のめざめ」チケット



演劇科第1回研究発表公演「春のめざめ」ポスター

「春のめざめ」稽古風景 光明寺演劇科教室



演劇科教室にて 中央は村山知義先生、その右は遠藤慎吾先生



立ちげいこ 中央は 遠藤慎吾先生



演劇科教室にて本読み



「春のめざめ」舞台稽古



小学校講堂で通し稽古 中央正面は村山知義先生



「春のめざめ」の公演会場 日劇小劇場



日劇小劇場前で、加藤茂雄(左・演劇科1期)と高松英郎(演劇科2期)



稽古の合い間に
演劇科1期生全員が光明寺庭で



「春のめざめ」を終えて
鎌倉若宮大路割烹「一力」に集まる。前列
中央左より服部之總氏、山口正雄氏(専務
理事)、三枝博音校長、遠藤慎吾氏。

◆ 思い出「卒業式」

アカデミアの卒業式は全部で3回行われた。昭和24年3月19日、25年3月11日、そして廃校前の繰り上げ卒業が25年9月10日であった。

第一回卒業生は専門部課程を終えた産業科、文学科、演劇科の一期生97名。内訳は文学科40人（女14人、男26人）、演劇科23人（女1人、男22人）、産業科34人（女1人、男33人）である。（自治会誌『芸術創造』より）

卒業証書第1号を手にした産業科1期生栗屋良太氏は卒業生を代表して次のような答辞を述べた。「……戦前では考えられもなかった自由な学園、既存の大学には見られない教授と学生の膝つき合せての学問の場を、いま私たちは巣立つて行く。光明寺本堂の暗い裸電球のもと、熱っぽく講義された先生たち、目の色を変えて論じあつた仲間たちのことを、私たちは決して忘れないだろう。在校生の諸君は、鎌倉アカデミアの一員となつたことを誇りとし、卒業する私たちも胸を張って社会生活へすすんで行きたい。三枝学校長のほんとうに勉強する場所は社会に出てからだという言葉に銘じ、明日に向かってしっかりと生きていきたい。」と。また栗屋氏は次の年も、第2回目の卒業生に対して社会人として送る言葉を述べている。栗屋氏は凸版印刷に入り30年、グラフィックデザイナーの道を歩み、新しい人材を育てるために力を尽くしている。

（前川清治著『鎌倉アカデミア』ほか参照）



第一回卒業式 昭和24年3月19日、第1期生（専門部）の卒業式が映画科の教室で行われた。そののち校舎屋上で全員が記念撮影。苦難のなか第一回目の卒業式が行なえたことは、教授、学生双方にとって感慨深いことであった。



「卒業証書 文学科本科 不動治久」



校舎入り口の正面にて記念撮影。昭和24年3月19日。中央三枝博音校長の左に春木猛教授、遠藤公教授。飯田賢一、若林泰雄ら学生委員も前列に座る。



校舎正面に立つ三枝校長 (学生歌と合成写真)



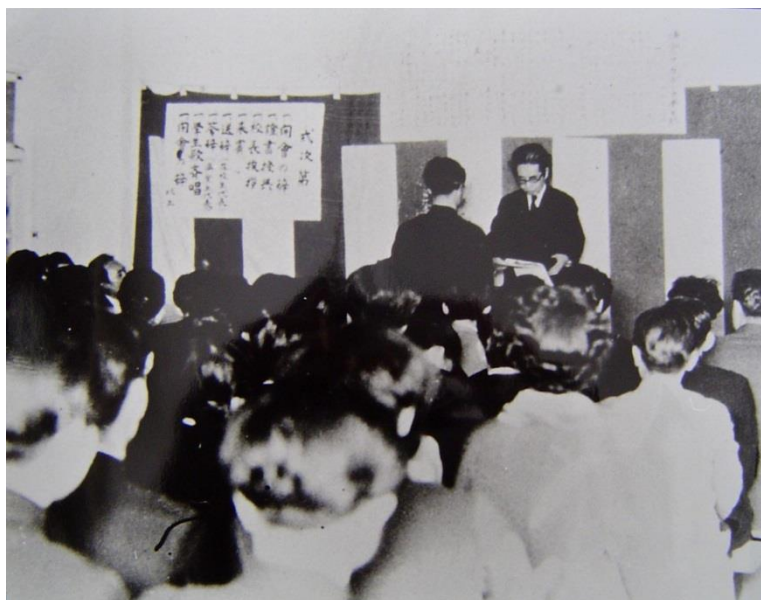
卒業式の日　　林達夫教授、坂部キヨ教授、遠藤公教授を囲んで
女子卒業生たち



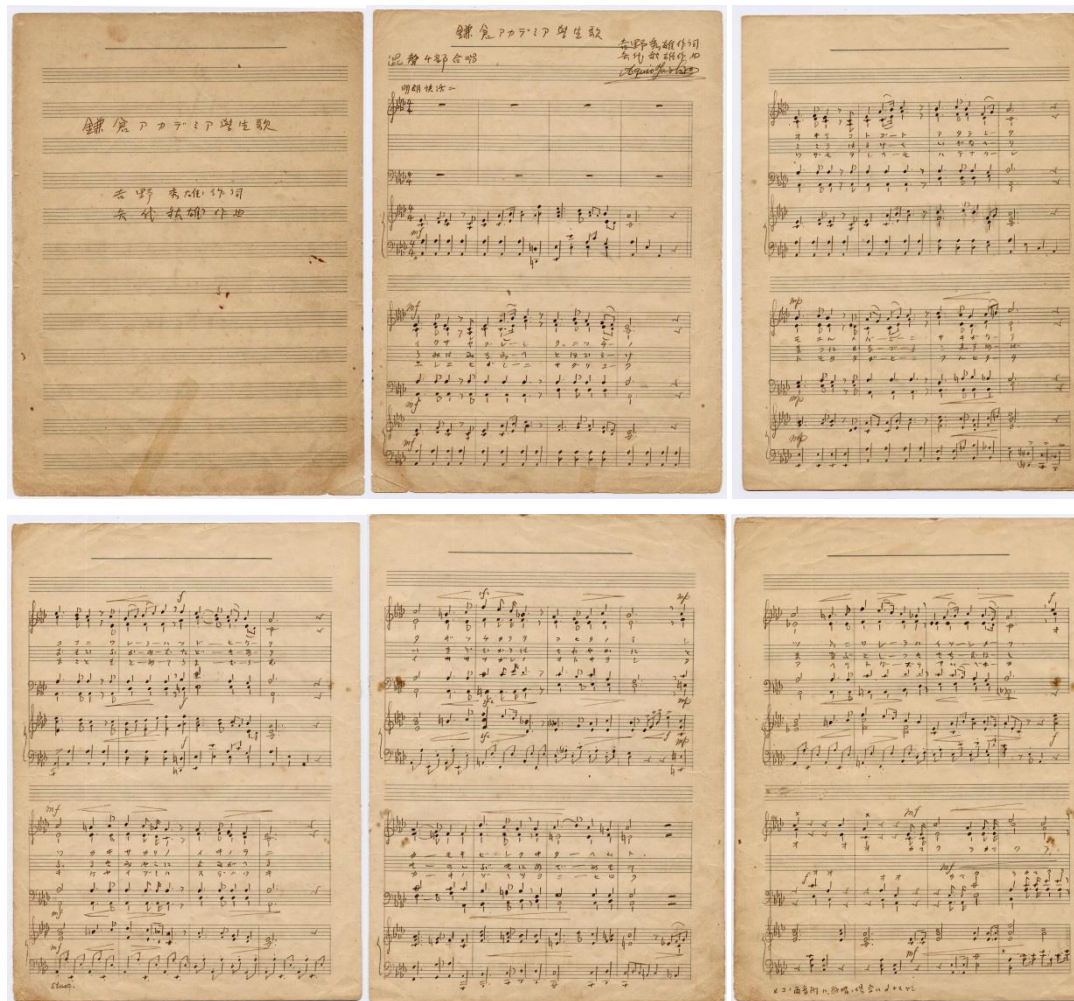
保土ヶ谷グループ 卒業式を終えて。左より飯村裕次(産Ⅰ)、佐川昭
(産Ⅰ)、長島伊佐(文Ⅱ)、古谷正夫(産Ⅰ)、関政雄(演Ⅰ)、稲森修
司(産Ⅰ)



前列亀順彦(左)、飯田昭治
後列森孝子、江島良



第二回卒業式(昭和25年3月11日)
証書を授与する三枝校長と答辞を読む学生。



学生歌 苦しい学校運営にもかかわらず、未来への希望を託して、情感あふれる「鎌倉アカデミア学生歌」が生まれる。昭和24年3月の第一回卒業式に初めて歌われた。歌人吉野秀雄作詞、若き作曲家矢代秋雄作曲。以後同窓生の集まりには必ず合唱される。「校歌」ではなく「学生歌」というところに新しさを出している。

◆ 思い出「同窓会」



お花見会 昭和27年(1952)4月6日
鎌倉山わかもと別邸(旧長尾美術館)にて



閉校二十年記念同窓会 材木座
光明寺にて
昭和45年(1970)11月7日



「夕刊フジ」に「無冠の寺子屋大学……あす初の同窓会」と大きく取り上げられた。



第二回光明寺同窓会 昭和49年(1974)6月15日

この場所で「鎌倉アカデミア史」編纂について提案され、もと教授・学生から活発に意見が出された。

「断固、自力でやるべし」「まわりから希望する声がある」など熱く討論し、涙する場面もあった。



NHK テレビ スポットライト「われら鎌大生」 昭和50年(1975)3月6日

写真左から足立麗子(花柳流)・南川直(俳優)・高松英郎(俳優)・勝田久(声優)・いずみたく(作曲家)・前田武彦(放送タレント)

この頃から鎌倉アカデミアはテレビラジオでよく取り上げられるようになった。

「教育の原点」NHK 教育 昭和50年(1975)11月27日

「ふるさとの証言・鎌倉アカデミア」NHK 教育 昭和56年(1981)9月29日

その他



創立三十周年記念恩師謝恩会のお知らせ

日時 九月二十六日(日) レセプション 午後四時～七時頃まで
 会場 油壺シーボニアヨットハーバークラブハウス
 交通 京浜急行(都営地下鉄新橋又は品川横浜各駅より)
 特急直通 三崎口下車 タクシー約十分又はバス
 会費 四千円
 なお当地はいずみたく、前田武彦両氏のレジャー基地でもあり別荘、ヨットなどを前夜から提供するとの申出があり、すでに恩師始め地方の同窓の方々が御宿泊希望をよせておられますので御都合のよい方はぜひどうぞ

世話人 同窓生有志一同

鎌倉アカデミアの会事務局

◎ 当日スライドによる鎌倉アカデミア三十年史を上映の予定
 又編纂中のアカデミア史についての御報告もいたします

創立30年記念同窓会 昭和51年(1976)9月26日 油壺「シーボニア」にて
 ご健在の教授や教授の奥様たちを招いて、いずみたくや前田武彦が船を持っていた油壺で盛大に行われた。
 創立30年記念行事は秋からの「鎌倉アカデミア四季講座」へと続く。連続4回行われた。

四季講座

鎌倉アカデミア創立30年を記念して鎌倉で連続講座が行なわれた。講師にはもと教授や著名な文化人をお願いし、全国的に宣伝された。参加者から詳しい感想やアンケートも取っている。

鎌倉アカデミア四季講座

知性の輝きと ふくよかなあたたかい心
—寺小屋の伝統をいま、ふたたび—

創立30周年記念 VOL. I

会場 北鎌倉 建長寺〈紫雲閣〉

司会 野崎 茂

11月27日(土) PM1:00~ 11月28日(日) PM1:00~

講 師	テ ー マ	講 師	テ ー マ
飯塚 友一郎 (現代教授) (二松学舎大・日大)	ご あ い さ つ	—	—
遠藤 慎吾 (共立女子大)	鎌倉アカデミアについて —教育の原点—	飯田 賢一 (早稲田大・東亜工大)	三枝博士先生の技術思想 —技術と文化と詩—
野崎 茂 (東大・共立女子大)	三枝博士先生の人の思想	山田 宗睦 (信 学 者)	日本人のこころ
加藤 秀俊 (学習院大)	東西比較文化論	宇井 純 (東大・工学部)	世界の環境汚染と ビューマニズム

来聴歓迎 会 費……11月27・28日 各1,000円 当日会場受付先着順メ
お問合せは……東京都中央区銀座8-7-5 金春ビル4 F(571) 2401
3518
鎌倉アカデミアの会事務局
主 催……鎌倉アカデミアの会
後援・協賛……

第一回鎌倉アカデミア四季講座
「三枝先生の人と思想」
(1976・11・27~28 於建長寺)

鎌倉アカデミア四季講座

知性の輝きと
ふくよかなあたたかい心
—寺小屋の伝統をいま、ふたたび—

7月9日(土) PM1:00

会場・鎌倉二階堂 瑞泉寺

☎0467-22-1191

交通→鎌倉駅裏口より大塚宮行バス終点

VOL. III 吉野秀雄の人と歌(1)

講師 田村隆一 (詩人)

司会 ■ 十時敬介

なお、当日同寺にて午後3時より、第十回神心忌(吉野秀雄忌)が営まれます。
ぜひ、ご参加ください。

来聴歓迎 会 費……1,000円 当日会場受付満員次第メ
お問合せは……東京都中央区銀座8-7-5 金春ビル4 F(571) 2401
3518
〒104 鎌倉アカデミアの会事務局

主催 鎌倉アカデミアの会

第二回鎌倉アカデミア四季講座
「高見順論」(1977・4・23~24
於東慶寺)

鎌倉アカデミア四季講座

知性の輝きと
ふくよかなあたたかい心
—寺小屋の伝統をいま、ふたたび—

VOL. II 高見順論

会場 北鎌倉 東慶寺

☎0467-22-1663

4月23日(土) PM1:30~

4月24日(日) PM1:30~

講 師	テ ー マ	講 師	テ ー マ
小田切 進 (芝罘大学助教授) (芝罘大学助教授)	高見順論(1) —高見順の遺したモノ—	田村 隆一 (詩 人)	高見順論(2) —詩人の魂—
高見 晶子 (立教大学)	—あれこれ—	全員参加 による	シンポジウム

来聴歓迎 司会 ■ 堀内 達夫・野崎 茂
会 費……4月23・24日各1,000円 当日会場受付満員次第メ
お問合せは……東京都中央区銀座8-7-5 金春ビル4 F(571) 2401
3518
〒104 鎌倉アカデミアの会事務局

主催 鎌倉アカデミアの会

第三回鎌倉アカデミア四季講座
「吉野秀雄」
(1977・7・9 於瑞泉寺)

鎌倉アカデミア四季講座

Men pirates favorite VOL. IV
道化の系譜

構成・吉田謙吉

監修・林 達夫

ギリシヤ・ヘルネッセン—現代に至る道化
の歴史の考察—コレクションと創作によ
る、その抵抗の精神史—

会場／銀座サイセリヤ

9月23日(日) 24日(土) 25日(日) 開場 PM1:00
PM9:00

■ 席券・PM5:00よりシンポジウムとパントマイム(12:00, 12:30, 13:00) 音楽 いずみ・たけ

23日 ショータイムに道化

三神 勲(立教大) 増見 利清(立教大) 清水 浩二(立教大)

24日 ミニシアターの道化たち

高橋 康也(立教大)

25日 コメディ・アカデミアから現代まで—VIVA! 道化—

小堀 謙三(立教大) 及川 廣信(立教大)

■ 会費／各日¥1,500 (DRINK & SNACK 別) 定額¥1,000—税3月間通し ¥4,800

来聴歓迎

〒571/2401

■ お問合せは／東京都中央区銀座8-7-5 金春ビル4 F ☎571/3518

〒104 鎌倉アカデミアの会事務局

主催 鎌倉アカデミアの会

第四回鎌倉アカデミア四季講座
「道化の系譜」(1977・9・23~25
於銀座サイセリヤ)

閉校30周年記念の集い

案内状



鎌倉アカデミア閉校30周年記念の集い

1950年秋、私共の母校鎌倉アカデミアは、その短い歴史を閉じました。以来、時移り借別の日よりすでに30年の月日が流れ去りましたが、在学当時の貴重な青春の日々の体験は今なお心のふるさととなり、ひとときも忘れ得ぬ誇りとして胸中に生き続けていることと思います。

晩秋の一日、母校で往時を偲び、ぜひ再会の喜びを味わいたい次第です。苦難の学校運営に尽力された創立者の方々と恩師・諸先生もお招きしてあります。

また、三枝校長始めユニークな教育実践に献身された物故教授のご遺族の方々もお招きして、感謝をこめてさゝやかながら追善の法要も一同でお贈りしたいと思います。

ぜひご参加下さい。お誘い申し上げます。

世話人

●演劇科

いずみ・たく
勝田久保
川口和慶
木地本一
菊流上村
津野俊利
浜見清人
増内雅

●文学科

飯田賢一
伊藤昭二
阪下圭八
相馬繁治
不宮動久
安野久澄
吉川嘉子
田政雄

西史朗
野崎茂
服部孝
古谷正
●映画科
飯塚増
小此辰
木原昭
栗原清
鈴木百
藤井太郎
(五十音順)

●産業科

飯森修
齊藤司
藤

鎌倉アカデミアの会事務局

TEL: 571-3518 十時敬介・嶋島桂次郎



鎌倉アカデミア閉校 30 周年記念の集い 昭和 55 年 (1980) 11 月 1 日 光明寺開山堂にて

30 年の月日は、かつての青年たちをたくましく鍛え、彼らは新しい社会で地歩を固めていた。故人となられた三枝博音校長、高見順氏、吉野秀雄氏を偲びながら、ご健在の恩師たちとの再会を歡び合った。

記念の集い



遠藤慎吾先生古希のお祝い。俳優座増見利清氏「テアトロ賞」受賞を祝う会。
昭和59年(1984)1月21日



「戦後50年と鎌倉アカデミアを語るシンポジウム」
平成6年(1994)10月29日 鎌倉商工会議所において



鎌倉アカデミア記念碑建立 平成8年(1996)5月14日 材木座光明寺において
開校50周年を祝って「ここに鎌倉アカデミアありき」国文学者西郷信綱氏揮毫
左より亀順彦(産I)、増見利清(演I)、加藤茂雄(演I)、西郷信綱先生、宮野澄(文I)の各氏



鎌倉アカデミア記念碑除幕式 平成8年5月14日 於 浄土宗大本山光明寺

九・卒業生のプロフィール

アカデミア60年を生きて

飯田賢一

(文学科 1期生／科学技術史研究家)



「教育工学新聞」1992・5・27 (上)(中)(下)連載の5頁(上)

飯田賢一

(文学科 1期生 大学教授・技術史)

「戦時下の技術教育を受け、すでに研究機関で働いていましたが、あらためて学問を求めて日本科学史、技術史分野の開拓者としての三枝博音、飯田賢一、岡田謙、今野武雄等の諸先生のちとへ迷わず行き着いた。」 三枝博音に師事して生涯学究の道を歩み続けた。



「関西・産業アカデミア」講演 (1999・2・22) 鎌倉市中央図書館にて



荒井満枝

(演劇科 1期生／日本舞踊家)



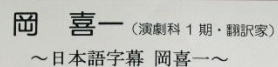
「寝機市」(謡曲「隅田川」より) 花柳寿位彦
平成16年6月、新橋演舞場において

荒井満枝 (演劇科 1期生)

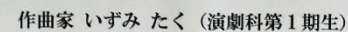
「小さい時から日本舞踊の世界にいまして、今も元気に仕事をしています。アカデミアの遠藤恒吾先生の『俳優術』の教えは睡りの中でも生きています。楽しい思い出は、母富士野萬枝 (松竹女衛) に贈られた般若を演劇科のみなさんが「父帰る」の舞台で使ってくれたことです。般若には新劇の小山内薫や長田秀雄の名前が入っていたので広徳さんたちがとても喜んでくれました。」

「1周年記念祭の日に渡り廊下で、長姐にある「学習い子」を贈った思い出があります。境内が観客席でした。」

(演劇科 1期生／翻訳家 映画テレビ字幕)



(演劇科 1期生／作曲家)



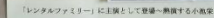
加藤茂雄
(演劇科 1期生／俳優)



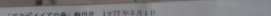
勝田 久
(演劇科 1期生／俳優 声優)



(演劇科 2期生／俳優 青年座)



(映画科 2期生／国際経済学第3世界論)



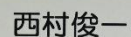
鈴木清順
(映画科 1期生／映画監督)



後藤泰隆
(演劇科 1期生／影絵劇「かかし座」創立)

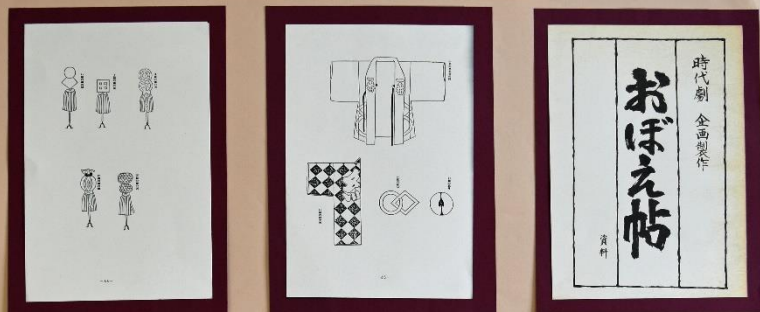


(演劇科 2期生／プロデューサー)



(演劇科2期生・CALプロデューサー)

「大岡越前」「水戸黄門」など時代劇の制作に活躍



時代劇のバイブル『おぼえ帖』をC.A.2で中心となって、制作した。



開校 20 周年記念同窓会 昭和 45 年(1970 年)11 月 7 日



インタビュー「水戸黄門と十年」(雑誌『スラマ』1989年2月号より)



第一回 回寒舍

(演劇科 1期生／演劇科 演出家「前進座」)



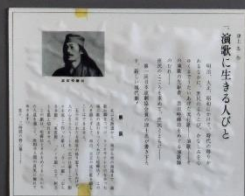
中村梅之助＝川越の源太、村田吉次郎＝のっそり十兵衛、
中村錦之助＝節子と大



『五重塔』 ロケハン（記から2人）



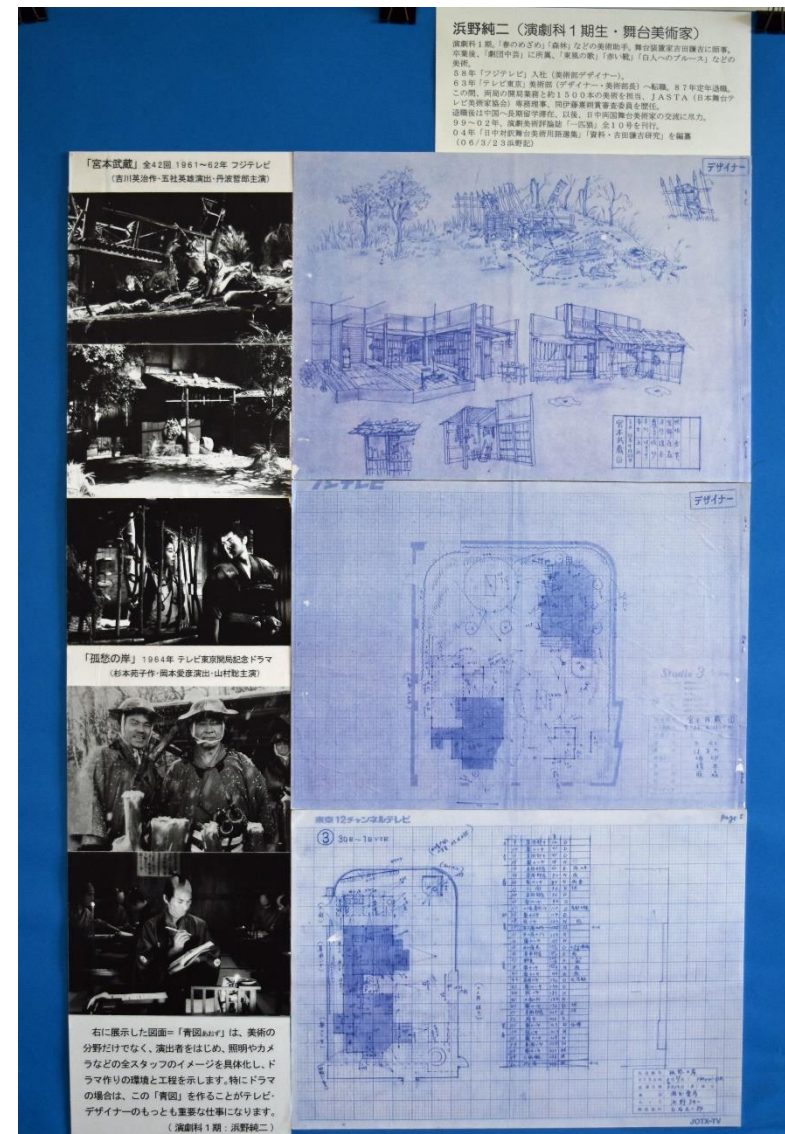
『出雲の阿国』 いまむらいずみ-阿国-



前田武彦
(演劇科 1期生／放送タレント)



浜野純二
(演劇科 1期生／舞台美術家)



向井二三子

(演劇科 1期生／女優 料理教師)



増見利清

(演劇科 1期生／舞台演出家「俳優座」)



山口 瞳
(文学科 1期生／作家)



安田 昇
(産業科 1期生／実業家)



十. 鎌倉大学(アカデミア)略年表

年	月	日	内 容	出典資料
1946	1	23	市民グループ「鎌倉文化会」教育部会にて、大学創立準備委員と創立趣旨が決まる。	木村彦三郎日記
	3	17	「鎌倉大学校創立」の記事が出る。	神奈川新聞
	3	31	「私立鎌倉大学校」認可される。(指令教第 445 号)	神奈川県公報千九百八号
	4	17	鎌倉大学第一回入学試験が実施される。	木村彦三郎日記
	4	25	教授会が開かれる。	木村彦三郎日記
	5	6	鎌倉大学校開校式。	津上忠日記・合格通知など
	6	17	最初の全科学生大会(暑中休暇、制服制帽などについて)	野崎茂日記
	6	25	演劇科学生、第一回試演会「父帰る」(光明寺開山堂にて)をおこなう。	津上忠日記
	7		学生からの不満(制服制帽希望、大学構想の実現について)が飯塚学長排斥運動に発展。飯塚氏辞任(15日)。三枝博音校長に推される。	読売新聞昭和21年8月4日
	8	31	三枝博音、校長認可申請提出。	神奈川県指令第336号文中
	9	2	二学期開始 三枝博音新学校長就任挨拶。	山根清道日誌(教務メモ)
	9		演劇サークル「かもめ会」誕生。サークル「唯物論研究会」結成	
	9	23	学生大会開催(学生自治会設立準備委員決定、柔道部設立可決、水曜日休日廃止、始業9時決定)。	野崎茂日記
	11	11	帽章・バッヂを制定委員会にて決定。	学生自治会報 創刊号
	11	22	学校側と学生委員との懇談会開く。(三枝校長所信披瀝)	野崎茂日記
1947	1	12~19	「政治経済思想冬期講座」開講。(於神奈川師範学校)	「高見順日記」
	1	13	高見順、大学への出講受諾。	「高見順日記」
	1	22	鎌大再建委員会にて久枝理事長と会見。学生側、切に大学令認可を望むことを主張。	野崎茂日記
	3	31	三枝校長認可される。	神奈川県指令 336 号
	4	1~ 3	入学試験実施(在生も立ち会う)	
	5	2	高見順「小説技術研究」の講義始める。	「高見順日記」
	5	15	三枝博音、「哲学研究会をつくれ」とよびかける。	高瀬「鎌倉アカデミア断章」

1947	7		三上次男、学生ら姥ヶ谷横穴古墳群発掘。	春木猛書簡（鎌倉図書館宛）
			この間、三枝学長、大船の海軍燃料廠跡借用申請のため GHQ 関東軍政府本部と大蔵省へ働きかけ（春木、坂部両教授通訳）、また借り受けの副申を受けるため、区、市、県、文部省へ学生と共に 100 回以上足を運ぶ。	「鎌倉大学廃校始末記」
	9	28	鎌大一周年記念祭開催（第一部～第五部）	記念祭ポスターほか
	12	5	神奈川県教育部長より学校の名称変更要請。	二十二学八五九号
1948	3	15	フランクヴェデキント作「春のめざめ」公演。 演出村山知義・日劇小劇場	ポスター・プログラム
	4		大船へ移転し「鎌倉アカデミア」と改称。新大学令に準じ 4 年制学校となる。「映画科」新設、「産業科」は「経営科」に科名変更。「各国の文学作品に出てくる草木の植物園をつくろう」と夢を語る。 鎌倉アカデミア学生歌できる。作詞：吉野秀雄 作曲：矢代秋雄	「鎌倉大学廃校始末記」
	5	1	入学式	
	6	4	大船合併祝賀祭典仮装行列に演劇科 3 期生参加受賞。	
	7 8	中旬～	演劇科学生、大日本紡績工場（関西～関東）を移動公演。 モリエール「タルチュフ」改作、マルセルパニョール「ファニー」翻案など上演。	
	11		「昭和 23 年の後半より 24 年前半にかけて、鎌倉市及び横浜市において、学校確立の資金を提供する篤志の人を求めることに画策奔走……この地に求められることは至難であることがわかりました」	三枝「校舎借用料の完全支払の不可能についてお願い」
1949	3	19	第一期生（専門部）卒業式	
	4	10～11	入学試験	
	6	23	全学生大会	Academia Times No.3
	8	30	私立二松学舎との合併案発表される。	あかでみあ 10 月号
	9	3～ 5	演劇科卒業生で「鎌倉アカデミア実験劇場」設立。 喜劇「エピソード」を公演（於鎌倉市民座野外劇場）	公演パンフレット
1950	2		「新制鎌倉大学設立寄付」協力依頼始める。（大映永田社長より寄付金）	芳名帳
	8	13	全学生大会（学校の存否を決するため） 同窓会開催（母校経営最後の判断のため）	葉書（学生自治会・同窓会）
	9	10	鎌倉アカデミア閉校。 卒業式举行	葉書（教務課）
	9	10	廃校の「ご挨拶」（三枝博音）	
1951	2	1	三枝博音、雑誌『中央公論』にて「鎌倉大学廃校始末記－風評、大学をつぶす」を発表。	
1952	4	6	「鎌倉大学」同窓会開催。 於鎌倉山長尾美術館（わかもと別館）	葉書（同窓会）

1952	4		三枝博音「東西文化交流研究所」をつくる。 理事石橋湛山他 飯田賢一、野崎茂、宮川晟ら研究員に（1956 年秋まで存続）	飯田賢一「人物書誌大系 27 三枝博音」
1961	10	22	三枝博音、横浜市立大学学長に就任。	
1963	11	9	三枝博音、日本学術会議主催「科学史・科学基礎論シンポジウム」に参加。 日本科学史学会総務委員会主宰の帰途、横須賀線で「鶴見事故」に遭遇し事故死。	
	11	25	三枝博音、横浜市大大学葬が行なわれる。	
1968	7	6	吉野秀雄追悼、第一回「艸心忌」が開催され、瑞泉寺門前に歌碑除幕。	
1970	11	7	廃校二十年記念同窓会開催（於光明寺）	夕刊フジ 11 月 7 日
1975	3	6	NHK テレビ スポットライト「われら鎌大生」放映。卒業生出演	
1976	9	26	創立三十周年記念パーティーを開く。（於 油壺シーボニア）	
	11	27～28	第一回鎌倉アカデミア四季講座「三枝先生の人と思想」開催（於建長寺） その後、「高見順論」「吉野秀雄の人と歌」「道化の系譜（吉田謙吉）」「古事記の時代」など第 五回まで開催。	鎌倉アカデミア同窓会名簿 講座案内用チラシ
1980	11	1	閉校三十周年同窓会開催（於光明寺）	サンケイ新聞 10 月 31 日
1994	10	29	「戦後五十年と鎌倉アカデミアを語るシンポジウム」開催（於鎌倉商工会議所ホール）	
1996	5	14	鎌倉アカデミア記念碑建立（於材木座光明寺） 開校五十周年を祝って「ここに鎌倉アカデミアありき」国文学者西郷信綱揮毫	
2006	5	13～14	「鎌倉アカデミア創立 60 年記念ー市民と語る集い」開催（於材木座光明寺）	
2007 2015	5 5	～	「鎌倉アカデミアを伝える会」開催（第 1 回～第 9 回） 材木座光明寺にて毎年開催。 第 10 回は、創立 70 周年記念祭となる。	
2013	10	15～30	横浜市立大学が「三枝博音没後 50 年記念事業。 三枝博音回顧展・記念講演」開催	
	11	10	「三枝博音先生没後 50 年記念誌 三枝博音 大学と思想」 発行：横浜市立大学学術研究会	
2016	6	4	「鎌倉アカデミア創立 70 周年記念祭」開催（於材木座光明寺）	

参考：「鎌倉近代史資料第十二集 青春鎌倉アカデミアー「鎌倉大学」の人々ー」1997 年 3 月